

令和 7 年度 横浜システム工学院専門学校

工業専門課程 1 年次 シラバス

れいわ ねんど
令和 7 年度シラバス

				たんとくきょういん 担当教員		じつむけいけん 実務経験	
				たんじ えみこ 丹治 恵美子		○	
たいしょうがつか 対象学科	■IG ■AI ■GS □BD □GB □IL						
かもくめい 科目名	コンピュータリテラシーa						
ねんじ 年次	1 年	かいこうき 開講期	だい 1 期	くぶん 区分	ひつしゅう せんたく ひつせん ☐ 必修 ☒ 選択 ☐ 必選	じゅぎょうじすう 授業時数	18 じかん 時間
じゅぎょう 授業 とうたつもくひょう 到達目標	さいしゅうきじゅぎょう とうたつもくひょう 【最終期授業の到達目標】 つかいかた もじにゅうりよく きほん かんするこうぎおよび じっしゅう おこな パソコンの使い方や文字入力の基本に関する講義及び&実習を行う。 こうぎ じっしゅう おこな Officeソフト（Word）について講義及び実習を行う。 とうきじゅぎょう とうたつもくひょう 【当期授業の到達目標】 そうさ つか パソコンの操作、Officeソフト（Word）を使いこなせるようになる。また、がっこうせいかつ学校生活に ひつす そうさ つか おいて必須となるメール操作やクラスルームを使いこなせるようになる。						
じゅぎょうがいよう 授業概要	しょう さまざま さくせい じゅうようじこう コンピュータを使用し、様々なドキュメントを作成しながら、重要事項・ポイントを りかい えんしゅうけいしき しゅ じゅぎょうけいしき 理解する演習形式を主とした授業形式とする。						
じゅぎょう 授業の うんえいほうほう 運営方法	たいめんじゅぎょう よてい ばあい たいめん へいよう 対面授業の予定(場合により、対面とオンラインの併用) かくしゅう じゅぎょうないよう じゅうようじこう しょうてん あ えんしゅうちゅうしん じゅぎょうけいたい 各週の授業内容における重要事項・ポイントに焦点を当てた演習中心の授業形態。						
たんとくきょういん 担当教員 からの メッセージ	かくしゅう じゅぎょうないよう じゅうようじこう えんしゅう と おしたせつめい 各週の授業内容における重要事項・ポイントは演習を通した説明となります。 しりょう しょう め もとう の こしたい ばあい かくじ じぶん わ かり や すい 資料を使用することもあります、メモ等を残したい場合は、各自、自分が分かりやすい ほうほう もちいて 方法を用いてください。						
りかいど 理解度 てすと かだい テスト、課題	まいかい えんしゅうもんだい おこな てきぎ りかいど かくにん しょう かだい じっし よてい 毎回 演習問題を行い、適宜、理解度を確認するための小テスト・課題を実施する予定。 てすと かだい じゅうようじこう かんして かくにんもんだい かいとうていしゅつよう ひょうか しょう また、Google Formsにて重要事項に関しての確認問題の解答提出要(評価シート使用)						
ていきしけん 定期試験	じゅけんし かく しゅつせきりつ いじょう かくせい 【受験資格】 出席率70%以上の学生 しけんほうほう じつぎしけん おこな 【試験方法】 実技試験にて行う						
せいせきひょうか 成績評価の ほうほう きじゅん 方法・基準	ほんこう せいせきひょうか きじゅん およ ひょうか もと とうたつもくひょう たっせいど つぎ ほうほう ひょうか 本校の成績評価基準 及び 評価シートに基づき、到達目標 達成度を次の方法で評価する。 ていきしけん りかいど じゅぎょう とりく じゅぎょうたいど えんしゅう しせい ・定期試験50%、理解度テスト40%、授業への取り組み(授業態度や演習への姿勢)10%						
オフィス アワー	せつてい オフィスアワーは設定していませんが、しつもんなどご質問等がある場合は授業後にお声がけいただく か、メールでれんらくご連絡ください。						
きょうざい 教材	ひつよう ばあい はいふ 必要な場合、配付します						
さんこうしょ 参考書	とく 特になし さんこう じゅぎょうない しょうかい 参考になるものがあれば、授業内で紹介します						

科目名	コンピュータリテラシーa	担当教員	丹治 恵美子
授業計画			
回数	内容	ALの形態	授業の狙い
1週目	学習環境、内容及び進め方についてのガイダンス 文字入力の基本、タイピング練習(mikatype他)	事前学習型 授業	Wordの基本事項を 身につける
2週目	文字入力の基本、フォルダーやファイル操作の基本 スクリーンショットを使って、タイピングの結果報告書作成		
3週目	Wordの基本(レイアウト、書式設定) 一般的なビジネス文書作成		
4週目	箇条書きや表を使ったビジネス文書作成		
5週目	グラフィック要素を使ったビジネス文書作成①		Wordのビジュアル的な 表現形式等を 身につける
6週目	グラフィック要素を使ったビジネス文書作成②		
7週目	差し込み印刷機能を使ったビジネス文書		
8週目	第1週から第7週までの復習	調査学習	自分で調べる力を 身につける
	定期試験		
9週目	テストを実施後、目標の達成状況を確認し、フォロー実施	調査学習	
AL形態の内容 事前学習型授業とは：講義部分を事前学習してもらい、授業内で事前学習にもとづく演習を行わせる方法。 反転授業：動画教材により講義部分を授業外に事前学習させた上で、授業内でその事前学習にもとづく演習を行わせる方法。 双方向アンケート：授業中にIT機器やクリッカー、あるいはコメント ペーパーなどを利用して、教員と学生による双方向的な対話型を行わせる方法。 調査学習：自ら不明な部分をインターネットや授業資料から調べ理解を深める。			

れいわ ねんど
令和 7 年度シラバス

				たんとくきょういん 担当教員		じつむけいけん 実務経験	
				たんじ ねみこ 丹治 恵美子		○	
たいしょうがつか 対 象 学 科	■IG ■AI ■GS □BD □GB □IL						
かもくめい 科目名	コンピュータリテラシーb						
ねんじ 年次	1 年	かいこうき 開講期	だい 2 期	くぶん 区分	ひつしゅう せんたく ひつせん ☐ 必修 ☒ 選択 ☐ 必選	じゅぎょうじすう 授 業 時 数	18 時間
じゅぎょう 授 業 とうたつむくひょう 到達目標	(さいしゅうきじゅぎょう とうたつむくひょう) 【最終期授 業の到達目標】 パソコンを使い方や文字入 力の基本に関する講義及び&実 習を行う。 Officeソフト (Excel) について講義及び実 習を行 う。 【当期授 業の到達目標】 Officeソフト (Excel) を使いこなせるようになる。						
じゅぎょうがいよう 授 業 概 要	コンピュータを使用して、ビジュアル的に重要事項・ポイントを理解する演 習形式を主としたコースになる。						
じゅぎょう 授 業 の うんえいほうほう 運営方法	たいめんじゅぎょう よてい ばあい たいめん 対面授 業の予定(場合により、対面とオンラインの併用) かくしゅう じゅぎょうないよう じゅうようじこう 各 週 の授 業内容における 重要事項・ポイントに焦点を当てた演 習 中心の授 業形態。						
たんとくきょういん 担当教員 からの メッセージ	かくしゅう じゅぎょうないよう じゅうようじこう えんしゅう とおしたせつめい 各 週 の授 業内容における 重要事項・ポイントは演 習を通した説明となります。 しりょう しょう めもとう のこしたいばあい かくじ じぶん わかり やすい 資料を使用することもあります、メモ等を残したい場合は、各自、自分が分かりやすい ほうほう もちいて 方法を用いてください。						
りかいど 理解度 てすと かだい テスト、課題	まいかい えんしゅうもんだい おこな てきぎ りかいど かくにん しょう かだい じっし よてい 毎回 演 習問題を行い、適宜、理解度を確保するための小テスト・課題を実施する予定。 また、Google Formsにて じゅうようじこう かんして かくにんもんだい かいとうていしゅつよう ひょうか しょう 重要事項に関しての確認問題の解答提出要(評価_シート使用)						
ていきしけん 定期試験	【受験資格】 出席率70%以上の学生 【試験方法】 筆記試験にて行う						
せいせきひょうか 成績評価の ほうほう きじゆん 方法・基準	ほんこう せいせきひょうかきじゆん およ ひょうか もと とうたつむくひょう たっせいど つぎ ほうほう ひょうか 本校の成績評価基準 及び 評価シートに基づき、到達目 標 達成度を次の方法で評 価する。 ・定期試験50%、理解度テスト40%、授 業への取組み(授 業態度や演 習への姿勢)10%						
オフィス アワー	オフィスアワーは設定していませんが、ご質問等がある場合は授 業後にお声がけいただく か、メールでご連絡ください。						
きょうざい 教 材	ひつよう ばあい はいふ 必要な場合、配付します						
さんこうしょ 参考書	とく 特になし さんこう 参考になるものがあれば、授 業内で紹 介します						

科目名	コンピュータリテラシーb	担当教員	丹治 恵美子
授 業 計 画			
回数	内容	ALの形態	授 業 の 狙 い
1週目	イントロダクション Excelの基本、セル操作の基本、セルの編集	事前学習型 授業	Excelの基本事項を 身につける
2週目	表の編集、計算の基本 基本関数(SUM AVERAGE MAX MIN)		
3週目	相対参照・絶対参照・複合参照 便利な操作方法		
4週目	グラフ機能(棒グラフ、折れ線グラフ、複合グラフ等)		
5週目	シート間参照、画像・図形の挿入、シートのグループ化と解除		Excelの応用事項を 身につける
6週目	よく使う関数(IF、LOOKUP、COUNT、ROUND)		
7週目	データの抽出、データの並び替え		
8週目	第1週から第7週までの総復習	調査学習	調べる力を身につける
	定期試験		
9週目	テストを実施後、目標の達成状況を確認し、フォロー実施	調査学習	
AL形態の内容 事前 学習型 授業：教科書/参考書などにより講義部分を事前学習させた上で、授業内でその事前学習に、もとづく演習を行わせる方法。 反転 授業：動画教材により講義部分を授業外に事前学習させた上で、授業内でその事前学習にもとづく演習を行わせる方法。 双方向 アンケート：授業中にIT機器やクリッカー、あるいはコメント ペーパーなどを利用して、教員と学生による双方向的な対話型を行わせる方法。 調査学習：自ら不明な部分をインターネットや授業資料から調べ理解を深める。			

令和 7 年度シラバス

				たんとくきょういん 担当教員		じつむけいけん 実務経験	
				たんじ えみこ 丹治 恵美子		○	
たいしょうがつか 対象学科	■IG ■AI ■GS □BD □GB □IL						
かもくめい 科目名	コンピュータリテラシーc						
ねんじ 年次	1 年	かいこうき 開講期	だい 3 き 第 3 期	くぶん 区分	ひつしゅうせんたくひつせん □必修■選択□必選	じゅぎょうじすう 授業時数	18 じかん 18 時間
じゅぎょう 授業 とうたつもくひょう 到達目標	さいしゅうきじゅぎょう とうたつもくひょう 【最終期授業の到達目標】 Officeソフト（PowerPoint）について講義及び実習を行う。 とうきじゅぎょう とうたつもくひょう 【当期授業の到達目標】 Officeソフト（PowerPoint）を使い、基本的な資料を作成することができる						
じゅぎょうがいよう 授業概要	コンピュータを使用して、重要事項・ポイントを理解する演習形式を主としたコースになる。他の授業や卒業制作発表会等にて、効果的なプレゼンテーション資料作成スキルを身につける授業となる。						
じゅぎょう 授業の うんえいほうほう 運営方法	たいめんじゅぎょう よてい ばあい たいめん へいよう 対面授業の予定(場合により、対面とオンラインの併用) かくしゅう じゅぎょうないよう じゅうようじこう しょうてん あ えんしゅうちゅうしん じゅぎょうけいたい 各週の授業内容における重要事項・ポイントに焦点を当てた演習中心の授業形態。						
たんとくきょういん 担当教員 からの メッセージ	かくしゅう じゅぎょうないよう じゅうようじこう えんしゅう とおしたせつめい 各週の授業内容における重要事項・ポイントは演習を通した説明となります。 しりょう しりょう めもとう のこしたいばあい かくじ じぶん わかりやすい 資料を使用することもあります、メモ等を残したい場合は、各自、自分が分かりやすい方法を用いてください。						
りかいど 理解度 てすと かだい テスト、課題	まいかい えんしゅうもんだい おこな てきぎ りかいど かくにん しょう かだい じっし よてい 毎回 演習問題を行い、適宜、理解度を確保するための小テスト・課題を実施する予定。 じゅうようじこう かんして かくにんもんだい かいとうていしゅうつよう ひょうか しょう また、Google Formsにて重要事項に関しての確認問題の解答提出要(評価シート使用)						
ていきしけん 定期試験	じゅげんしかく しゅつせきりつ いじょう かくせい 【受験資格】出席率70%以上の学生 しけんほうほう ひっししけん 【試験方法】筆記試験						
せいせきひょうか 成績評価の ほうほう きじゅん 方法・基準	ほんこう せいせきひょうかきじゅん およ ひょうか もと とうたつもくひょう たっせいど つぎ ほうほう ひょうか 本校の成績評価基準 及び 評価シートに基づき、到達目標 達成度を次の方法で評価する。 ていきしけん りかいど じゅぎょう とりく じゅぎょうたいど えんしゅう しせい ・定期試験50%、理解度テスト40%、授業への取り組み(授業態度や演習への姿勢)10%						
オフィス アワー	オフィスアワーは設定していませんが、ご質問等がある場合は授業後にお声がけいただくか、メールでご連絡ください。						
きょうざい 教材	ひつよう ばあい はいふ 必要な場合、配付します						
さんこうしょ 参考書	とくになし さんこう 参考になるものがあれば、授業内で紹介します						

科目名	コンピュータリテラシーc	担当教員	丹治 恵美子
授 業 計 画			
回数	内容	ALの形態	授 業 の 狙 い
1週目	イントロダクション (PowerPointの画面説明、とりあえず作ってみよう)	事前学習型 授業	PowerPointのスライド作成・ 基本知識習得
2週目	基本操作(スライドの追加、レイアウト、文字入力、削除など)		
3週目	スライドデザインの設定、ヘッダーフッターなどの設定		
4週目	表やグラフを使った資料作成とアニメーションの設定		視覚化・ビジュアル化を図 り、分かりやすいスライド 作成スキルや発表スキルの 習得
5週目	画像等を使った資料作成		
6週目	スライドショーの設定とPowerPointを使った発表の基本		
7週目	プレゼンテーション演習		
8週目	定期試験		
9週目	テストを実施後、目標の達成状況を確認し、フォロー実施	調査学習	
AL形態の内容 事前 学習型 授業：教科書/参考書などにより講義部分を事前学習させた上で、授業内でその事前学習に、もとづく演習を行わせる方法。 反転 授業：動画教材により講義部分を授業外に事前学習させた上で、授業内でその事前学習にもとづく演習を行わせる方法。 双方向 アンケート：授業中にIT機器やクリッカー、あるいはコメント ペーパーなどを利用して、教員と学生による双方向的な対話型を行わせる方法。 プレゼンテーション：学生が資料を作成し、他の学生の前で自ら発表を行わせる方法。 調査学習：自ら不明な部分をインターネットや授業資料から調べ理解を深める。			

令和 7 年度シラバス

れいわ ねんど 令和 7 年度シラバス				たんとうきょういん 担当教員		じつむけいけん 実務経験	
				たんじ ねみ こ 丹治 恵美子		○	
たいしょうがつか 対 象 学 科	■IG ■AI ■GS □BD □GB □IL						
かもくめい 科 目 名	コンピュータリテラシーd						
ねんじ 年 次	ねん 1 年	かいこうき 開講期	だい 4 き 第 4 期	くぶん 区 分	ひつしゅう せんたく ひつせん □必修■選択□必選	じゅぎょうじすう 授 業 時 数	18 じかん 時 間
じゅぎょう 授 業 とうたつむくひょう 到達目標	WordやExcelのもう一歩踏み込んだ知識の習得を目指す。 MOS検定問題を参考に、さまざまな機能を知り、使えるようにする。						
じゅぎょうがいよう 授 業 概 要	MOS検定問題の中から、実務レベルで利用できる機能の紹介および演習を行っていく						
じゅぎょう 授 業 の うんえいほうほう 運営方法	対面授業の予定(場合により、対面とオンラインの併用) 各週の授業内容における重要事項・ポイントに焦点を当てた演習中心の授業形態。						
たんとうきょういん 担 当 教 員 からの メッセージ	各週の授業内容における重要事項・ポイントは演習を通した説明となります。 資料を使用することもあります、メモ等を残したい場合は、各自、自分が分かりやすい方法を用いてください。						
りかいど 理 解 度 てすと かだい テスト、課題	毎回 演習問題を行い、適宜、理解度を確保するための小テスト・課題を実施する予定。 また、Google Formsにて重要事項に関する確認問題の解答提出要(評価シート使用)						
ていきしけん 定 期 試 験	【受験資格】出席率70%以上の学生 【試験方法】筆記試験にて行う。						
せいせきひょうか 成 績 評 価 の ほうほう きじゆん 方法・基準	本校の成績評価基準 及び 評価シートに基づき、到達目標 達成度を次の方法で評価する。 ・定期試験50%、理解度テスト40%、授業への取り組み(授業態度や演習への姿勢)10%						
オフィス アワー	オフィスアワーは設定していませんが、ご質問等がある場合は授業後にお声がけいただくか、メールでご連絡ください。						
きょうざい 教 材	必要な場合、配付します						
さんこうしょ 参 考 書	よくわかるマスターシリーズ (FOM出版) MOS Word365&2019 Expert MOS Excel365&2019 Expert						

科目名	コンピュータリテラシーd	担当教員	丹治 恵美子
授 業 計 画			
回数	内容	ALの形態	授業の狙い
1週目	Word Advanced① (非表示メニューの表示や保存の各種設定・文書の保護)	事前学習型 授業	知っているとは意外と 便利な機能の習得。
2週目	Word Advanced② (【参考資料】タブの機能を学習)		
3週目	Word Advanced③ (【開発】【校閲】タブの機能を学習)		
4週目	Excel Advanced① (別ブックのデータ参照、保護機能、オプション設定)		
5週目	Excel Advanced② (データの表示形式、入力規則、いろいろな関数)		
6週目	Excel Advanced③ (ピボットテーブル)		
7週目	Excel Advanced④ (条件付き書式の設定)		
8週目	第1週から第7週までの復習	調査学習：	
	定期試験		
9週目	テストを実施後、目標の達成状況を確認し、フォロー実施	調査学習：	
AL形態の内容 事前 学習型 授業：教科書/参考書などにより講義部分を事前学習させた上で、授業内でその事前学習に、もとづく演習を行わせる方法。 反転 授業：動画教材により講義部分を授業外に事前学習させた上で、授業内でその事前学習にもとづく演習を行わせる方法。 プレゼンテーション：学生が資料を作成し、他の学生の前で自ら発表を行わせる方法。 アクティブラーニング：自分自身にてICT活用し、学修し、他の学生との「考え・学び」のコミュニケーションを図る 調査学習：自ら不明な部分をインターネットや授業資料から調べ理解を深める。			

れいわ ねんど
令和 7 年度シラバス

れいわ ねんど 令和 7 年度シラバス				たんとうきょういん 担当教員		じつむけいけん 実務経験	
				渡部 雄三		○	
				富永 英世		○	
たいしょうがつか 対象学科	■IG ■AI ■GS □BD □GB □IL						
かもくめい 科目名	き そ IT基礎						
ねんじ 年次	ねん 1 年	かいこうき 開講期	だい き 第 1 期	くぶん 区分	ひつしゅう せんたく ひつせん ■必修□選択□必選	じゅぎょうじすう 授業時数	じかん 36 時間
じゅぎょう 授業 とうたつむくひょう 到達目標	【最終期授業の到達目標】 情報技術者として必要とされる、知識、技能、活用能力を身につける。基本情報技術者試験の資格を取得し、高度IT人材として活躍するための能力を身につける。 【当期授業の到達目標】 コンピュータの基礎知識を身につける。基本情報技術者試験のテクノロジ系過去問題を解くことができるようになる。						
じゅぎょうがいよう 授業概要	IT系実務経験者により、コンピュータの基礎理論などテクノロジ系について指導。必要とされる知識を獲得するため、教材学習と過去問題の演習を行う。						
じゅぎょう 授業の うんえいほうほう 運営方法	授業で学ぶ分野の重要用語に関連する過去問題等を事前に提示。WEBや資料で予習して授業に臨む。授業では、重要項目の説明とともに、過去問題の解説を実施。事前課題については、教員から指示があれば説明できるように学習して授業に出席すること。						
たんとうきょういん 担当教員 からの メッセージ	当科目は、基本情報処理技術者試験合格のために必須であるだけでなく、社会に出て仕事を上ですぐに必要な知識を幅広く学ぶものです。今後、学習を進めて行く上で、必須の知識となりますので、体系的に理解しましょう。						
りかいど 理解度 テスト	授業毎に、理解度テストを実施。						
ていきしけん 定期試験	【受験資格】出席率70%以上の学生 【試験方法】筆記試験（過去問題より出題）						
せいせきひょうか 成績評価 の ほうほう きじゆん 方法・基準	本校の成績評価基準に基づき、到達目標達成度を次の方法で評価。 ・定期試験 50% ・平常点（授業態度や演習への取り組み）10% ・理解度テスト 40%						
オフィス アワー	放課後、メールベースあるいは対面にて対応。但し、事前に都合を確認のこと。						
きょうざい 教材	なし						
さんこうしょ 参考書	IPA 情報処理推進機構 情報処理技術者試験 過去問題のページ https://www.ipa.go.jp/shiken/mondai-kaiotu/sg_fe/koukai/index.html						

かちくめい 科目名	きそ IT基礎	たんとうきょういん 担当教員	渡部・富永
じゅぎょうけいかく 授 業 計 画			
かいすう 回数	じゅぎょうないよう 授 業 内 容	けいたい AL の 形 態	じゅぎょうねら 授 業 の 狙 い
しゅうめ 1週 目	ガイダンス きそりろんりさんすうがく 基礎理論（離散数学）	じぜんがくしゅうがた 事前学習型 じゅぎょう 授 業	コンピュータのベースとなる基礎技術とシステム構成を学習し、知識と理解の定着を図る。
しゅうめ 2週 目	基礎理論 きそりろん （応用数学/情報に関する理論） おうようすうがくじょうほうかんりろん	じぜんがくしゅうがた 事前学習型 じゅぎょう 授 業	
しゅうめ 3週 目	基礎理論 きそりろん （通信に関する理論/計測・制御に関する理論） つうしんかんりろん・けいそくせいぎょかんりろん	じぜんがくしゅうがた 事前学習型 じゅぎょう 授 業	
しゅうめ 4週 目	アルゴリズムとプログラミング（データ構造） こうぞう	じぜんがくしゅうがた 事前学習型 じゅぎょう 授 業	
しゅうめ 5週 目	アルゴリズムとプログラミング（アルゴリズム）	じぜんがくしゅうがた 事前学習型 じゅぎょう 授 業	コンピュータを構成する基本要素の知識と理解の定着を図る
しゅうめ 6週 目	アルゴリズムとプログラミング （プログラミング/プログラム言語） げんご	じぜんがくしゅうがた 事前学習型 じゅぎょう 授 業	
しゅうめ 7週 目	アルゴリズムとプログラミング（その他言語） たげんご	じぜんがくしゅうがた 事前学習型 じゅぎょう 授 業	
しゅうめ 8週 目	だいしゅうだいしゅうふくしゅう 第1週から第7週までの復習	ちょうさがくしゅう 調査学習	テクノロジー系の知識と理解を確認する
	ていきしけん 定期試験		
しゅうめ 9週 目	ていきしけんないようかいせつ 定期試験内容の解説	ちょうさがくしゅう 調査学習	
けいたい AL形態の内容			
じぜんがくしゅうがたじゅぎょうじゅぎょうまなぶぶんやじゅうようようごかんれんかこもんだいなどじぜんていじしりょうよしゅう 事前学習型授業：授業で学ぶ分野の重要用語に関連する過去問題等を事前に提示。WEB や資料で予習して授業に臨む。			
アクティブラーニング：自分自身にて ICT活用し、学修し、他の学生との「考え・学び」のコミュニケーションを図る			
ちょうさがくしゅうみずかふめいぶぶんじゅぎょうしりょうしらりかいふか 調査学習：自ら不明な部分をインターネットや授業資料から調べ理解を深める。			

れいわ ねんど
令和 7 年度シラバス

				担任教員		実務経験	
令和 7 年度シラバス				数見 洋一		○	
対象学科	■IG ■AI ■GS □BD □GB □IL						
科目名	コンピュータシステム技術						
年次	1 年	開講期	第 1 期	区分	■必修□選択□必選	授業時数	36 時間
授業到達目標	【最終期授業の到達目標】 情報技術者として必要とされる、知識、技能、活用能力を身につける。基本情報技術者試験の資格を取得し、高度IT人材として活躍するための能力を身につける。 【当期授業の到達目標】 ソフトウェア/ハードウェアの知識と技術要素の知識をつける。基本情報技術者試験のテクノロジ系過去問題を解くことができるようになる。						
授業概要	IT系実務経験者によりソフトウェア/ハードウェアの知識と技術要素などテクノロジ系について指導。必要とされる知識を獲得するため、教材学習と過去問題の演習を行う。						
授業の運営方法	授業で学ぶ分野の重要用語に関連する過去問題等を事前に提示。WEBや資料で予習して授業に臨む。授業では、重要項目の説明とともに、過去問題の解説を実施。事前課題については、教員から指示があれば説明できるように学習して授業に出席すること。						
担任教員からのメッセージ	当科目は、基本情報処理技術者試験合格のために必須であるだけでなく、社会に出て仕事を上ですぐに必要な知識を幅広く学ぶものです。今後、学習を進めて行く上で、必須の知識となりますので、体系的に理解しましょう。						
理解度テスト	授業毎に、理解度テストを実施。						
定期試験	受験資格】出席率70%以上の学生 【試験方法】筆記試験（過去問題より出題）						
成績評価の方法・基準	本校の成績評価基準に基づき、到達目標達成度を次の方法で評価。 ・定期試験 50% ・平常点（授業態度や演習への取り組み）10% ・理解度テスト 40%						
オフィスアワー	放課後、メールベースあるいは対面にて対応。但し、事前に都合を確認のこと。						
教材	なし						
参考書	IPA 情報処理推進機構 情報処理技術者試験 過去問題のページ https://www.ipa.go.jp/shiken/mondai-kaiotu/sg_fe/koukai/index.html						

科目名	コンピュータシステム技術	担当教員	数見
授 業 計 画			
回数	授業内容	AL の形態	授業の狙い
1週目	ガイダンス コンピュータ構成要素 システム構成要素	事前学習型授業	コンピュータのベースとなる基礎技術とシステム構成を学習し、知識と理解の定着を図る。
2週目	ソフトウェア (オペレーティングシステム/ミドルウェア)	事前学習型授業	
3週目	ソフトウェア (ファイルシステム/開発ツール/OSS)	事前学習型授業	
4週目	ハードウェア	事前学習型授業	
5週目	ユーザーインタフェース 情報メディア	事前学習型授業	コンピュータを構成する基本要素の知識と理解の定着を図る
6週目	データベース (データベース方式/データベース設計/データ操作/トランザクション処理)	事前学習型授業	
7週目	データベース (データベース応用)	事前学習型授業	
8週目	第1週から第7週までの復習	調査学習	テクノロジー系の知識と理解を確認する
	定期試験		
9週目	定期試験内容の解説	調査学習	
AL形態の内容			
事前学習型授業：授業で学ぶ分野の重要用語に関連する過去問題等を事前に提示。WEB や資料で予習して授業に臨む。 アクティブラーニング：自分自身にて ICT活用し、学修し、他の学生との「考え・学び」のコミュニケーションを図る 調査学習：自ら不明な部分をインターネットや授業資料から調べ理解を深める。			

れいわ ねんど
令和 7 年度シラバス

				担当教員	実務経験
				渡部 雄三	○
				富永 英世	○
対象学科	■IG ■AI ■GS □BD □GB □IL				
科目名	開発技術とマネジメント				
年次	1 年	開講期	第 2 期	区分	■必修□選択□必選
授業到達目標	【最終期授業の到達目標】 情報技術者として必要とされる、知識、技能、活用能力を身につける。基本情報技術者試験の資格を取得し、高度IT人材として活躍するための能力を身につける。 【当期授業の到達目標】 開発に関する技術やマネジメントについての知識をつける。基本情報技術者試験のテクノロジ系/マネジメント系の過去問題を解くことができるようになる。				
授業概要	IT系実務経験者により開発技術とマネジメント手法などについて指導。必要とされる知識を獲得するため、教材学習と過去問題の演習を行う。				
授業の運営方法	授業で学ぶ分野の重要用語に関連する過去問題等を事前に提示。WEBや資料で予習して授業に臨む。授業では、重要項目の説明とともに、過去問題の解説を実施。事前課題については、教員から指示があれば説明できるように学習して授業に出席すること。				
担当教員からのメッセージ	当科目は、基本情報処理技術者試験合格のために必須であるだけでなく、社会に出て仕事をやる上で必要となる知識を幅広く学ぶものです。今後、学習を進めて行く上で、必須の知識となりますので、体系的に理解しましょう。				
理解度テスト	授業毎に、理解度テストを実施				
定期試験	受験資格】出席率70%以上の学生 【試験方法】筆記試験（過去問題より出題）				
成績評価の方法・基準	本校の成績評価基準に基づき、到達目標達成度を次の方法で評価。 - 定期試験 50% - 平常点（授業態度や演習への取り組み）10% - 理解度テスト 40%				
オフィスアワー	放課後、メールベースあるいは対面にて対応。但し、事前に都合を確認のこと				
教材	なし				
参考書	IPA 情報処理推進機構 情報処理技術者試験 過去問題のページ https://www.ipa.go.jp/shiken/mondai-kaiotu/sg_fe/koukai/index.html				

科目名	開発技術とマネジメント	担当教員	渡部・富永
授 業 計 画			
回数	授業内容	AL の形態	授業の狙い
1週目	ガイダンス システム開発技術 (システム要件定義・ソフトウェア要件定義)	事前学習型授業	コンピュータのベースとなる基礎技術とシステム構成を学習し、知識と理解の定着を図る。
2週目	システム開発技術 (設計①)	事前学習型授業	
3週目	システム開発技術 (設計②)	事前学習型授業	
4週目	システム開発技術 (実装・構築/結合・テスト/導入・受入れ支援/保守・廃棄)	事前学習型授業	
5週目	ソフトウェア開発管理技術 プロジェクトマネジメント (プロジェクトマネジメント/プロジェクトの統合/プロジェクトのステークホルダ/プロジェクトの範囲)	事前学習型授業	コンピュータを構成する基本要素の知識と理解の定着を図る
6週目	プロジェクトマネジメント (プロジェクトの資源/プロジェクトの時間/プロジェクトのコスト/プロジェクトのリスク/プロジェクトの品質/プロジェクトの調達/プロジェクトのコミュニケーション)	事前学習型授業	
7週目	サービスマネジメント システム監査	事前学習型授業	
8週目	第1週から第7週までの復習	調査学習	テクノロジー系の知識と理解を確認する
	定期試験		
9週目	定期試験内容の解説	調査学習	
AL形態の内容			
事前学習型授業：授業で学ぶ分野の重要用語に関連する過去問題等を事前に提示。WEB や資料で予習して授業に臨む。 アクティブラーニング：自分自身にて ICT活用し、学修し、他の学生との「考え・学び」のコミュニケーションを図る。 調査学習：自ら不明な部分をインターネットや授業資料から調べ理解を深める。			

れいわ ねんど
令和 7 年度シラバス

				担当教員	実務経験
				数見 洋一	○
対象学科	■IG ■AI ■GS □BD □GB □IL				
科目名	ネットワークセキュリティ				
年次	1 年	開講期	第 2 期	区分	■必修□選択□必選
					授業時数 36 時間
授業到達目標	【最終期授業の到達目標】 情報技術者として必要とされる、知識、技能、活用能力を身につける。基本情報技術者試験の資格を取得し、高度IT人材として活躍するための能力を身につける。 【当期授業の到達目標】 ネットワークとセキュリティについての知識をつける。基本情報技術者試験のテクノロジ系の過去問題を解くことができるようになる。				
授業概要	IT系実務経験者によりネットワークとセキュリティ分野について指導。必要とされる知識を獲得するため、教材学習と過去問題の演習を行う。				
授業の運営方法	授業で学ぶ分野の重要用語に関連する過去問題等を事前に提示。WEBや資料で予習して授業に臨む。授業では、重要項目の説明とともに、過去問題の解説を実施。事前課題については、教員から指示があれば説明できるように学習して授業に出席すること。				
担当教員からのメッセージ	当科目は、基本情報処理技術者試験合格のために必須であるだけでなく、社会に出て仕事をやる上で必要となる知識を幅広く学ぶものです。今後、学習を進めて行く上で、必須の知識となりますので、体系的に理解しましょう。				
理解度テスト	授業毎に、理解度テストを実施				
定期試験	【受験資格】出席率70%以上の学生 【試験方法】筆記試験（過去問題より出題）				
成績評価の方法・基準	本校の成績評価基準に基づき、到達目標達成度を次の方法で評価。 - 定期試験 50% - 平常点（授業態度や演習への取り組み）10% - 理解度テスト 40%				
オフィスアワー	放課後、メールベースあるいは対面にて対応。但し、事前に都合を確認のこと。				
教材	なし				
参考書	IPA 情報処理推進機構 情報処理技術者試験 過去問題のページ https://www.ipa.go.jp/shiken/mondai-kaiotu/sg_fe/koukai/index.html				

科目名	ネットワークセキュリティ	担当教員	数見
授 業 計 画			
回数	授業内容	AL の形態	授業の狙い
1週目	ガイダンス ネットワーク（ネットワーク方式）	事前学習型 授業	ネットワークについての知識や計算問題を理解し、問題を解けるようになる
2週目	ネットワーク （データ通信と制御/通信プロトコル/ネットワーク管理）	事前学習型 授業	
3週目	ネットワーク（ネットワーク応用） セキュリティ（情報セキュリティ①）	事前学習型 授業	
4週目	セキュリティ（情報セキュリティ②）	事前学習型 授業	セキュリティに対する意識の向上/知識の獲得/問題への対応力をつける
5週目	セキュリティ （情報セキュリティ管理/セキュリティ技術評価）	事前学習型 授業	
6週目	セキュリティ （情報セキュリティ対策/セキュリティ実装技術）	事前学習型 授業	
7週目	第1週から第6週までの復習	調査学習	自分の弱点などを見つけ克服する
8週目	第1週から第7週までの復習	調査学習	テクノロジー系の知識と理解を確認する
	定期試験		
9週目	定期試験内容の解説	調査学習	
AL形態の内容			
事前学習型授業：授業で学ぶ分野の重要用語に関連する過去問題等を事前に提示。WEB や資料で予習して授業に臨む。 アクティブラーニング：自分自身にて ICT活用し、学修し、他の学生との「考え・学び」のコミュニケーションを図る 調査学習：自ら不明な部分をインターネットや授業資料から調べ理解を深める			

れいわ ねんど
令和 7 年度シラバス

				担当教員	実務経験
				数見 洋一	○
対象学科	■IG ■AI ■GS □BD □GB □IL				
科目名	システム戦略とマネジメント				
年次	1 年	開講期	第 3 期	区分	■必修□選択□必選
				授業時数	36 時間
授業到達目標	【最終期授業の到達目標】 情報技術者として必要とされる、知識、技能、活用能力を身につける。基本情報技術者試験の資格を取得し、高度IT人材として活躍するための能力を身につける。 【当期授業の到達目標】 企業などのシステム戦略についての知識をつける。基本情報技術者試験のストラテジ系の過去問題を解くことができるようになる。				
授業概要	IT系実務経験者によりシステム戦略・マネジメントについて指導。必要とされる知識を獲得するため、教材学習と過去問題の演習を行う。				
授業の運営方法	授業で学ぶ分野の重要用語に関連する過去問題等を事前に提示。WEBや資料で予習して授業に臨む。授業では、重要項目の説明とともに、過去問題の解説を実施。事前課題については、教員から指示があれば説明できるように学習して授業に出席すること。				
担当教員からのメッセージ	当科目は、基本情報処理技術者試験合格のために必須であるだけでなく、社会に出て仕事をやる上で必要となる知識を幅広く学ぶものです。今後、学習を進めて行く上で、必須の知識となりますので、体系的に理解しましょう。				
理解度テスト	授業毎に、理解度テストを実施				
定期試験	【受験資格】出席率70%以上の学生 【試験方法】筆記試験（過去問題より出題）				
成績評価の方法・基準	本校の成績評価基準に基づき、到達目標達成度を次の方法で評価。 - 定期試験 50% - 平常点（授業態度や演習への取り組み）10% - 理解度テスト 40%				
オフィスアワー	放課後、メールベースあるいは対面にて対応。但し、事前に都合を確認のこと。				
教材	なし				
参考書	IPA 情報処理推進機構 情報処理技術者試験 過去問題のページ https://www.ipa.go.jp/shiken/mondai-kaiotu/sg_fe/koukai/index.html				

科目名	システム戦略とマネジメント	担当教員	数見
授業計画			
回数	授業内容	ALの形態	授業の狙い
1週目	ガイダンス システム戦略（情報システム戦略/業務プロセス）	事前学習型授業	企業で利用される組織
2週目	システム戦略 （ソリューションビジネス/システム活用促進・評価） システム企画	事前学習型授業	や企業活動についての知識を獲得する。 IT系資格の出題に対応
3週目	経営戦略マネジメント	事前学習型授業	できる力をみにつける
4週目	技術戦略マネジメント	事前学習型授業	企業などで遵守すべき
5週目	ビジネスインダストリー （ビジネスシステム・エンジニアリングシステム）	事前学習型授業	法律などを学び、ITパスポートや基本情報技術者試験に対応できるようになる。
6週目	ビジネスインダストリー （e-ビジネス/民生機器/産業機器）	事前学習型授業	
7週目	第1週から第6週までの復習	調査学習	自分の弱点などを見つけ克服する
8週目	第1週から第7週までの復習	調査学習	マネジメント系の知識と理解を確認する
9週目	定期試験内容の解説	調査学習	
AL形態の内容			
事前学習型授業：授業で学ぶ分野の重要用語に関連する過去問題等を事前に提示。WEBや資料で予習して授業に臨む。			
アクティブラーニング：自分自身にてICT活用し、学修し、他の学生との「考え・学び」のコミュニケーションを図る			
調査学習：自ら不明な部分をインターネットや授業資料から調べ理解を深める			

れいわ ねんど
令和 7 年度シラバス

れいわ ねんど 令和 7 年度シラバス				たんとうきょういん 担当教員		じつむけいけん 実務経験		
				渡部 雄三		○		
				富永 英世		○		
たいしょうがつか 対 象 学 科	■IG ■AI ■GS □BD □GB □IL							
かもくめい 科 目 名	きぎょう せんりやく 企業と戦略							
ねんじ 年 次	ねん 1 年	かいこうき 開講期	だい き 第 3 期	くぶん 区 分	■必修□選択□必選		じゅぎょうじすう 授 業 時 数	じかん 36 時間
じゅぎょう 授 業 とうたつむくひょう 到達目標	【最終期授 業の到達目標】 情報技術者として必要とされる、知識、技能、活用能力を身につける。基本情報技術者試験の資格を取得し、高度IT人材として活躍するための能力を身につける。 【当期授 業の到達目標】 企業と戦略・法務についての知識をつける。基本情報技術者試験のストラテジ系の過去問題を解くことができるようになる。							
じゅぎょうがいよう 授 業 概 要	IT系実務経験者によりシステム戦略・マネジメントについて指導。必要とされる知識を獲得するため、教材学習と過去問題の演習を行う。							
じゅぎょう 授 業 の うんえいほうほう 運営方法	授 業 で学ぶ分野の重要用語に関連する過去問題等を事前に提示。WEBや資料で予習して授 業 に臨む。授 業 では、重要項目の説明とともに、過去問題の解説を実施。事前課題については、教員から指示があれば説明できるように学習して授 業 に出席すること。							
たんとうきょういん 担 当 教 員 か ら の メ ッ セ ー ジ	当科目は、基本情報処理技術者試験合格のために必須であるだけでなく、社会に出て仕事をやる上ですぐに必要となる知識を幅広く学ぶものです。今後、学習を進めて行く上で、必須の知識となりますので、体系的に理解しましょう。							
りかいど 理 解 度 テ ス ト	毎に、理解度テストを実施							
ていきしけん 定 期 試 験	【受験資格】出席率70%以上の学生 【試験方法】筆記試験（過去問題より出題）							
せいせきひょうか 成 績 評 価 の ほうほう きじゆん 方法・基準	本校の成績評価基準に基づき、到達目標達成度を次の方法で評価。 ・定期試験 50% ・平常点（授 業 態度や演習への取り組み）10% ・理解度テスト 40%							
オフィス アワー	放課後、メールベースあるいは対面にて対応。但し、事前に都合を確認のこと							
きょうざい 教 材	なし							
さんこうしょ 参 考 書	IPA 情報処理推進機構 情報処理技術者試験 過去問題のページ https://www.ipa.go.jp/shiken/mondai-kaiotu/sg_fe/koukai/index.html							

か も く め い 科目名	きぎょう せんりやく 企業と戦略	たんとうきょういん 担当教員	渡部・富永
じゅ ぎょう けい かく 授 業 計 画			
かいすう 回数	じゅぎょうないよう 授 業 内 容	けいたい AL の形態	じゅぎょう ねらい 授 業 の狙い
しゅう め 1週 目	ガイダンス きぎょうかつどう けいえい そしきろん 企業活動（経営・組織論）	じ ぜん がくしゅうがた 事前 学習型 じゅぎょう 授 業	きぎょう りよう そしき ・企業で利用される組織 きぎょうかつどう や 企業活動 についての ちしき かくとく 知識を獲得する。 けいし かく しゅつだい たいおう ・ IT系資格の出題に対応 ちから できる 力 をみにつける
しゅう め 2週 目	きぎょうかつどう 企業活動（業務分析・データ利活用）	じ ぜん がくしゅうがた 事前 学習型 じゅぎょう 授 業	
しゅう め 3週 目	きぎょうかつどう 企業活動（会計・財務）	じ ぜん がくしゅうがた 事前 学習型 じゅぎょう 授 業	
しゅう め 4週 目	きぎょうかつどう きぎょうかつどう ざいむ 企業活動（企業活動と財務）	じ ぜん がくしゅうがた 事前 学習型 じゅぎょう 授 業	
しゅう め 5週 目	ほうむ ちてきざいせんけん かんれんほうき 法務（知的財産権/セキュリティ関連法規）	じ ぜん がくしゅうがた 事前 学習型 じゅぎょう 授 業	きぎょう 企業などで じゅんしゅ 遵守すべき ほうりつ 法律などを学び、ITパスポ ート や 基本情報技術者 しけん たいおう 試験に対応できるように なる。
しゅう め 6週 目	ほうむ 法務 （労働関連・取引関連法規/その他の法律・ガイドライン・ 技術者倫理）	じ ぜん がくしゅうがた 事前 学習型 じゅぎょう 授 業	
しゅう め 7週 目	ほうむ 法務（標準化関連）	じ ぜん がくしゅうがた 事前 学習型 じゅぎょう 授 業	
しゅう め 8週 目	だい しゅう だい しゅう ふくしゅう 第1週から第7週までの復習	ちょうさがくしゅう 調査学習	けい ちしき 戦略系の知識と り かい かくにん 理解を確認する
	ていきしけん 定期試験		
しゅう め 9週 目	ていきしけんないよう かいせつ 定期試験内容の解説	ちょうさがくしゅう 調査学習	
けいたい ないよう AL形態の内容 じ ぜん がくしゅうがた じゅぎょう じゅぎょう まなぶぶんや じゅうようようご かんれん か こもんだいなど じ ぜん ていじ 事前学習型授業：授業で学ぶ分野の重要用語に関連する過去問題等を事前に提示。WEB や資料で予習して じゅぎょう のぞ 授業に臨む。 アクティブラーニング：自分自身にて ICT活用し、学修し、他の学生との「考え・学び」のコミュニケーシ ョンを図る ちょうさがくしゅう みずか ふめい ぶぶん じゅぎょうしりよう しら り かい ふか 調査学習：自ら不明な部分をインターネットや授業資料から調べ理解を深める			

れいわ ねんど
令和 7 年度シラバス

れいわ ねんど 令和 7 年度シラバス				たんとうきょういん 担当教員		じつむけいけん 実務経験	
				渡部 雄三		○	
				数見 洋一		○	
たいしょうがつか 対 象 学 科	■IG ■AI ■GS □BD □GB □IL						
かもくめい 科 目 名	きほんじょうほうえんしゅう 基本情報演習						
ねんじ 年 次	ねん 1 年	かいこうき 開講期	だい き 第 4 期	くぶん 区 分	ひつしゅう せんたく ひつせん ■必修□選択□必選	じゅぎょうじすう 授 業 時 数	72 時間
じゅぎょう 授 業 とうたつむくひょう 到達目標	【最終期授業の到達目標】 情報技術者として必要とされる、知識、技能、活用能力の基本を身に付け、高度IT人材として活躍できるようになる。 【当期授業の到達目標】 問題演習を繰り返し実施。基本情報技術者試験B試験の合格点を取れるようになる。						
じゅぎょうがいよう 授業概要	IT系実務経験者が、高度IT人材となるために必要な基本的知識・技能・活用能力を教授する。B試験問題のサンプル、アルゴリズムの過去問を実際に解きながら、問題のポイントを理解し、必要とされる応用力を獲得する。						
じゅぎょう 授業の うんえいほうほう 運営方法	B試験問題を事前に提示するので、WEB、資料などを調べ予習して授業に臨みます。授業では、参考資料等を用い、その過去の午後問題の考え方、解き方、アルゴリズムなどの解説を行います。提示された問題については、各自、回答を準備して授業に出席してください。						
たんとうきょういん 担当教員 からの メッセージ	当科目は、基本情報処理技術者試験合格のために必須であるだけでなく、社会に出て仕事をする上ですぐに必要となる知識を幅広く学ぶものです。今後、学習を進めて行く上でも使いますので、きちんと体系的に理解するようにしてください。						
りかいど 理解度 テスト	授業毎に、理解度テストを実施						
ていきしけん 定期試験	【受験資格】出席率70%以上の学生 【試験方法】筆記試験（過去問題や授業内容より出題）						
せいせきひょうか 成績評価 の ほうほう 方法・基準	本校の成績評価基準に基づき、到達目標達成度を次の方法で評価する。 ・定期試験 50% ・平常点（授業態度や演習への取り組み）10% ・理解度テスト 40%						
オフィス アワー	放課後、メールベースあるいは対面にて対応。但し、事前に都合を確認のこと。						
きょうざい 教 材	基本情報技術者科目B問題集						
さんこうしょ 参考書							

科目名	基本情報演習	担当教員	渡部・数見
授業計画			
回数	授業内容	ALの形態	授業の狙い
1週目	アルゴリズムの基本(疑似言語の記述形式) 情報セキュリティに関する問題	反転授業	アルゴリズム処理の基本と表現を理解し、実アルゴリズムに適用できるようになる。 情報セキュリティ分野の問題に慣れる
2週目	プログラムの基本要素(簡単なアルゴリズム理解) 情報セキュリティに関する問題	反転授業	
3週目	プログラムの基本要素(簡単なアルゴリズム理解) 情報セキュリティに関する問題	反転授業	
4週目	データ構造及びアルゴリズム(アルゴリズム理解と問題演習) 情報セキュリティに関する問題	反転授業	
5週目	データ構造及びアルゴリズム(アルゴリズム理解と問題演習) 情報セキュリティに関する問題	反転授業	
6週目	プログラミング諸分野への適用(アルゴリズム理解と問題演習) 情報セキュリティに関する問題	反転授業	
7週目	プログラミング諸分野への適用(アルゴリズム理解と問題演習) 情報セキュリティに関する問題	反転授業	
8週目	復習及び定期試験 定期試験内容の解説	調査学習	アルゴリズム問題を実際に解く
9週目	模擬試験		実問題形式で試行する
AL形態の内容			
反転学習：関連する過去の午後問題を事前に提示し、各自、問題を事前に解いてくること 授業は、解答を学生が説明することも含めて進行する。 調査学習：自ら不明な部分をインターネットや授業資料から調べ理解を深める			

令和 7 年度シラバス

				担当教員 たんとうきょういん		実務経験 じつむけいけん	
				富永 英世		○	
				数見 洋一		○	
対象学科 たいしょうがつか	■IG □AI □GS □BD □GB □IL						
科目名 かものめい	アルゴリズム論 a ろん						
年次 ねんじ	1 年 ねん	開講期 かいこうき	第 1 期 だい 1 き	区分 くぶん	必修選択必修 ひつしゅうせんたくひつせん	授業時数 じゅぎょうじすう	18 時間 じかん
授業 とうたつむくひょう 到達目標	【最終期授業の到達目標】 プログラミングを学ぶうえで必要なアルゴリズムを理解する。 【当期授業の到達目標】 アルゴリズムを理解し、フローチャートの使い方を理解することで、基本的なアルゴリズムをフローチャートで作成できるようになる。 例題からアルゴリズムを学習し、応用問題が解けるようになる。						
授業概要 じゅぎょうがいよう	アルゴリズムとは何かを理解し、基本的なアルゴリズムをフローチャート（流れ図）で作成する。						
授業の 運営方法 うんえいほうほう	アルゴリズムを解説した後に、実際にフローチャートで作成する。 例題でフローチャートの作成練習をした後に、練習問題でどれだけ理解したかを確認しながらフローチャートを作成し、応用力を身につける。						
担当教員 からの メッセージ たんとうきょういん	プログラミングする上で、アルゴリズムは欠かせません。 頭の中の考えをフローチャートで表現する力が必ず必要となります。 開始から終了まで効率よく実行させるプログラムの設計書を作成するものと同じです。 効率のよいプログラムを作成できるようにしっかり学習しましょう。						
理解度 テスト、課題 (レポート等) りかいど	毎回理解度テストを実施する。 定期試験は「筆記試験」または「フォームによる試験」とする。 必要に応じて授業で取り組んだ課題の提出を求める。						
定期試験 ていきしけん	【受験資格】出席率70%以上の学生 【試験方法】「筆記試験」または「フォームによる試験」						
成績評価の 方法・基準 せいせきひょうか	平常点10%、理解度テスト40%、定期試験50%の計100%で評価し、合計60%以上を合格とする。						
オフィス アワー おふいすあわー	月曜から金曜。担当授業のない時間。事前に口頭・メールで予約すること。						
教材 きょうざい	クラスルームに配布する電子テキスト						
参考書 さんこうしょ	基本情報技術者試験に関連するテキスト						

科目名	アルゴリズム論 a	担当教員	富永・数見
授業計画			
回数	内容	ALの形態	授業の狙い
1週目	アルゴリズムとは データ構造 (変数、配列、リスト)	事前学習型	アルゴリズムを理解し、 フローチャートを作成できるようにする。
2週目	データ構造 (スタック、キュー、木構造)		
3週目	フローチャートの書き方 フローチャートの構造 (順次構造とは)		
4週目	分岐構造とは (比較演算子、単一分岐、多重分岐)		
5週目	繰り返し構造とは (前判定処理、後判定処理) ループ記号の書き方		
6週目	基本アルゴリズム (線形探索法・2分探索法)		
7週目	総復習		
8週目	定期試験		
9週目	定期試験の振り返り		
事前学習型授業：教科書／参考書等により講義部分を授業外に事前学習させた上で、授業内でその事前学習にもとづく演習をおこなわせる方法			

令和 7 年度シラバス

				担当教員 たんとうきょういん		実務経験 じつむけいけん	
				富永 英世		○	
				数見 洋一		○	
対象学科 たいしょうがつか	■IG □AI □GS □BD □GB □IL						
科目名 かものめい	アルゴリズム論 b ろん						
年次 ねんじ	1 年 ねん	開講期 かいこうき	第 2 期 だい 2 き	区分 くぶん	必修選択必修 ひつしゅうせんたくひつせん	授業時数 じゅぎょうじすう	18 時間 じかん
授業 とうたつむくひょう 到達目標	【最終期授業の到達目標】 プログラミングを学ぶうえで必要なアルゴリズムを理解する。 【当期授業の到達目標】 様々なアルゴリズムをフローチャートで作成できるようになる。 例題からアルゴリズムを学習し、応用問題が解けるようになる。						
授業概要 じゅぎょうがいよう	アルゴリズムとは何かを理解し、基本的なアルゴリズムをフローチャート（流れ図）で作成する。						
授業の 運営方法 うんえいほうほう	アルゴリズムを解説した後、実際にフローチャートで作成する。 例題でフローチャートの作成練習をした後に、練習問題でどれだけ理解したかを確認しながらフローチャートを作成し、応用力を身につける。						
担当教員 からの メッセージ たんとうきょういん	プログラミングする上で、アルゴリズムは欠かせません。 頭の中の考えをフローチャートで表現する力が必ず必要となります。 開始から終了まで効率よく実行させるプログラムの設計書を作成するものと同じです。 効率のよいプログラムを作成できるようにしっかり学習しましょう。						
理解度 テスト、課題 (レポート等) りかいど	毎回理解度テストを実施する。 定期試験は「筆記試験」または「フォームによる試験」とする。 必要に応じて授業で取り組んだ課題の提出を求める。						
定期試験 ていきしけん	【受験資格】出席率70%以上の学生 【試験方法】「筆記試験」または「フォームによる試験」						
成績評価の 方法・基準 せいせきひょうか	平常点10%、理解度テスト40%、定期試験50%の計100%で評価し、合計60%以上を合格とする。						
オフィス アワー おふいすあわー	月曜から金曜。担当授業のない時間。事前に口頭・メールで予約すること。						
教材 きょうざい	クラスルームに配布する電子テキスト						
参考書 さんこうしょ	基本情報技術者試験に関連するテキスト						

科目名	アルゴリズム論 b	担当教員	富永・数見
授業計画			
回数	内容	ALの形態	授業の狙い
1週目	計算量について ハッシュ探索法、基本選択法（選択ソート）	事前学習型	アルゴリズムを理解し、 フローチャートを作成できるようにする。
2週目	ヒープソート、基本交換法（バブルソート） シェーカーソート		
3週目	基本挿入法（挿入ソート）		
4週目	クイックソート		
5週目	マージソート		
6週目	文字列処理（文字列照合）		
7週目	総復習		
8週目	定期試験		
9週目	定期試験の振り返り		
事前学習型授業：教科書／参考書等により講義部分を授業外に事前学習させた上で、授業内でその事前学習にもとづく演習をおこなわせる方法			

令和 7 年度シラバス

				担当教員	実務経験
				富永 英世	○
				数見 洋一	○
対象学科	■IG □AI □GS □BD □GB □IL				
科目名	アルゴリズム論 c				
年次	1 年	開講期	第 3 期	区分	必修口選択口必選
授業 到達目標	【最終期授業の到達目標】 プログラミングを学ぶうえで必要なアルゴリズムを理解する。 【当期授業の到達目標】 様々なアルゴリズムをフローチャートで作成できるようになる。 例題からアルゴリズムを学習し、応用問題が解けるようになる。				
授業概要	アルゴリズムとは何かを理解し、基本的なアルゴリズムをフローチャート（流れ図）と疑似言語で作成する。				
授業の 運営方法	アルゴリズムを解説した後に、実際にフローチャート・疑似言語で作成する。 例題でフローチャート・疑似言語の作成練習をした後に、練習問題でどれだけ理解したかを確認しながらフローチャート・疑似言語を作成し、応用力を身につける。				
担当教員 からの メッセージ	プログラミングする上で、アルゴリズムは欠かせません。 頭の中の考えをフローチャート・疑似言語で表現する力が必ず必要となります。 開始から終了まで効率よく実行させるプログラムの設計書を作成するものと同じです。 効率のよいプログラムを作成できるようにしっかり学習しましょう。				
理解度 テスト、課題 (レポート等)	毎回理解度テストを実施する。 定期試験は「筆記試験」または「フォームによる試験」とする。 必要に応じて授業で取り組んだ課題の提出を求める。				
定期試験	【受験資格】出席率70%以上の学生 【試験方法】「筆記試験」または「フォームによる試験」				
成績評価の 方法・基準	平常点10%、理解度テスト40%、定期試験50%の計100%で評価し、合計60%以上を合格とする。				
オフィス アワー	月曜から金曜。担当授業のない時間。事前に口頭・メールで予約すること。				
教材	クラスルームに配布する電子テキスト				
参考書	基本情報技術者試験に関連するテキスト				

科目名	アルゴリズム論 c	担当教員	富永・数見
授 業 計 画			
回数	内容	ALの形態	授業の狙い
1週目	グラフ処理、経路探索、最短経路探索	事前学習型	アルゴリズムを理解し、フローチャートや疑似言語を作成できるようにする。
2週目	数値処理、ファイル処理		
3週目	疑似言語について		
4週目	疑似言語で探索		
5週目	疑似言語でソート		
6週目	疑似言語で文字照合		
7週目	総復習		
8週目	定期試験		
9週目	定期試験の振り返り		
事前学習型授業：教科書／参考書等により講義部分を授業外に事前学習させた上で、授業内でその事前学習にもとづく演習をおこなわせる方法			

令和 7 年度シラバス

れいわ 7 ねんど 令和 7 年度シラバス				たんとうきょういん 担当教員		じつむけいけん 実務経験	
				ふねい えいせい 富永 英世		○	
				かずみ さんいち 数見 洋一		○	
たいしょうがつか 対 象 学 科	■IG □AI □GS □BD □GB □IL						
かもくめい 科 目 名	アルゴリズム論 d						
ねんじ 年 次	1 ねん 年	かいこうき 開講期	だい 4 き 第 4 期	くぶん 区 分	ひつしゅう せんたく ひつせん ■必修□選択□必選	じゅぎょう じすう 授 業 時 数	18 じかん 18 時間
じゅぎょう 授 業 とうたつもくひょう 到達目標	【最終期授 業の到達目 標】 プログラミングを学ぶうえで必要なアルゴリズムを理解する。 【当期授 業の到達目 標】 基本情報技術者試験の合格基準までレベルを上げる。						
じゅぎょうがいよう 授 業 概 要	アルゴリズムとは何かを理解し、基本的なアルゴリズムをフローチャート（流れ図）と疑似言語で作成する。						
じゅぎょう 授 業 の うんえいほうほう 運 営 方 法	アルゴリズムを解説した後に、実際にフローチャート・疑似言語で作成する。 例題でフローチャート・疑似言語の作成練習をした後に、練習問題でどれだけ理解したかを確認しながらフローチャート・疑似言語を作成し、応用力を身につける。						
たんとうきょういん 担 当 教 員 からの メッセー ジ	プログラミングする上で、アルゴリズムは欠かせません。 頭の中の考えをフローチャート・疑似言語で表現する力が必ず必要となります。 開始から終了まで効率よく実行させるプログラムの設計書を作成するものと同じです。 効率のよいプログラムを作成できるようにしっかりと学習しましょう。						
りかいど 理 解 度 てすと かだい テ ス ト、課 題 など (レポ ー ト等)	毎回理解度テストを実施する。 定期試験は「筆記試験」または「フォームによる試験」とする。 必要に応じて授 業で取り組んだ課題の提出を求める。						
ていきしけん 定 期 試 験	【受験資格】出席率70%以上の学生 【試験方法】「筆記試験」または「フォームによる試験」						
せいせきひょうか 成 績 評 価 の ほうほう きじゆん 方 法 ・ 基 準	平常点10%、理解度テスト40%、定期試験50%の計100%で評価し、合計60%以上を合格とする。						
オフィス アワー	げつよう きんよう たんとうじゅぎょう じかん じぜん こうとう 月曜から金曜。担当授 業のない時間。事前に口頭・メールで予約すること。						
きょうざい 教 材	クラスルームに配布する電子テキスト						
さんこうしょ 参 考 書	基本情報技術者試験に関連するテキスト						

科目名	アルゴリズム論 d	担当教員	富永・数見
授 業 計 画			
回数	内容	ALの形態	授業の狙い
1週目	基本情報技術者試験（過去問） 解答と解説	事前学習型	アルゴリズムを理解し、フローチャートや疑似言語を作成できるようにする。
2週目	基本情報技術者試験（過去問） 解答と解説		
3週目	基本情報技術者試験（過去問） 解答と解説		
4週目	基本情報技術者試験（過去問） 解答と解説		
5週目	基本情報技術者試験（過去問） 解答と解説		
6週目	基本情報技術者試験（過去問） 解答と解説		
7週目	総復習		
8週目	定期試験		
9週目	定期試験の振り返り		
事前学習型授業：教科書／参考書等により講義部分を授業外に事前学習させた上で、授業内でその事前学習にもとづく演習をおこなわせる方法			

令和 7 年度シラバス

				担当教員 たんとうきょういん		実務経験 じつむけいけん	
				森久保 光一		○	
対象学科 たいしょうがつか	■IG □AI ■GS □BD □GB □IL						
科目名 かものめい	Pythonプログラミング a						
年次 ねんじ	1 年 ねん	開講期 かいこうき	第 1 期 だい 1 き	区分 くぶん	必修選択必修 ■必修□選択□必修	授業時数 じゅぎょうじすう	72 時間 72 じかん
授業 とうたつむくひょう 到達目標	【最終期授業の到達目標】 Python言語を使用して、自分が解決したいと考える課題を解決することができる。 【当期授業の到達目標】 プログラムの仕組みを理解できる。数値計算をプログラムで記述することができる。 外部ライブラリを利用することができる。						
授業概要 じゅぎょうがいよう	Pythonをもとに、アルゴリズムとプログラミングを実習にて身につける。						
授業の うんえいほうほう 運営方法	Pythonのチュートリアル項目を中心に授業を進め、必要なプログラムを提示する。 プログラムの説明をしたのち、学生はプログラムを参照しながら入力する。						
担当教員 からの メッセージ	キーボード配置を覚えて、可能な限りブラインドタッチができるようになってほしい。 授業中のサンプルを打ち込むだけでなく、さまざまな問題にチャレンジしてほしい。						
理解度 テスト、課題 りかいど	毎回Formsによる確認テストを実施する。						
定期試験 ていきしけん	【受験資格】出席率70%以上の学生 【試験方法】「筆記試験」または「フォームによる試験」						
成績評価の ほうほう 方法・基準	本校の成績評価基準に基づき、到達目標達成度を次の方法で評価する。 - 定期試験 50% - 平常点（授業態度や演習への取り組み）10% - 理解度テスト 40%						
オフィス アワー	放課後、メールベースあるいは対面にて対応。但し、事前に都合を確認のこと。						
教材 きょうざい	クラスルームに配布するプログラムファイル Pythonドキュメントサイト（https://docs.python.org/ja/3/index.html）内のチュートリアル						
参考書 さんこうしょ	Pythonに関する書籍（現在多数出版されています。本屋で立ち読みをして自分にあっているなと感じる本を購入して手元に置いておくと安心です。）						

科目名	Pythonプログラミング a	担当教員	森久保
授業計画			
回数	内容	ALの形態	授業の狙い
1週目	作業環境の構築・言語の種類 Pythonを使ってみる(チュートリアル第3章)	事前学習型	Pythonをもとに、アルゴリズムとプログラミングを実習にて身につける。
2週目	データ構造1 (リスト型・集合型・辞書型) (チュートリアル第5章) データ構造2 (スタック・キュー)		
3週目	制御文1 (if 文・for 文など) (チュートリアル第4章) 制御文2 (アルゴリズムと流れ図)		
4週目	関数 (標準モジュール) (チュートリアル第4章 6章)		
5週目	モジュールの取り込み		
6週目	関数 (パッケージ) (チュートリアル第6章) 関数の作り方を学修する 関数の使い方を学修する		
7週目	総復習 (試験対策)		
8週目	定期試験		知識の定着確認
9週目	定期試験の振り返り		
アクティブラーニングの類型 事前学習型授業：教科書／参考書等により講義部分を授業外に事前学習させた上で、授業内でその事前学習にもとづく演習をおこなわせる方法			

令和 7 年度シラバス

				担当教員	実務経験
				森久保 光一	○
対象学科	■IG □AI ■GS □BD □GB □IL				
科目名	Pythonプログラミング b				
年次	1 年	開講期	第 2 期	区分	必修選択必修 授業時数
					72 時間
授業到達目標	【最終期授業の到達目標】 Python言語を使用して、自分が解決したいと考える課題を解決することができる。 【当期授業の到達目標】 Pythonの基本を活用し、エラーや例外を理解できる。 Pythonのライブラリについて理解できる。仮想環境を作成することができる。				
授業概要	Pythonをもとに、アルゴリズムとプログラミングを実習にて身につける。				
授業の運営方法	Pythonのチュートリアル項目を中心に授業を進め、必要なプログラムを提示する。プログラムの説明をしたのち、学生はプログラムを参照しながら入力する。				
担当教員からのメッセージ	キーボード配置を覚えて、可能な限りブラインドタッチができるようになってほしい。授業中のサンプルを打ち込むだけでなく、さまざまな問題にチャレンジしてほしい。				
理解度テスト、課題	毎回Formsによる確認テストを実施する。				
定期試験	【受験資格】出席率70%以上の学生 【試験方法】「筆記試験」または「フォームによる試験」				
成績評価の方法・基準	本校の成績評価基準に基づき、到達目標達成度を次の方法で評価する。 - 定期試験 50% - 平常点（授業態度や演習への取り組み）10% - 理解度テスト 40%				
オフィスアワー	放課後、メールベースあるいは対面にて対応。但し、事前に都合を確認のこと。				
教材	クラスルームに配布するプログラムファイル Pythonドキュメントサイト（https://docs.python.org/ja/3/index.html）内のチュートリアル				
参考書	Pythonに関する書籍（現在多数出版されています。本屋で立ち読みをして自分にあっているなと感じる本を購入して手元に置いておくと安心です。）				

科目名	Pythonプログラミング b	担当教員	森久保
授業計画			
回数	内容	ALの形態	授業の狙い
1週目	クラスとオブジェクト指向1 (チュートリアル第9章) オブジェクト指向について知る	事前学習型	Pythonをもとに、アルゴリズムとプログラミングを実習にて身につける。
2週目	クラスとオブジェクト指向2 (チュートリアル第9章) クラスの作り方を学修する		
3週目	クラス1 (継承) (チュートリアル第9章) クラス継承の作り方を学修する		
4週目	クラス2 (継承) (チュートリアル第9章) クラス継承の使い方を学修する		
5週目	エラーと例外 (チュートリアル第8章) エラーと例外を学修する エラーと例外の対応を学修する		
6週目	標準ライブラリ1 (チュートリアル第10章) 標準ライブラリについて知る 標準ライブラリの使い方を学修する		
7週目	総復習 (試験対策)		
8週目	定期試験		知識の定着確認
9週目	定期試験の振り返り		
アクティブラーニングの類型 事前学習型授業：教科書／参考書等により講義部分を授業外に事前学習させた上で、授業内でその事前学習にもとづく演習をおこなわせる方法			

令和 7 年度シラバス

				担当教員 森久保 光一		実務経験 ○	
対象学科	IG AI GS BD GB IL						
科目名	Pythonプログラミング c						
年次	1 年	開講期	第 3 期	区分	必修 選択 必修	授業時数	72 時間
授業到達目標	【最終期授業の到達目標】 Python言語を使用して、自分が解決したいと考える課題を解決することができる。 【当期授業の到達目標】 PythonのGUI環境を利用した、2Dゲームのコーディングを学ぶ						
授業概要	IT系の実務経験者が、ゲームサンプルのプログラム作成を教授する。学生は、PythonによるGUI環境を構築し、これを用いて、2Dゲームのサンプルを作成する。この授業を通して、図形の描画、図形の移動、描画の切り替え等の基本動作を習得する。						
授業の運営方法	Python言語のプログラミング習熟と並行して、ゲーム題材とした課題プログラミングを作成してゆきます。作成を通してプログラミング技術を習得するとともに、GUIライブラリの活用を学び、GUIによる画面描画、プログラム操作ができるように学んでゆきます。						
担当教員からのメッセージ	GUIを使うプログラミングを使えるようになると、作成できるプログラムの幅が大きく広がります。簡単なゲームを作ってゆきますが、その中に、応用ができる多くのアイデアが含まれているので、後に、自分のアイデアでゲームや応用アプリを実現するときに使えるベース技術が身につきます。						
理解度テスト、課題	毎回Formsによる確認テストを実施する。						
定期試験	【受験資格】 出席率70%以上の学生 【試験方法】 「筆記試験」または「フォームによる試験」						
成績評価の方法・基準	本校の成績評価基準に基づき、到達目標達成度を次の方法で評価する。 - 定期試験 50% - 平常点（授業態度や演習への取り組み）10% - 理解度テスト 40%						
オフィスアワー	放課後、メールベースあるいは対面にて対応。但し、事前に都合を確認のこと。						
教材	クラスルームに配布するプログラムファイル Pythonドキュメントサイト（https://docs.python.org/ja/3/index.html）内のチュートリアル						
参考書	Pythonに関する書籍（現在多数出版されています。本屋で立ち読みをして自分にあっているなと感じる本を購入して手元に置いておくと安心です。）						

科目名	Pythonプログラミング c	担当教員	森久保
授業計画			
回数	内容	ALの形態	授業の狙い
1週目	標準ライブラリ3 (チュートリアル第11章)) 標準ライブラリの使い方を学修する	事前学習型	サンプルプログラムの作成を通じて、ゲーム動作とプログラム手法を学びます。
2週目	仮想環境とパッケージ1 (チュートリアル第12章) 仮想環境の作り方を学修する パッケージの使い方を学修する		
3週目	Python3エンジニア認定基礎試験について (試験概要、内容、合格基準、申し込み方法など)		
4週目	プライムストラテジの第1回Python3基礎模擬試験に取り組む		
5週目	プライムストラテジの第2回Python3基礎模擬試験に取り組む		
6週目	プライムストラテジの第3回Python3基礎模擬試験に取り組む		
7週目	総復習 (試験対策)		
8週目	定期試験		知識の定着確認
9週目	定期試験の振り返り		
アクティブラーニングの類型 事前学習型授業：教科書／参考書等により講義部分を授業外に事前学習させた上で、授業内でその事前学習にもとづく演習をおこなわせる方法			

令和 7 年度シラバス

れいわ ねんど 令和 7 年度シラバス				担当教員		実務経験		
				森久保 光一		○		
たいしょうがつか 対 象 学 科		■IG □AI ■GS □BD □GB □IL						
かもくめい 科 目 名		Python実習(ゲームプログラミング)						
ねんじ 年 次		1 年	かいこうき 開講期	だい 4 き 第 4 期	くぶん 区 分	■必修□選択□必選	じゅぎょうじすう 授 業 時 数	72 じかん 72 時間
じゅぎょう 授 業 とうたつもくひょう 到達目標		【最終期授 業の到達目 標】 ゲームプログラミングabcを通じ、オリジナルゲームを制作できるようになる。 【当期授 業の到達目 標】 企画から開発までの手順と技術を理解するとともに、作ってみたいゲーム企画を具体化し 実際に作成する簡易なゲームのポイントを説明できるようになる。						
じゅぎょうがいよう 授業概要		IT系の実務経験者が、ゲーム制作の流れを実例を含めて教授する。学生は、ゲームの企画から開発を行うまでの基本的な手順と技術を学び、ゲーム開発の企画を立案、プレゼンを行う。並行して、ビジュアル言語で簡易なゲームを作成し、理論と実際を結び付けて理解する。						
じゅぎょう 授業の うんえいほうほう 運営方法		ゲームのアイデア、デザイン、ルールを実際のゲームと対比しつつ学習し、ゲーム企画に必要な内容、ポイントを理解するとともに良く知っているゲームを分析してみる。これを基に、自分で作ってみたいゲームの企画書の作成を実習する。一方で、プログラムとゲームポイントの関連をビジュアル言語で簡易なゲームを作成しながら学習してゆく。						
たんとうきょういん 担当教員 からの メッセージ		面白い、楽しいというゲームを作るためには、アイデアだけでなく、様々な観点でレベルを高くしてゆく必要がある。この講座では、ゲームの構成を分析し、どのようにユーザ満足度を上げてゆくかを学びながら、自分が作ってみたいゲームのアイデア、企画を具体化してゆきます。合わせて、簡易なゲームを作り改善点等を検討してみます。						
りかいど 理解度 テスト かだい テスト、課題		作成した簡易ゲームの提出、企画書の作成提出を行います。 毎回Formsによる確認テストを実施する。						
ていきしけん 定期試験		【受験資格】出席率70%以上の学生 【試験方法】課題（企画書の提出）および、簡易ゲームの提出						
せいせきひょうか 成績評価の ほうほう 方法・基準		本校の成績評価基準に基づき、到達目標達成度を次の方法で評価する。 ・定期試験 50% ・平常点（授業態度や演習への取り組み）10% ・理解度テスト 40%						
オフィス アワー		放課後、メールベースあるいは対面にて対応。但し、事前に都合を確認のこと。						
きょうざい 教 材		なし						
さんこうしょ 参考書								

科目名	Python実習(ゲームプログラミング)	担当教員	森久保
授業計画			
回数	内容	ALの形態	授業の狙い
1週目	ガイドス Pygame Tkinterインストール カレンダープログラム CUIとGUI すごろくゲームをつくる	調査学習	ゲームのアイデア、デザイン、ルールを実際のゲームと対比しつつ学習し、ゲーム企画に必要な内容、ポイントを理解するとともに良く知っているゲームを分析してみる。これを基に、自分で作ってみたいゲームの企画書の作成を実習する。一方で、プログラムとゲームポイントの関連をビジュアル言語で簡易なゲームを作成しながら学習してゆく。
2週目	GUIの基礎 キャンバス、ラベル、ボタン おみくじゲームをつくる		
3週目	GUIの発展 テキスト入力、メッセージボックス、RGB、キー入力、マウス入力 診断ゲームをつくる		
4週目	めいろゲームをつくる		
5週目	落ちものパズルを作成する		
6週目	ダンジョンゲームを作成する(画面、移動)		
7週目	総復習(試験対策)		
8週目	定期試験		知識の定着確認
9週目	定期試験の振り返り		
アクティブラーニングの類型 事前学習型授業：教科書／参考書等により講義部分を授業外に事前学習させた上で、授業内でその事前学習にもとづく演習をおこなわせる方法			

令和 7 年度シラバス

				担当教員		実務経験	
				江尻 清佳		○	
				瀬戸 幸司		○	
対象学科				■IG ■AI ■GS □BD □GB □IL		○	
科目名				Webシステム開発基礎 a			
年次	1 年	開講期	第 1 期	区分	必修選択必修	授業時数	54 時間
授業 到達目標	【最終期授業の到達目標】 Web開発に必要なHTML/CSS/JavaScript及びフレームワークを利用した開発スキルを身につける。 【当期授業の到達目標】 Webクリエイター能力認定試験スタンダード受験可能レベル。 HTML/CSSを使ったWebページを作れるようになる。						
授業概要	HTMLとCSSを使って静的なWebページを作成するための環境構築から始め、実際のWebページ作成の実習を行う。						
授業の 運営方法	HTMLとCSSについて解説を加えながらWebページ作成の例題に取り組む。 HTMLのタグの機能やCSSによるページデザインの变化について、実習を通じて確認しながら進める。						
担当教員 からの メッセージ	昨今は、Webシステムが我々の身近なものとなっている。Webシステムでは、HTML/CSS/JavaScriptなどのクライアントサイドの技術が必須である。ここでは、その基礎となるHTMLとCSSを取り上げ、静的なWebページを作成できる技術を身につけてほしい。						
理解度 テスト、課題 (レポート等)	毎週理解度テストを実施する。 定期試験は課題制作とする。 必要に応じて授業で取り組んだ例題の提出を求める。						
定期試験	【受験資格】出席率70%以上の学生 【試験方法】仕様を提示しそれに基づいた課題を制作する						
成績評価の 方法・基準	平常点10%、理解度テスト40%、定期試験50%の計100%で評価し、合計60%以上を合格とする。						
オフィス アワー	月曜から金曜。担当授業のない時間。事前に口頭・メールで予約すること。						
教材	クラスルームに配布するプログラムファイル						
参考書	Webクリエイター能力認定試験 HTML5対応 スタンダード 公式テキスト						

科目名	Webシステム開発基礎 a	担当教員	江尻・瀬戸・丹治
授業計画			
回数	内容	ALの形態	授業の狙い
1週目	Webサイト制作の基礎知識 Webページ表示の仕組み、サイト制作環境構築	事前学習型	HTML/CSSによる静的なWebページ制作の基礎を身につける。
2週目	HTMLの基礎 HTML5の記述法、トップページの作成		
3週目	CSSの基礎 CSSの記述法、セレクタの種類、トップページのCSS作成		
4週目	各ページの作成 トップページをベースに各サブページを作成		
5週目	テーブルとそのスタイル テーブルの作成とCSSによるデザイン		
6週目	フォーム フォームの作成とCSSによるデザイン		
7週目	サイト公開前のチェック 1学期の総まとめ		
8週目	定期試験		
9週目	定期試験の振り返り		
事前学習型授業：教科書／参考書等により講義部分を授業外に事前学習させた上で、授業内でその事前学習にもとづく演習をおこなわせる方法			

令和 7 年度シラバス

れいわ 7 ねんど 令和 7 年度シラバス				担当教員		実務経験		
				江尻 清佳		○		
				瀬戸 幸司		○		
対 象 学 科		■IG ■AI ■GS □BD □GB □IL		丹治 恵美子		○		
科 目 名		Webシステム開発基礎 b						
ねん じ 年 次		1 ねん 年	かいこう き 開講期	だい 2 き 第 2 期	くぶん 区分	■必修□選択□必選	じゅぎょう じすう 授 業 時 数	54 じかん 時 間
授 業 到達目標		【最終期授 業の到達目標】 Web開発に必要なHTML/CSS/JavaScript及びフレームワークを利用した開発スキルを身につける。 【当期授 業の到達目標】 Webクリエイター能力認定試験スタンダード受験可能レベル。 HTML/CSSを使ったWebページを作れるようになる。						
授 業 概 要		1学期に学んだ知識をもとに、検定試験の模擬問題を解くことで知識の定着を図る。 また、検定試験出題パターンの理解を深め、合格を目指す。						
授 業 の 運 営 方 法		受験者用リファレンスを参照しながら模擬問題を解く。また、正解を示しながら各問の解説を行う。間違いやすいポイントを補足する。						
担 当 教 員 からの メ ッ セ ー ジ		昨今は、Webシステムが我々の身近なものとなっている。Webシステムでは、HTML/CSS/JavaScriptなどのクライアントサイドの技術が必須である。ここでは、その基礎となるHTMLとCSSを取り上げ、静的なWebページを作成できる技術を身につけてほしい。						
理 解 度 テ ス ト、課 題 (レポ ー ト 等)		毎 週 理 解 度 テ ス ト を 実 施 す る。 定 期 試 験 は 課 題 制 作 と す る。 必要に応じて授 業 で 取 り 組 ん だ 例 題 の 提 出 を 求 め る。						
定 期 試 験		【受験資格】出席率70%以上の学生 【試験方法】仕様を提示しそれに基づいた課題を制作する						
成 績 評 価 の 方 法 ・ 基 準		平常点10%、理解度テスト40%、定期試験50%の計100%で評価し、合計60%以上を合格とする。						
オ フ ィ ス ア ワ ー		月曜から金曜。担当授 業 の ない 時 間。事前に口頭・メールで予約すること。						
教 材		クラスルームに配布するプログラムファイル						
参 考 書		Webクリエイター能力認定試験 HTML5対応 スタンダード 公式テキスト						

科目名	Webシステム開発基礎 b	担当教員	江尻・瀬戸・丹治
授 業 計 画			
回数	内容	ALの形態	授業の狙い
1週目	検定試験について 試験の概要、受験者用リファレンスについて	事前学習型	HTML/CSSによる静的なWeb ページ制作の基礎を身に 着ける。
2週目	模擬問題① 模擬試験		
3週目	模擬問題① 解説		
4週目	模擬問題② 模擬試験		
5週目	模擬問題② 解説		
6週目	模擬問題③ 模擬試験		
7週目	模擬問題③ 解説		
8週目	定期試験		
9週目	定期試験の振り返り		
事前学習型授業：教科書／参考書等により講義部分を授業外に事前学習させた上で、授業内でその事前学習にもとづく演習をおこなわせる方法			

令和 7 年度シラバス

				担当教員 たんとうきょういん	実務経験 じつむけいけん		
				江尻 清佳	○		
				瀬戸 幸司	○		
対象学科 たいしょうがつか				■IG ■AI ■GS □BD □GB □IL	○		
科目名 かもくめい				Webシステム開発基礎 c かいはつ き そ			
年次 ねん じ	1 年 ねん	開講期 かいこう き	第 3 期 だい 3 き	区分 くぶん	必修選択必修 ■必修□選択□必修	授業時数 じゅぎょう じ すう	54 時間 54 じかん
授業 とうたつもくひょう 到達目標	【最終期授業の到達目標】 Web開発に必要なHTML/CSS/JavaScript及びフレームワークを利用した開発スキルを身につける。 【当期授業の到達目標】 JavaScriptの基本を理解し、動的なWebページを作成することができる。						
授業概要 じゅぎょうがいよう	JavaScriptを基本構文から学び、イベント処理やアニメーションなど、動的なWebページの作成方法について理解する						
授業の うんえいほうほう 運営方法	JavaScriptについて解説を加えながら、Webページ作成の例題に取り組む。 JavaScriptによる動的なWebページの作成方法について、実習を通じて確認しながら進める。						
担当教員 からの メッセージ	昨今は、Webシステムが我々の身近なものとなっている。Webシステムでは、HTML/CSS/JavaScriptなどのクライアントサイドの技術が必須である。ここでは、クライアントサイド言語としてJavaScriptを取り上げ、動的なWebページを作成できる技術を身につけてほしい。						
理解度 テスト、課題 (レポート等)	毎週理解度テストを実施する。 定期試験は課題制作とする。 必要に応じて授業で取り組んだ例題の提出を求める。						
定期試験	【受験資格】出席率70%以上の学生 【試験方法】仕様を提示しそれに基づいた課題を制作する						
成績評価の ほうほう きじゆん 方法・基準	平常点10%、理解度テスト40%、定期試験50%の計100%で評価し、合計60%以上を合格とする。						
オフィス アワー	月曜から金曜。担当授業のない時間。事前に口頭・メールで予約すること。						
教材	クラスルームに配布するプログラムファイル						
参考書	1冊ですべて身につくJavaScript入門講座						

科目名	Webシステム開発基礎 c	担当教員	江尻・瀬戸・丹治
授 業 計 画			
回数	内容	ALの形態	授業の狙い
1週目	JavaScriptとは	事前学習型	JavaScriptによる動的なWebページ制作の基礎を身に着ける。
2週目	JavaScriptの基本機能		
3週目	イベント操作① 標準インターフェースの利用		
4週目	イベント操作② 条件分岐		
5週目	データと配列		
6週目	アニメーション		
7週目	Webサイトへの応用		
8週目	定期試験		
9週目	定期試験の振り返り		
事前学習型授業：教科書／参考書等により講義部分を授業外に事前学習させた上で、授業内でその事前学習にもとづく演習をおこなわせる方法			

令和 7 年度シラバス

				担当教員	実務経験
				江尻 清佳	○
				瀬戸 幸司	○
対象学科	■IG ■AI ■GS □BD □GB □IL			丹治 恵美子	○
科目名	Webシステム開発基礎 d				
年次	1 年	開講期	第 4 期	区分	必修選択必修 授業時数
授業到達目標	【最終期授業の到達目標】 Web開発に必要なHTML/CSS/JavaScript及びフレームワークを利用した開発スキルを身につける。 【当期授業の到達目標】 PHPの基本を理解し、データベースの参照・編集・削除ができるようになる。 PHPフレームワークを用いたWebシステムが作れるようになる。				
授業概要	前半は、PHPの構文とSQLについて学び、データベース処理の基本を修得する。 後半は、フレームワークの使い方を学び、効率の良い開発方法を修得する。				
授業の運営方法	PHPとSQLについて解説を加えながらWebページ作成の例題に取り組む。 データベース処理の基本について仕組みを理解したうえで、フレームワークを使用した実践的な開発をする。				
担当教員からのメッセージ	昨今は、Webシステムが我々の身近なものとなっている。Webシステムでは、PHPなどのサーバーサイドの技術によりデータベースを扱うことが必須である。ここでは、PHPとSQLを取り上げ、データベースを扱うWebページを作成できる技術を身につけてほしい。				
理解度テスト、課題(レポート等)	毎週理解度テストを実施する。 定期試験は課題制作とする。 必要に応じて授業で取り組んだ例題の提出を求める。				
定期試験	【受験資格】 出席率70%以上の学生 【試験方法】 仕様を提示しそれに基づいた課題を制作する				
成績評価の方法・基準	平常点10%、理解度テスト40%、定期試験50%の計100%で評価し、合計60%以上を合格とする。				
オフィスアワー	月曜から金曜。担当授業のない時間。事前に口頭・メールで予約すること。				
教材	クラスルームに配布するプログラムファイル				
参考書	よくわかるPHPの教科書 PHP7対応版 プロフェッショナルWebプログラミング Laravel				

科目名	Webシステム開発基礎 d	担当教員	江尻・瀬戸・丹治
授 業 計 画			
回数	内容	ALの形態	授業の狙い
1週目	データベースを使用したWebシステムについて PHPの基本的な構文	事前学習型	PHPによる動的なWebページ制作の基礎を身に着ける。 PHPフレームワークLaravelの導入と基本的な使用方法を身に着ける。
2週目	変数と計算		
3週目	ループと条件分岐		
4週目	データベースとSQL		
5週目	フレームワークの導入		
6週目	アプリケーションの基本構造の作成 データベースへの投稿・編集・削除		
7週目	アプリケーションを完成させる ログイン機能の追加		
8週目	定期試験		
9週目	定期試験の振り返り		
事前学習型授業：教科書／参考書等により講義部分を授業外に事前学習させた上で、授業内でその事前学習にもとづく演習をおこなわせる方法			

令和 7 年度シラバス

				担当教員 たんとくきょういん		実務経験 じつむけいけん	
				佐竹 真彰		○	
対象学科 たいしょうがつか	■IG ■AI □GS □BD □GB □IL						
科目名 かもくめい	ロジカルシンキング a						
年次 ねんじ	1 年 ねん	開講期 かいこうき	第 1 期 だい 1 き	区分 くぶん	必修 ひつしゅう	選択 せんたく	授業時数 じゅぎょうじすう
					必修 ■必修	選択 □選択	18 時間 じかん
授業 授業 到達目標 じゅぎょう とうたつもくひょう	【最終期授業の到達目標】 ロジカルシンキングを活用した問題解決方法を理解する 【当期授業の到達目標】 ロジカルシンキングを活用した問題解決方法（MECE、PDCA等）を理解する						
授業概要 じゅぎょうがいよう	物事を考えるとき、正確な答えを導き出すために必要な要素を網羅しながらも、それらが重複しないようにする考え方を理解し、活用するスキルを身につける。						
授業の 運営方法 じゅぎょう うんえいほうほう	ロジカルシンキングを具体的に段階的に解説していく。 物事を「モレなく、ダブリなく」考えるための手段を例題と問題で考えながら進めていく。						
担当教員 からの メッセージ たんとくきょういん	システム開発やビジネスシーンにおいて、正確な答えを導き出すために必要な要素を網羅しながらも、それらが重複しないようにする考え方は重要です。 ロジカルシンキングを活用した問題解決方法を理解して、活用できるようになりましょう。						
理解度 テスト、課題 りかいど	毎回Formsによる確認テストを実施する。						
定期試験 ていきしけん	【受験資格】出席率70%以上の学生 【試験方法】フォームによる試験						
成績評価の 方法・基準 せいせきひょうか	本校の成績評価基準に基づき、到達目標達成度を次の方法で評価する。 - 定期試験 50% - 平常点（授業態度や演習への取り組み）10% - 理解度テスト 40%						
オフィス アワー	放課後、メールベースあるいは対面にて対応。但し、事前に都合を確認のこと。						
教材 きょうざい	クラスルームに配布する電子テキスト						
参考書 さんこうしょ							

科目名	ロジカルシンキング a	担当教員	佐竹
授業計画			
回数	内容	ALの形態	授業の狙い
1週目	ロジカルシンキングとは MECE（ミーシー）とは PDCAサイクルを使った例題	調査学習	ロジカルシンキングを 具体的に段階的に解説し ていく。 物事を「モレなく、ダブ リなく」考えるための 手段を例題と問題で考え ながら進めていく。
2週目	ECRSとは ECRSを使った例題	調査学習	
3週目	KPTとは KPTを使った例題	調査学習	
4週目	マンダラートとは マトリクス図・表を使った例題	調査学習	
5週目	ベン図とは ベン図を使った例題	調査学習	
6週目	ロジックツリーとは ロジックツリーを使った例題	調査学習	
7週目	総復習(定期試験対策)	調査学習	知識の定着確認
8週目	定期試験		
9週目	定期試験の振り返り		
アクティブラーニングの類型 ・調査学習…学生が与えられたテーマに対して、授業中や授業外学習において自ら調べ物をさせる方法。			

令和 7 年度シラバス

				担当教員	実務経験
				佐竹 真彰	○
対象学科	■IG ■AI □GS □BD □GB □IL				
科目名	ロジカルシンキング b				
年次	1 年	開講期	第 2 期	区分	必修選択必修 授業時数
授業到達目標	【最終期授業の到達目標】 ロジカルシンキングを活用した問題解決方法を理解する 【当期授業の到達目標】 問題解決法を活用できるようにする				
授業概要	物事を考えるとき、正確な答えを導き出すために必要な要素を網羅しながらも、それらが重複しないようにする考え方を理解し、活用するスキルを身につける。				
授業の運営方法	ロジカルシンキングを具体的に段階的に解説していく。 物事を「モレなく、ダブリなく」考えるための手段を例題と問題で考えながら進めていく。				
担当教員からのメッセージ	システム開発やビジネスシーンにおいて、正確な答えを導き出すために必要な要素を網羅しながらも、それらが重複しないようにする考え方は重要です。 ロジカルシンキングを活用した問題解決方法を理解して、活用できるようになりましょう。				
理解度テスト、課題	毎回Formsによる確認テストを実施する。				
定期試験	【受験資格】出席率70%以上の学生 【試験方法】フォームによる試験				
成績評価の方法・基準	本校の成績評価基準に基づき、到達目標達成度を次の方法で評価する。 - 定期試験 50% - 平常点（授業態度や演習への取り組み）10% - 理解度テスト 40%				
オフィスアワー	放課後、メールベースあるいは対面にて対応。但し、事前に都合を確認のこと。				
教材	クラスルームに配布する電子テキスト				
参考書					

科目名	ロジカルシンキング b	担当教員	佐竹
授 業 計 画			
回数	内容	ALの形態	授業の狙い
1週目	3C分析とは 3C分析を使った例題	調査学習	ロジカルシンキングを具体的に段階的に解説していく。 物事を「モレなく、ダブリなく」考えるための手段を例題と問題で考えながら進めていく。
2週目	4P分析とは ECRSを使った例題	調査学習	
3週目	SWOT分析とは SWOT分析を使った例題	調査学習	
4週目	ロジカル面接術① オンライン面接・コミュニケーション力	調査学習	
5週目	ロジカル面接術② 自己PR作成	調査学習	
6週目	ロジカル面接術③ 志望動機	調査学習	
7週目	総復習(定期試験対策)	調査学習	
8週目	定期試験		知識の定着確認
9週目	定期試験の振り返り		
アクティブラーニングの類型 - 調査学習…学生が与えられたテーマに対して、授業中や授業外学習において自ら調べ物をさせる方法。 - プレゼンテーション…学生がスライド等を用いて発表資料を作成し、他の学生の前で自ら発表を行わせる方法。			

令和 7 年度シラバス

				担当教員		実務経験	
				佐竹 真彰		○	
対象学科	■IG ■AI □GS □BD □GB □IL						
科目名	コミュニケーション技法 a						
年次	1 年	開講期	第 3 期	区分	必修 ■必修□選択□必選	授業時数	18 時間
授業 到達目標	【最終期授業の到達目標】 社会で必要となるコミュニケーションスキルを身につける。 【当期授業の到達目標】 コミュニケーションとは何かを知り、その大切さを実感したうえで、コミュニケーションスキルを身につける。						
授業概要	IT系実務経験者により、コミュニケーションについての必要性/重要性を伝える。クラスをいくつかのグループに分け、ワークショップ形式の実習を通して、「傾聴力」「説明力」「質問力」「協調性」等を伸ばしていく。特にaでは人との会話（面接なども含め）について集中的に実施する。						
授業の 運営方法	毎授業、テーマを決めてそのテーマについて学習を行う。学習は、グループに分かれて、グループごとにディスカッションなどを行っていく。						
担当教員 からの メッセージ	・批判はせず、まず受け入れる事。 ・積極的に発言をすること。 まだ話したことがないクラスメイトなどとも積極的に話をして、コミュニケーション力を身につけていきましょう。						
理解度 テスト、課題	授業毎に、理解度テストを実施。						
定期試験	【受験資格】出席率70%以上の学生 【試験方法】「筆記試験」または「フォームによる試験」						
成績評価の 方法・基準	本校の成績評価基準に基づき、到達目標達成度を次の方法で評価する。 - 定期試験 50% - 平常点（授業態度や演習への取り組み）10% - 理解度テスト 40%						
オフィス アワー	放課後、メールベースあるいは対面にて対応。但し、事前に都合を確認のこと。						
教材	クラスルームに配布する電子テキスト						
参考書							

科目名	コミュニケーション技法 a	担当教員	佐竹
授業計画			
回数	内容	ALの形態	授業の狙い
1週目	ガイダンス コミュニケーションとは	事前学習型	グループワークを通して コミュニケーション力を 身につける
2週目	コミュニケーションスキル 前段階 自分を知ろう (ジョハリの窓)	グループ ワーク	
3週目	コミュニケーションスキル 前段階 自分を知ろう (性格/交流分析)	グループ ワーク	
4週目	コミュニケーションスキル 前段階 自分を知ろう (こころについて)	グループ ワーク	
5週目	コミュニケーションの基本① 「伝える」 人とつながろう	グループ ワーク	
6週目	コミュニケーションの基本① 「伝える」 対人関係の基本	グループ ワーク	
7週目	コミュニケーションの基本① 「伝える」 言いたいことをうまく伝える技術	グループ ワーク	
8週目	定期試験		知識の定着確認
9週目	定期試験の振り返り		
AL形態の内容 グループワーク：学生を少人数のグループに分け、与えられた課題に協同で取り組ませる方法。 2人組によるペアワークも含む。			

令和 7 年度シラバス

				担当教員 佐竹 真彰		実務経験 ○	
対象学科	IG AI GS BD GB IL						
科目名	コミュニケーション技法 b						
年次	1 年	開講期	第 4 期	区分	必修 選択 必選	授業時数	18 時間
授業到達目標	【最終期授業の到達目標】 社会で必要となるコミュニケーションスキルを身につける。 【当期授業の到達目標】 コミュニケーションとは何かを知り、その大切さを実感したうえで、コミュニケーションスキルを身につける。						
授業概要	IT系実務経験者により、コミュニケーションについての必要性/重要性を伝える。クラスをいくつかのグループに分け、ワークショップ形式の実習を通して、「傾聴力」「説明力」「質問力」「協調性」等を伸ばしていく。特にaでは人との会話（面接なども含め）について集中的に実施する。						
授業の運営方法	毎授業、テーマを決めてそのテーマについて学習を行う。学習は、グループに分かれて、グループごとにディスカッションなどを行っていく。						
担当教員からのメッセージ	・批判はせず、まず受け入れる事。 ・積極的に発言をすること。 まだ話したことがないクラスメイトなどとも積極的に話をして、コミュニケーション力を身につけていきましょう。						
理解度テスト、課題	授業毎に、理解度テストを実施。						
定期試験	【受験資格】出席率70%以上の学生 【試験方法】「筆記試験」または「フォームによる試験」						
成績評価の方法・基準	本校の成績評価基準に基づき、到達目標達成度を次の方法で評価する。 - 定期試験 50% - 平常点（授業態度や演習への取り組み） 10% - 理解度テスト 40%						
オフィスアワー	放課後、メールベースあるいは対面にて対応。但し、事前に都合を確認のこと。						
教材	クラスルームに配布する電子テキスト						
参考書							

科目名	コミュニケーション技法 b	担当教員	佐竹
授 業 計 画			
回数	内容	ALの形態	授業の狙い
1週目	コミュニケーションの基本②「聴く」 上手な聴き方をしよう	グループワーク	グループワークを通して コミュニケーション力を 身につける
2週目	コミュニケーションの基本②「聴く」 悩みを聴く/正しく理解する	グループワーク	
3週目	コミュニケーションの基本②「聴く」 傾聴とは/聞くことの重要性	グループワーク	
4週目	コミュニケーションの基本②「聴く」 傾聴の技術	グループワーク	
5週目	コミュニケーションの基本③「対応する」 質問の重要性	グループワーク	
6週目	コミュニケーションの基本③「対応する」 質問力を身につける	グループワーク	
7週目	コミュニケーションの基本③「対応する」 賛成や反対をする	グループワーク	知識の定着確認
8週目	定期試験		
9週目	定期試験の振り返り		
AL形態の内容 グループワーク：学生を少人数のグループに分け、与えられた課題に協同で取り組ませる方法。 2人組によるペアワークも含む。			

れいわ ねんど 令和 7 年度シラバス				たんとうきょういん 担当教員		じつむけいけん 実務経験	
				は の 杷野		○	
				ふるや 古屋		○	
たいしょうがつか 対象学科	■IG ■AI ■GS ■BD □GB □IL			うちやま 内山		○	
かもくめい 科目名	キャリアデザイン I a						
ねんじ 年次	ねん 1 年	かいこうき 開講期	だい き 第 1 期	くぶん 区分	ひつしゅう せんたく ひつせん ■必修□選択□必選	じゅぎょうじすう 授業時数	じかん 18時間
じゅぎょう 授業 とうたつむくひょう 到達目標	【最終期授業の到達目標】 ①就 職 活動に必要なとなる履歴書、面接、業界・企業研究等に関するポイントを理解する。 ②企業が求める能力・スキルを理解し、それに見合う力を身に着ける。 ③春期休業期間中に実施するインターンシップに参加するための準備を完了する。 【当期授業の到達目標】 日本の雇用環境、採用文化、業界、職種、仕事をするうえで必要となる能力、スキル等、就 職 活動のポイントを理解するとともに、企業の探し方、企業研究の方法について学ぶ。						
じゅぎょうがいよう 授業概要	授業は就 職 支援の担当部署であるキャリアセンター職員に加え、企業の採用担当者及び実務経験者が講師となり、実際の、実践的な視点から就 職 のポイントを理解する。なお、企業の都合を踏まえ、各週のテーマが変更となる場合がある。						
じゅぎょう 授業の うんえいほうほう 運営方法	授業運営に際し、資料（紙）に加え動画を活用してより理解が深まるよう工夫する。 受講者は事前課題に取り組むとともに、理解度テストで習熟度を図る。 企業の採用担当者にも参加いただき、実際の知識、ノウハウの修得を目指す。						
たんとうきょういん 担当教員 からの メッセージ	就 職 を成功させるためには、早めの準備と計画的な実行が大事です。就 職 活動の全体像を理解し、企業の採用スケジュールに遅れることなく進めましょう。						
りかいど 理解度 テスト	授業毎にFormsによる確認テストを実施する。						
ていきしけん 定期試験	【受験資格】出席率70%以上の学生 【試験方法】筆記試験または「フォームによる試験」						
せいせきひょうか 成績評価 の ほうほう きじゆん 方法・基準	本校の成績評価基準に基づき、到達目標達成度を次の方法で評価する。 - 定期試験 50% - 平常点（授業態度や演習）への取り組み 10% - 理解度テスト 40%						
オフィス アワー	放課後、メールあるいは対面にて対応。但し、事前に都合を確認のこと。						
きょう ざい 教 材	クラスルームに配布する電子テキスト						
さんこうしょ 参考書	「就 職 活動がまるごとわかる本」（マイナビ出版） 「こう動く！就 職 活動オールガイド ’ 25年版」（成美堂出版）						

科目名	キャリアデザイン I a	担当教員	は の ふるや うちやま 杷野・古屋・内山
授 業 計 画			
回数	授業内容	AL の形態	授業の狙い
1週目	オリエンテーション	対話議論型 授業	日本の就職活動の特徴 およびスケジュールを理解する。
2週目	就職活動を成功させるために、日本の雇用環境、採用文化、雇用形態、働き方等、就職活動の流れ等を理解する。	対話議論型 授業	業界、職種について理解する。
3週目	各業種の概要を理解するとともに、IT業界の構造、特徴、仕事の流れ等を理解する。	対話議論型 授業	IT業界の特徴や仕事内容について企業から話を伺い理解を深める。
4週目	IT業界における職種（コンサルタント、SE、PG、テスター、オペレーター等）を理解する。	対話議論型 授業	今までの内容を振り返り、会社選びの基準を考える。
5週目	企業研究方法を学び、「企業研究シート」を活用し、演習を通して企業選択時の軸（要点）をつくる。	対話議論型 授業	修得した知識、ノウハウの理解度を確認する。
6週目	IT業界の特徴や仕事内容、必要となる能力等について、企業の採用担当者から話を伺い理解を深める。	対話議論型 授業	当学期で学習した内容を振り返り、要点を理解する。
7週目	仕事選びの基準を考え、自分にとって「良い会社」とは何かについて考える。	対話議論型 授業	
8週目	定期試験		
9週目	当学期の授業の振り返り及び定期試験の解説	対話議論型 授業	
【AL形態の内容】 対話議論型：講師からの発問による対話、学生間の議論を取り入れた講義 事前学習型：あらかじめ講師が掲示した資料を読み事前に学習し、実践を中心とした講義。 調査学習型：問題解決のため、インターネットや関連書籍を自らが調査し、学んでいく講義。 ロールプレイ：学生に特定の役割を与えて演じさせることを通じ、それぞれの立場の人の考え方を体験的に学ぶ方法。			

れいわ ねんど
令和 7 年度シラバス

れいわ ねんど 令和 7 年度シラバス				たんとうきょういん 担当教員		じつむけいけん 実務経験	
				は の 杷野		○	
				ふるや 古屋		○	
たいしょうがつか 対象学科	■IG ■AI ■GS ■BD □GB □IL			うちやま 内山		○	
かもくめい 科目名	キャリアデザイン I b						
ねんじ 年次	ねん 1 年	かいこうき 開講期	だい き 第 2 期	くぶん 区分	ひっしゅう せんたく ひつせん ■必修□選択□必選	じゅぎょうじすう 授業時数	じかん 18時間
じゅぎょう 授業 とうたつもくひょう 到達目標	【最終期授業の到達目標】 ①就 職 活動に必要なとなる履歴書、面接、業界・企業研究等に関するポイントを理解する。 ②企業が求める能力・スキルを理解し、それに見合う力を身に着ける。 ③春期休業期間中に実施するインターンシップに参加するための準備を完了する。 【当期授業の到達目標】 自己分析のツールを活用し、自分の興味や関心、特徴や能力を客観的に捉え、どのような業界や職種が適しているか理解するとともに、自己PRの材料を洗い出す。						
じゅぎょうがいよう 授業概要	授業は就 職 支援の担当部署であるキャリアセンター職員に加え、企業の採用担当者及び実務経験者が講師となり、実際の、実践的な視点から就 職 のポイントを理解する。なお、企業の都合を踏まえ、各週のテーマが変更となる場合がある。						
じゅぎょう 授業の うんえいほうほう 運営方法	授業運営に際し、資料（紙）に加え動画を活用してより理解が深まるよう工夫する。 受講者は事前課題に取り組むとともに、理解度テストで習熟度を図る。 企業の採用担当者にも参加いただき、実践的な知識、ノウハウの修得を目指す。						
たんとうきょういん 担当教員 からの メッセージ	会社を早期退職する人の多くが、入社したら自分の興味のない仕事や能力・得意分野をいかすことのできない仕事についてたことを退職の理由に挙げています。就 職 活動のスタートにあたり、まずは自分自身をよく理解し、そのうえでやりたい仕事を見つけることが大事です。						
りかいど 理解度 テスト	授業毎にFormsによる確認テストを実施する。						
ていきしけん 定期試験	【受験資格】出席率70%以上の学生 【試験方法】筆記試験または「フォームによる試験」						
せいせきひょうか 成績評価 の ほうほう きじゅん 方法・基準	本校の成績評価基準に基づき、到達目標達成度を次の方法で評価する。 ・定期試験 50% ・平常点（授業態度や演習）への取り組み 10% ・理解度テスト 40%						
オフィス アワー	放課後、メールあるいは対面にて対応。但し、事前に都合を確認のこと。						
きょうざい 教 材	クラスルームに配布する電子テキスト						
さんこうしょ 参考書	「あなたが「一番輝く」仕事を見つける 最強の自己分析」（KADOKAWA） 「就活必修！1 週間でできる自己分析2025」（さくら舎）						

科目名	キャリアデザイン I b	担当教員	は の ふるや うちやま 杷野・古屋・内山
授 業 計 画			
回数	授業内容	AL の形態	授業の狙い
1週目	自己分析の重要性および分析方法を理解するとともに、自分の長所、スキルを認識するため、WEB性格診断テストを受ける。	対話議論型 授業	
2週目	自分の人生曲線をテンプレートを活用して描くことにより、これまでの振り返りとこれからの学生生活の過ごし方についてイメージを描く。	対話議論型 授業	自己分析の重要性を理解し、性格診断テストや分析ツールを活用するとともに
3週目	ジョハリの窓ワークシートを活用し、自分と他人の認識の違いを理解するとともに、その原因を探り他人の認識を受け入れる。	対話議論型 授業	他者の意見も参考に採り入れ、客観的に自分を理解する。
4週目	グループで他己紹介を行い、他者からみた自分について理解する。	対話議論型 授業	また、卒業までの学生生活のスケジュールを立ててみる。
5週目	就活診断ツールにより自己分析を行うとともに、適職診断ツールを活用して、業界や職種で求められる人物像と合致するか自己評価する。	対話議論型 授業	
6週目	企業の採用担当者から自己分析の必要性、重要性について伺うとともに、学生はプレゼンテーションを行い、企業からコメントを頂く。	対話議論型 授業	企業から自己分析の重要性について話を伺うとともに、頂いたコメントを参照し自己PRを作成する。
7週目	これまでの授業を踏まえ、自己PRを300文字～600文字で記述する。なお、作成した自己PRはグループワークを通してメンバー間で発表する。	対話議論型 授業	
8週目	定期試験		修得した知識、ノウハウの理解度を確認する。
9週目	当学期の授業の振り返り及び定期試験の解説	対話議論型 授業	当学期で学習した内容を振り返り、要点を理解する。
【AL形態の内容】 対話議論型：講師からの発問による対話、学生間の議論を取り入れた講義 事前学習型：あらかじめ講師が掲示した資料を読み事前に学習し、実践を中心とした講義。 調査学習型：問題解決のため、インターネットや関連書籍を自らが調査し、学んでいく講義。 ロールプレイ：学生に特定の役割を与えて演じさせることを通じ、それぞれの立場の人の考え方を体験的に学ぶ方法。			

れいわ ねんど
令和 7 年度シラバス

れいわ ねんど 令和 7 年度シラバス				たんとうきょういん 担当教員		じつむけいけん 実務経験		
				は の 杷野		○		
				ふるや 古屋		○		
たいしょうがつか 対象学科				■IG ■AI ■GS ■BD □GB □IL		○		
かもくめい 科目名				キャリアデザイン I c				
ねんじ 年次		ねん 1 年	かいこうき 開講期	だい き 第 3 期	くぶん 区分	ひっしゅう せんたく ひつせん ■必修□選択□必選	じゅぎょうじすう 授 業 時 数	じ かん 18時間
じゅぎょう 授 業 とうたつむくひょう 到達目標		【最終期授 業の到達目標】 ①就 職活動に必要なとなる履歴書、面接、業界・企業研究等に関するポイントを理解する。 ②企業が求める能力・スキルを理解し、それに見合う力を身につける。 ③春期休業期間中に実施するインターンシップに参加するための準備を完了する。 【当期授 業の到達目標】 Y S Eの履歴書・自己紹介書のフォームに沿って、記入のポイントと事例を参考に作成する。 併せてエントリーシートについても記入のポイントと事例を参考に作成する。						
じゅぎょうがいよう 授 業 概 要		授 業は就 職支援の担当部署であるキャリアセンター職員に加え、企業の採用担当者及び実務経験者が講師となり、実際の、実践的な視点から就 職のポイントを理解する。なお、企業の都合を踏まえ、各週のテーマが変更となる場合がある。						
じゅぎょう 授 業 の うんえいほうほう 運 営 方 法		授 業運営に際し、資料（紙）に加え動画を活用してより理解が深まるよう工夫する。 受講者は事前課題に取り組むとともに、理解度テストで習熟度を図る。 企業の採用担当者にも参加いただき、実際の知識、ノウハウの修得を目指す。						
たんとうきょういん 担 当 教 員 か ら の メ ッ セ ー ジ		就 職試験を受ける際、どの業界、どの企業もまずは履歴書・自己紹介書やエントリーシートの提出が必要となります。記入のポイントと事例を参照し、当期までに応募書類を完成させましょう。						
り か い ど 理 解 度 テ ス ト		授 業毎にFormsによる確認テストを実施する。						
ていきしけん 定 期 試 験		【受験資格】出席率70%以上の学生 【試験方法】筆記試験または「フォームによる試験」						
せいせきひょうか 成 績 評 価 の ほうほう きじゆん 方 法 ・ 基 準		ほんこう せいせきひょうか きじゆん もと とうたつむくひょう たつせいど つぎ ほうほう ひょう か 本校の成績評価基準に基づき、到達目標達成度を次の方法で評価する。 ・定期試験 50% ・平常点（授 業態度や演 習）への取り組み 10% ・理解度テスト 40%						
オフィス アワー		ほう か ご 放課後、メールあるいは対面にて対応。但し、事前に都合を確認のこと。						
きょう ざい 教 材		クラスルームに配布する電子テキスト						
さんこうしょ 参 考 書		「内定者はこう書いた！エントリーシート【完全版】」（高橋書店）						

科目名	キャリアデザイン I c	担当教員	は の ふるや うちやま 杷野・古屋・内山
授 業 計 画			
回数	授 業 内 容	AL の 形 態	授 業 の 狙 い
しゅうめ 1週目	履歴書作成のポイントを理解し、記入例を参考に作成する。 適性試験演習	対話議論型 授 業	履歴書・自己紹介書作成 のポイントを理解し、事例 を参考に作成する。
しゅうめ 2週目	自己紹介書の「学習」について、記入のポイントを理解 し、事例を参考に作成する。 適性試験演習	対話議論型 授 業	
しゅうめ 3週目	自己紹介書の「学習以外」について、記入のポイント を理解し、事例を参考に作成する。 適性試験演習	対話議論型 授 業	
しゅうめ 4週目	自己紹介書の「自己PR（長所・短所）」について、記入 のポイントを理解し、事例を参考に作成する。 適性試験演習	対話議論型 授 業	
しゅうめ 5週目	自己紹介書の「志望動機」について、記入のポイント を理解し、事例を参考に作成する。 適性試験演習	対話議論型 授 業	
しゅうめ 6週目	企業の採用担当者から、履歴書・自己紹介書作成のポイン トについて話を伺うとともに、作成した書類についてコメ ントをいただく。 適性試験演習	ロールプレイ	履歴書・自己紹介書につ いて、企業からアドバイ スを頂く。
しゅうめ 7週目	履歴書・自己紹介書を完成する。 適性試験演習	対話議論型 授 業	履歴書・自己紹介書を 完成する。
しゅうめ 8週目	定期試験		修得した知識、ノウハウ の理解度を確認する。
しゅうめ 9週目	当学期の授業の振り返り及び定期試験の解説 適性試験演習	対話議論型 授 業	当学期で学習した内容を 振り返り、要点を理解する
【AL形態の内容】 対話議論型：講師からの発問による対話、学生間の議論を取り入れた講義 事前学習型：あらかじめ講師が掲示した資料を読み事前に学習し、実践を中心とした講義。 調査学習型：問題解決のため、インターネットや関連書籍を自らが調査し、学んでいく講義。 ロールプレイ：学生に特定の役割を与えて演じさせることを通じ、それぞれの立場の人の考え方を 体験的に学ぶ方法。			

れいわ ねんど
令和 7 年度シラバス

				たんとくきょういん 担当教員		じつむけいけん 実務経験	
				はの 杷野		○	
				ふるや 古屋		○	
たいしょうがつか 対象学科	■IG ■AI ■GS ■BD □GB □IL			うちやま 内山			
かもくめい 科目名	キャリアデザイン I d						
ねんじ 年次	ねん 1 年	かいこうき 開講期	だい き 第 4 期	くぶん 区分	ひっしゅう せんたく ひつせん ■必修□選択□必選	じゅぎょうじすう 授業時数	じかん 18時間
じゅぎょう 授業 とうたつもくひょう 到達目標	【最終期授業の到達目標】 ①就 職 活動に必要なとなる履歴書、面接、業界・企業研究等に関するポイントを理解する。 ②企業が求める能力・スキルを理解し、それに見合う力を身に着ける。 ③春期休業期間中に実施するインターンシップに参加するための準備を完了する。 【当期授業の到達目標】 ・職業能力適性試験を受験し、自分の理解度を確認する。 ・面接のポイントを理解するとともに、演習、模擬面接を通してスキルアップを図る。 ・インターンシップの意義を理解し、春期インターンシップに参加する準備を整える。						
じゅぎょうがいよう 授業概要	授業は就 職 支援の担当部署であるキャリアセンター職員に加え、企業の採用担当者及び実務経験者が講師となり、実際の、実践的な視点から就 職 のポイントを理解する。なお、企業の都合を踏まえ、各週のテーマが変更となる場合がある。						
じゅぎょう 授業の うんえいほうほう 運営方法	授業運営に際し、資料（紙）に加え動画を活用してより理解が深まるよう工夫する。受講者は事前課題に取り組むとともに、理解度テストで習熟度を図る。企業の採用担当者にも参加いただき、実際の知識、ノウハウの修得を目指す。						
たんとくきょういん 担当教員 からの メッセージ	自己紹介や面接はどうしても緊張してしまうものですが、面接のポイントを理解し繰り返し練習を重ね、緊張した中でも面接でこれまで準備してきたことを、できるだけ伝えられるようにしましょう。						
りかいど 理解度 テスト	授業毎にFormsによる確認テストを実施する。						
ていきしけん 定期試験	【受験資格】出席率70%以上の学生 【試験方法】筆記試験または「フォームによる試験」						
せいせきひょうか 成績評価 の ほうほう きじゆん 方法・基準	本校の成績評価基準に基づき、到達目標達成度を次の方法で評価する。 ・定期試験 50% ・平常点（授業態度や演習）への取り組み 10% ・理解度テスト 40%						
オフィス アワー	放課後、メールあるいは対面にて対応。但し、事前に都合を確認のこと。						
きょうざい 教材	クラスルームに配布する電子テキスト						
さんこうしょ 参考書	「内定者はこう話した！面接 自己PR・志望動機【完全版】」（高橋書店） 「これが本当のWebテストだ！」（講談社）						

科目名	キャリアデザイン I d	担当教員	は の ふるや うちやま 杷野・古屋・内山
授 業 計 画			
回数	授業内容	AL の形態	授業の狙い
1週目	適性試験対策として WEB の 職 業 能 力 検 査 を 受 験 し、自 分に向いている業種、職種を考える。 適性試験演習	対話議論型 授業	自分が向いている業界、 職種の検討に向けて 能力検査を受検する。
2週目	身だしなみのマナーを修得するとともに、面接の形態、 特徴、注意点について理解する。 適性試験演習	ロールプレイ	
3週目	企業訪問の流れと面接の手順を理解し、好印象な自己 紹介ができるよう、演習を通して準備をする。 適性試験演習	ロールプレイ	面接のポイントを理解し 演習を通して理解を深め る。
4週目	面接で聞かれる質問と対応の仕方を理解し、演習を通して 面接力を身に着ける。 適性試験演習	ロールプレイ	
5週目	キャリアセンター職員及び企業の採用担当者による模擬 面接を行い、フードバックを受ける。 適性試験演習	ロールプレイ	模擬面接を通して面接力 を高める。
6週目	第5週迄の授業を踏まえ各自プレゼンテーションを行う。 インターンシップの概要を理解し参加手続きを行う。 適性試験演習	ロールプレイ	プレゼンテーションを踏 まえて理解を深める。
7週目	適性試験 (SPI、CAB等) の概要と対策方法について理解する。	対話議論型 授業	適性試験の種類、特徴を 理解し対策を行う。
8週目	定期試験		知識と理解を確認する。
9週目	当学期の授業の振り返り及び定期試験の解説 求人票の見方を理解し、3月に実施される会社説明会、合同 企業説明会に関する情報提供を行いエントリーする。	対話議論型 授業	学習の振り返りを行い、 応募企業を調べてエント リーする。
【AL形態の内容】 対話議論型：講師からの発問による対話、学生間の議論を取り入れた講義 事前学習型：あらかじめ講師が掲示した資料を読み事前に学習し、実践を中心とした講義。 調査学習型：問題解決のため、インターネットや関連書籍を自らが調査し、学んでいく講義。 ロールプレイ：学生に特定の役割を与えて演じさせることを通じ、それぞれの立場の人の考え方を 体験的に学ぶ方法。			

令和 7 年度シラバス

				担当教員		実務経験	
				富永 英世		○	
				数見 洋一		○	
				瀬戸 幸司		○	
				佐竹 真彰		○	
対象学科	■IG ■AI ■GS ■BD □GB □IL						
科目名	基礎ゼミ a						
年次	1 年	開講期	第 1 期	区分	■必修□選択□必選	授業時数	9 時間
授業到達目標	【最終期授業の到達目標】 学校のルールを理解する。クラス内のコミュニケーションを円滑にする。目標を確認する。 【当期授業の到達目標】 - 生活指導、連絡事項の周知、確認 - チームビルディングを通して、クラス内コミュニケーションの円滑化を図る。						
授業概要	学校のルールを理解することから始める。検定資格などの目標を設定する。クラス内でコミュニケーションが円滑になるようにクラス内で会話し協力できる雰囲気を作る。						
授業の運営方法	個人紹介、ペア紹介、グループ紹介、ミーティングでコミュニケーションを図る。 積極的に会話をさせることで話す力、聴く力を自然に身につけさせる。 個人の目標、グループの目標を掲げ、クリアさせることで充実感を得る。						
担当教員からのメッセージ	社会に出る準備を整えるために様々な課題を出します。 何事にも積極的にチャレンジして学校生活を充実させましょう。 学校を楽しみましょう。						
理解度テスト、課題	毎回Formsによる確認テストを実施する。						
定期試験	【受験資格】出席率70%以上の学生 【試験方法】「発表」または「フォームによる試験」						
成績評価の方法・基準	本校の成績評価基準に基づき、到達目標達成度を次の方法で評価する。 - 定期試験 50% - 平常点（授業態度や演習への取り組み）10% - 理解度テスト 40%						
オフィスアワー	放課後、メールベースあるいは対面にて対応。但し、事前に都合を確認のこと。						
教材	クラスルームに配布する電子テキスト						
参考書							

科目名	基礎ゼミ a	担当教員	富永・数見・瀬戸・佐竹
授業計画			
回数	内容	ALの形態	授業の狙い
1週目	学修生活のルール 自己紹介の仕方(自分紹介、相手紹介)	問題解決型 学習	学生が安心して学習できる 雰囲気をつくる
2週目	今期・今年度目標設定(チャレンジ検定・就職先) スケジュールリング(ゴールから逆算)	問題解決型 学習	
3週目	今後の予定確認 グループ分け・研究テーマ(目的)設定	調査学習	
4週目	今後の予定確認 企画書作成・調査開始	調査学習	
5週目	今後の予定確認 プレゼン資料作成(研究テーマ・計画について)	プレゼンテーション	
6週目	今後の予定確認 プレゼン練習(研究テーマ・計画について)	プレゼンテーション	
7週目	今後の予定確認 プレゼンテーション(研究テーマ・計画について)	プレゼンテーション	知識の定着確認
8週目	定期試験		
9週目	フィードバック(課題まとめ)	問題解決型 学習	
アクティブラーニングの類型 - 問題解決型学習: 学生が自ら課題を見つけ、その課題を解決するまでの過程でさまざまな知識を得ていく。 - 調査学習…学生が与えられたテーマに対して、授業中や授業外学習において自ら調べ物をさせる方法。 - プレゼンテーション…学生がパワーポイント等を用いて発表資料を作成し、他の学生の前で自ら発表を行わせる方法。			

令和 7 年度シラバス

				担当教員		実務経験	
				富永 英世		○	
				数見 洋一		○	
				瀬戸 幸司		○	
				佐竹 真彰		○	
対象学科	■IG ■AI ■GS ■BD □GB □IL						
科目名	基礎ゼミ b						
年次	1 年	開講期	第 2 期	区分	■必修 □選択 □必選	授業時数	9 時間
授業到達目標	【最終期授業の到達目標】 研究テーマについて計画を通りに調査などを実施し、結果を発表する。 【当期授業の到達目標】 - 生活指導、連絡事項の周知、確認 - チームビルディングを通して、クラス内コミュニケーションの円滑化を図る						
授業概要	学校のルールを理解することから始める。検定資格などの目標を設定する。クラス内でコミュニケーションが円滑になるようにクラス内で会話し協力できる雰囲気を作る。						
授業の運営方法	個人紹介、ペア紹介、グループ紹介、ミーティングでコミュニケーションを図る。 積極的に会話をさせることで話す力、聴く力を自然に身につけさせる。 個人の目標、グループの目標を掲げ、クリアさせることで充実感を得る。						
担当教員からのメッセージ	社会に出る準備を整えるために様々な課題を出します。 何事にも積極的にチャレンジして学校生活を充実させましょう。 学校を楽しみましょう。						
理解度テスト、課題	毎回Formsによる確認テストを実施する。						
定期試験	【受験資格】出席率70%以上の学生 【試験方法】「発表」または「フォームによる試験」						
成績評価の方法・基準	本校の成績評価基準に基づき、到達目標達成度を次の方法で評価する。 - 定期試験 50% (成果物+試験) - 平常点 (授業態度や演習への取り組み) 10% - 理解度テスト 40%						
オフィスアワー	放課後、メールベースあるいは対面にて対応。但し、事前に都合を確認のこと。						
教材	クラスルームに配布する電子テキスト						
参考書							

科目名	基礎ゼミ b	担当教員	富永・数見・瀬戸・佐竹
授業計画			
回数	内容	ALの形態	授業の狙い
1週目	今後の予定確認 研究テーマ実施計画確認	調査学習	クラスの雰囲気をよくする。 学生が安心して学習できる 雰囲気をつくる
2週目	今後の予定確認 計画実施（調査）	調査学習	
3週目	今後の予定確認 計画実施（調査）	調査学習	
4週目	今後の予定確認 計画実施（調査）	調査学習	
5週目	今後の予定確認 プレゼン資料作成（調査報告）	プレゼンテーション	
6週目	今後の予定確認 プレゼン練習（調査報告）	プレゼンテーション	
7週目	今後の予定確認 プレゼンテーション（調査報告）	プレゼンテーション	
8週目	定期試験		知識の定着確認
9週目	フィードバック（課題まとめ）	問題解決型 学習	
アクティブラーニングの類型 - 問題解決型学習：学生が自ら課題を見つけ、その課題を解決するまでの過程でさまざまな知識を得ていく。 - 調査学習…学生が与えられたテーマに対して、授業中や授業外学習において自ら調べ物をさせる方法。 - プレゼンテーション…学生がパワーポイント等を用いて発表資料を作成し、他の学生の前で自ら発表を行わせる方法。			

令和 7 年度シラバス

				担当教員		実務経験	
				富永 英世		○	
				数見 洋一		○	
				瀬戸 幸司		○	
				佐竹 真彰		○	
対象学科	■IG ■AI ■GS ■BD □GB □IL						
科目名	基礎ゼミ c						
年次	1 年	開講期	第 3 期	区分	■必修□選択□必選	授業時数	9 時間
授業到達目標	【最終期授業の到達目標】 研究テーマについて計画を通りに調査などを実施し、結果を発表する。 【当期授業の到達目標】 - 生活指導、連絡事項の周知、確認 - 調査した結果をまとめ、研究成果を発表する						
授業概要	学校のルールを理解することから始める。検定資格などの目標を設定する。クラス内でコミュニケーションが円滑になるようにクラス内で会話し協力できる雰囲気を作る。						
授業の運営方法	個人紹介、ペア紹介、グループ紹介、ミーティングでコミュニケーションを図る。 積極的に会話をさせることで話す力、聴く力を自然に身につけさせる。 個人の目標、グループの目標を掲げ、クリアさせることで充実感を得る。						
担当教員からのメッセージ	社会に出る準備を整えるために様々な課題を出します。 何事にも積極的にチャレンジして学校生活を充実させましょう。 学校を楽しみましょう。						
理解度テスト、課題	毎回Formsによる確認テストを実施する。						
定期試験	【受験資格】出席率70%以上の学生 【試験方法】「発表」または「フォームによる試験」						
成績評価の方法・基準	本校の成績評価基準に基づき、到達目標達成度を次の方法で評価する。 - 定期試験 50% (成果物+試験) - 平常点 (授業態度や演習への取り組み) 10% - 理解度テスト 40%						
オフィスアワー	放課後、メールベースあるいは対面にて対応。但し、事前に都合を確認のこと。						
教材	クラスルームに配布する電子テキスト						
参考書							

科目名	基礎ゼミ c	担当教員	富永・数見・瀬戸・佐竹
授業計画			
回数	内容	ALの形態	授業の狙い
1週目	今後の予定確認 研究テーマ実施計画確認	調査学習	クラスの雰囲気をよくする。 学生が安心して学習できる 雰囲気をつくる
2週目	今後の予定確認 計画実施（実施）	調査学習	
3週目	今後の予定確認 計画実施（実施）	調査学習	
4週目	今後の予定確認 計画実施（実施）	調査学習	
5週目	今後の予定確認 プレゼン資料作成（実施報告）	プレゼンテーション	
6週目	今後の予定確認 プレゼン練習（実施報告）	プレゼンテーション	
7週目	今後の予定確認 プレゼンテーション（実施報告）	プレゼンテーション	知識の定着確認
8週目	定期試験		
9週目	フィードバック（課題まとめ）	問題解決型 学習	
アクティブラーニングの類型 - 問題解決型学習：学生が自ら課題を見つけ、その課題を解決するまでの過程でさまざまな知識を得ていく。 - 調査学習…学生が与えられたテーマに対して、授業中や授業外学習において自ら調べ物をさせる方法。 - プレゼンテーション…学生がパワーポイント等を用いて発表資料を作成し、他の学生の前で自ら発表を行わせる方法。			

令和 7 年度シラバス

				担当教員		実務経験	
				富永 英世		○	
				数見 洋一		○	
				瀬戸 幸司		○	
				佐竹 真彰		○	
対象学科	■IG ■AI ■GS ■BD □GB □IL						
科目名	基礎ゼミ d						
年次	1 年	開講期	第 4 期	区分	■必修□選択□必選	授業時数	9 時間
授業到達目標	【最終期授業の到達目標】 研究テーマについて計画を通りに調査などを実施し、結果を発表する。 【当期授業の到達目標】 - 生活指導、連絡事項の周知、確認 - 実施結果から改善点をまとめフィードバックする						
授業概要	学校のルールを理解することから始める。検定資格などの目標を設定する。クラス内でコミュニケーションが円滑になるようにクラス内で会話し協力できる雰囲気を作る。						
授業の運営方法	個人紹介、ペア紹介、グループ紹介、ミーティングでコミュニケーションを図る。 積極的に会話をさせることで話す力、聴く力を自然に身につけさせる。 個人の目標、グループの目標を掲げ、クリアさせることで充実感を得る。						
担当教員からのメッセージ	社会に出る準備を整えるために様々な課題を出します。 何事にも積極的にチャレンジして学校生活を充実させましょう。 学校を楽しみましょう。						
理解度テスト、課題	毎回Formsによる確認テストを実施する。						
定期試験	【受験資格】出席率70%以上の学生 【試験方法】「発表」または「フォームによる試験」						
成績評価の方法・基準	本校の成績評価基準に基づき、到達目標達成度を次の方法で評価する。 - 定期試験 50% (成果物+試験) - 平常点 (授業態度や演習への取り組み) 10% - 理解度テスト 40%						
オフィスアワー	放課後、メールベースあるいは対面にて対応。但し、事前に都合を確認のこと。						
教材	クラスルームに配布する電子テキスト						
参考書							

科目名	基礎ゼミ d	担当教員	富永・数見・瀬戸・佐竹
授業計画			
回数	内容	ALの形態	授業の狙い
1週目	今後の予定確認 研究テーマ実施計画確認	調査学習	クラスの雰囲気をよくする。 学生が安心して学習できる 雰囲気をつくる
2週目	今後の予定確認 フィードバック（課題の洗い出し）	調査学習	
3週目	今後の予定確認 フィードバック（改善策まとめ）	調査学習	
4週目	今後の予定確認 フィードバック（改善策まとめ）	調査学習	
5週目	今後の予定確認 プレゼン資料作成（フィードバック報告）	プレゼンテーション	
6週目	今後の予定確認 プレゼン練習（フィードバック報告）	プレゼンテーション	
7週目	今後の予定確認 プレゼンテーション（フィードバック報告）	プレゼンテーション	知識の定着確認
8週目	定期試験		
9週目	フィードバック（課題まとめ）	問題解決型 学習	
アクティブラーニングの類型 - 問題解決型学習：学生が自ら課題を見つけ、その課題を解決するまでの過程でさまざまな知識を得ていく。 - 調査学習…学生が与えられたテーマに対して、授業中や授業外学習において自ら調べ物をさせる方法。 - プレゼンテーション…学生がパワーポイント等を用いて発表資料を作成し、他の学生の前で自ら発表を行わせる方法。			

れいわ ねんど 令和 7 年度シラバス				たんとくきょういん 担当教員		じつむけいけん 実務経験	
				田中 正彦		○	
たいしょうがつか 対象学科	□IG ■AI □GS □BD □GB □IL						
かもくめい 科目名	データサイエンス基礎 a						
ねんじ 年次	1 年	かいこうき 開講期	だい き 第 1 期	くぶん 区分	ひつしゅう せんたく ひつせん ■必修□選択□必選	じゅぎょうじすう 授業時数	18 時間
じゅぎょう 授業 とうたつもくひょう 到達目標	【最終期授業の到達目標】 情報化社会の進展により、近年の暮らしの中でAI(Artificial Intelligence:人口知能)は、生成AIが注目をあびています。このコースでは、そのようなAIにおけるデータから得られるパラメータを理解し、適切な分析スキルを身に付ける為の基礎知識を修得する。 【当期授業の到達目標】 データの代表値の計算・説明ができるー平均値、分散及び偏差値を計算・説明ができるー散布図のグラフ作成・説明ができる。特に、分散理解を目標とする。						
じゅぎょうがいよう 授業概要	データサイエンス領域に情報科学活用し、社会展開の実務経験の具体的な事例の紹介により、データサイエンス概要を把握してもらい、コンピュータを使用した、極力ビジュアル的に重要事項・ポイントを理解する演習形式を主としたコースである。						
じゅぎょう 授業の うんえいほう 運営方法	対面授業の予定(場合により、対面とオンラインの併用) 各週の授業内容における重要事項・ポイントに焦点を当てた演習中心の授業形態。						
たんとくきょういん 担当教員か らの メッセージ	各週の授業内容における重要事項・ポイントを板書する為、ノートに必ず、板書事項を書くことにウェイトを置く。 ノート持参要。 また、AI検定チャレンジを薦める。						
りかいど 理解度テスト、課題(レポート等)	毎回 演習問題を行い、4週目に理解度確認小テスト・課題 実施予定。 また、Google Formsにて重要事項に関しての確認問題の解答提出要(評価シート使用)						
ていきしけん 定期試験	(じゅけんしかく) しゅつせきりつ70% いじょう がくせい 【受験資格】 出席率70%以上の学生 (しけんほうほう) ひつきしけん おこなう 【試験方法】 筆記試験にて行う。						
せいせきひょうか 成績評価の ほうほうきじゅん 方法・基準	本校の成績 評価 基準 及び 評価シートにもとづき、到達目標 達成度を次の方法で評価する。 ・授業への取組み(授業態度や演習への姿勢)10%・理解度テスト40% ・定期試験 50%						
オフィス アワー	放課後に対応可能。ただし、メールで事前に予約し承認を受けること。						
きょうざい 教材	なし						
さんこうしょ 参考書	「み にゅうもんとうけいがく」 ちょしや こうごちはる とみながあつこ ぎじゅつひようろんしや 『身につく 入門統計学』著者： 向後千春、富永敦子、 技術評論社						

科目名	データサイエンス基礎 a	担当教員	田中
授業計画			
回数	授業内容	AL の形態	授業の狙い
1週目	データサイエンスとは？		
2週目	データ分析(有益なツール紹介)-1	反転授業	データサイエンス概要理解の為の統計学基礎知識を習得する。
3週目	データ分析(有益なツール紹介)-2	反転授業	
4週目	データの代表値(平均値、分散、標準偏差、偏差値)-1	事前学習型授業	
5週目	データの代表値(平均値、分散、標準偏差、偏差値)-2		
6週目	2変数の関係を見る(散布図を求める)		
7週目	事前 用語把握(確率変数、確率密度関数 他)	事前学習型授業	
8週目	復習	アクティブラーニング	
	定期試験		
9週目	テストを実施後、学業目標の達成状況を確認し、フォロー実施	プレゼンテーション	
アクティブラーニング(AL)の形態			
形態	説明		
事前学習型授業	教科書/参考書などにより講義部分を事前学習させた上で、授業内でその事前学習に、もつづく演習を行わせる方法		
反転 授業	動画教材により講義部分を授業外に事前学習させた上で、授業内でその事前学習にもつづく演習を行わせる方法		
アクティブラーニング	自分自身にてICT活用し、学修し、他の学生との「考え・学び」のコミュニケーションを図る		

れいわ ねんど 令和 7 年度シラバス				担当教員 たんとうきょういん		実務経験 じつむけいけん	
				田中 正彦		○	
対象学科 たいしょうがっか	□IG ■AI □GS □BD □GB □IL						
科目名 かもくめい	データサイエンス基礎 b						
年次 ねんじ	1年	開講期 かいこうき	第 2 期	区分 くぶん	必修選択必修 ひつしゅう せんたく ひつせん	授業時数 じゅぎょうじすう	18 時間 じかん
授業 到達目標 じゅぎょう とうたつもくひょう	【最終期授業の到達目標】 ビックデータ・多種多様なデータ分析・活用の為に、統計学・多変量解析の基礎知識・スキルを収得する。 【当期授業の到達目標】 ー確率分布の理解・イメージを捉えられる ー最小二乗法、回帰係数、標準誤差の理解ができるー変数減少法を理解できる						
授業概要 じゅぎょうがいよう	データサイエンス領域に情報科学活用し、社会展開の実務経験の具体的な実例の紹介により、データサイエンス概要を把握してもらい、コンピュータを使用した、極力ビジュアル的に重要事項・ポイントを理解する演習形式を主としたコースである。						
授業の 運営方法 じゅぎょう うんえいほうほう	対面授業の予定(場合により、対面とオンラインの併用) 各週の授業内容における重要事項・ポイントに焦点を当てた演習中心の授業形態。						
担当教員か らの メッセージ たんとうきょういん	各週の授業内容における重要事項・ポイントを板書する為、ノートに必ず、板書事項を書くことにウエイトを置く。ノート持参要。また、AI検定チャレンジを薦める。						
理解度テスト、課題(レポート等) りかいど	毎回 演習問題を行い、4週目に理解度確認小テスト・課題 実施予定。 また、Google Formsにて重要事項に関する確認問題の解答提出要(評価シート使用)						
定期試験 ていきしけん	【受験資格】 出席率70%以上の学生 【試験方法】 理解度テスト・筆記試験にて行う。						
成績評価の方法・基準 せいせきひょうか	本校の成績 評価 基準 及び 評価シートにもとづき、到達目標 達成度を次の方法で評価する。 ・授業への取組み(授業態度や演習への姿勢)10%・理解度テスト40% ・定期試験 50%						
オフィスアワー	放課後に対応可能。ただし、メールで事前に予約し承認を受けること。						
教材 きょうざい	なし						
参考書 さんこうしょ	『BUSINESS TECHNIQUE EXCEL ビジネス統計分析 第3版』著者:末吉正成、末吉美喜 翔泳社						

科目名	データサイエンス基礎 b	担当教員	田中
授 業 計 画			
回数	授業内容	AL の形態	授業の狙い
1週目	授業の進め方と学習(予習・復習)		確率の重要知識習得
2週目	確率・確率分布(1)	反転授業	
3週目	確率・確率分布(2)	反転授業	
4週目	多変量解析－単回帰分析(1)	事前学習型授業	統計学的なデータ分析 スキル習得
5週目	多変量解析－単回帰分析(2)		
6週目	多変量解析－重回帰分析(1)	事前学習型授業	
7週目	多変量解析－重回帰分析(2)		
8週目	復習	事前学習型授業	今学期学んだことの確認
	定期試験		
9週目	テストを実施後、学業目標の達成状況を確認し、 フォロー実施及び事前 AI 学習説明	プレゼンテーション	
アクティブラーニング(AL)の形態			
形態	説明		
事前学習型授業	教科書/参考書などにより講義部分を事前学習させた上で、授業内でその事前学習に、もとづく演習を行わせる方法		
反転 授業	動画教材により講義部分を授業外に事前学習させた上で、授業内でその事前学習にもとづく演習を行わせる方法		
プレゼンテーション	学生が資料を作成し、他の学生の前で自ら発表を行う方法		

れいわ ねんど 令和 7 年度シラバス				たんとうきょういん 担当教員		じつむけいけん 実務経験	
				田中 正彦		○	
たいしょうがつか 対象学科	□IG ■AI □GS □BD □GB □IL						
かもくめい 科目名	データサイエンス基礎 c						
ねんじ 年次	ねん 1年	かいこうき 開講期	だい き 第 3 期	くぶん 区分	ひつしゅう せんたく ひつせん ■必修□選択□必選	じゅぎょうじすう 授業時数	じかん 18 時間
じゅぎょう 授業 とうたつもくひょう 到達目標	【最終期授業の到達目標】 ディープラーニングの基本となるニューラルネットワークの仕組みを理解し、AI概要を鳥瞰する基本知識を修得する 【当期授業の到達目標】 このコース終了後に、特に、以下の項目を到達目標とする。 ー各層のニューロンの役割を理解できる ー入力の線形和を理解できる ーシグモイド関数の理解ができる ー正解と出力の誤差の式(損失関数)を理解できる ーAI概要が理解出来、ニューラルネットワークを実装できる						
じゅぎょうがいよう 授業概要	ディープラーニングを支える「畳み込みニューラルネットワーク」は人工ニューロンから構成されています。面白いことに、そのニューロン一つひとつがExcelの一つひとつのセルに相当するのです。すなわち、畳み込みニューラルネットワークの構造を容易に理解・把握できます。Excelは、AI学習スタートに最適です						
じゅぎょう 授業の うんえいほうほう 運営方法	対面授業の予定(場合により、対面とオンラインの併用) 各週の授業内容における重要事項・ポイントに焦点を当てた演習中心の授業形態。						
たんとうきょういん 担当教員からの メッセージ	各週の授業内容における重要事項・ポイントを板書する為、ノートに必ず、板書事項を書くことにウェイトを置く。ノート持参要。また、AI検定チャレンジを薦める。						
りかいど 理解度テスト、課題(レポート等)	毎回 演習問題を行い、4週目に理解度確認小テスト・課題 実施予定。 また、Google Formsにて重要事項に関する確認問題の解答提出要(評価シート使用)						
ていきしけん 定期試験	【受験資格】出席率70%以上の学生 【試験方法】理解度テスト・筆記試験にて行う。						
せいせきひょうか 成績評価の方法・基準	本校の成績 評価 基準 及び 評価シートにもとづき到達目標 達成度を次の方法で評価する。 ・授業への取組み(授業態度や演習への姿勢)10%・理解度テスト40% ・定期試験 50%						
オフィス アワー	放課後に対応可能。ただし、メールで事前に予約し承認を受けること。						
きょうざい 教材	なし						
さんこうしょ 参考書	『Excelでわかるディープラーニング超入門』著者:涌井良幸、涌井貞美 技術評論社						

科目名	データサイエンス基礎 c	担当教員	田中
授業計画			
回数	授業内容	ALの形態	授業の狙い
1週目	授業の進め方と学習(予習・復習)		確率の重要知識習得
2週目	AIとディープラーニング	反転授業	
3週目	ディープラーニングに使うExcel関数	反転授業	
4週目	回帰分析と最適化問題	事前学習型授業	AIがより詳しく理解知識修得
5週目	ニューロンモデル		
6週目	ニューラルネットワークの仕組み(1)		
7週目	ニューラルネットワークの仕組み(2)	事前学習型授業	
8週目	ニューラルネットワークの仕組み(3) + Review	事前学習型授業	今学期学んだことの確認
	定期試験		
9週目	ニューラルネットワークの仕組み(4)	プレゼンテーション	AI学習に繋がる動画参照
アクティブラーニング(AL)の形態			
形態	説明		
事前学習型授業	教科書/参考書などにより講義部分を事前学習させた上で、授業内でその事前学習に、もとづく演習を行わせる方法		
反転授業	動画教材により講義部分を授業外に事前学習させた上で、授業内でその事前学習にもとづく演習を行わせる方法		
プレゼンテーション	学生が資料を作成し、他の学生の前で自ら発表を行う方法		

れいわ ねんど 令和 7 年度シラバス				たんとうきょういん 担当教員		じつむけいけん 実務経験	
				田中 正彦		○	
たいしょうがつか 対象学科	□IG ■AI □GS □BD □GB □IL						
かもくめい 科目名	データサイエンス基礎 d						
ねんじ 年次	1 年	かいこうき 開講期	だい き 第 4 期	くぶん 区分	ひつしゅう せんたく ひつせん ■必修□選択□必選	じゅぎょうじすう 授業時数	18 時間
じゅぎょう 授業 とうたつもくひょう 到達目標	【最終期授業の到達目標】 AI基礎aにおいてディープラーニングの基本となるニューラルネットワークの仕組みを理解し 上で、畳み込みニューラルネットワークの知識・構築を行う 【当期授業の到達目標】 このコース終了後に、特に、以下の項目を到達目標とする ーフィルター役割を理解できる ー畳み込みの意味を理解できる ープーリン層の理解ができる ー畳み込みニューラルネットワークを実装する						
じゅぎょうがいよう 授業概要	ディープラーニングを支える「畳み込みニューラルネットワーク」は人工ニューロンから 構成されています。面白いことに、その一つひとつがExcelの一つひとつのセルに相当するの です。すなわち、畳み込みニューラルネットワークの構造を容易に理解・把握できます。 Excelは、AI学習スタートに最適です						
じゅぎょう 授業の うんえいほうほう 運営方法	対面授業の予定(場合により、対面とオンラインの併用) 各週の授業内容における重要事項・ポイントに焦点を当てた演習中心の授業形態。						
たんとうきょういん 担当教員か らの メッセージ	各週の授業内容における重要事項・ポイントを板書する為、ノートに必ず、板書事項を書く ことにウェイトを置く。 ノート持参要。 また、AI検定チャレンジを薦める。						
りかいど 理解度 テス ト、課題 (レ ポート等)	毎回 演習問題を行い、4週目に理解度確認小テスト・課題 実施予定。 また、Google Formsにて重要事項に関しての確認問題の解答提出要(評価シート使用)						
ていきしけん 定期試験	【受験資格】 出席率70%以上の学生 【試験方法】 理解度テスト・筆記試験にて行う。						
せいせきひょうか 成績評価の 方法・基準	本校の成績 評価 基準 及び 評価シートにもとづき到達目標 達成度を次の方法で評価する。 ・授業への取り組み(授業態度や演習への姿勢)10%・理解度テスト40% ・定期試験 50%						
オフィス アワー	放課後に対応可能。ただし、メールで事前に予約し承認を受けること。						
きょうざい 教材	なし						
さんこうしょ 参考書	『Excelでわかるディープラーニング超入門』著者:涌井良幸、涌井貞美 技術評論社						

科目名	データサイエンス基礎 d	担当教員	田中
授業計画			
回数	授業内容	AL の形態	授業の狙い
1週目	授業の進め方と学習(予習・復習)		ニューラルネットワークのポイント復習
2週目	ニューラルネットワークから畳み込みニューラルネットワーク	反転授業	
3週目	画像確認：手書き数字「1」と「2」を取得	反転授業	
4週目	入力層のニューロンを表現、正解の表現	事前学習型授業	パラメータを少なくするために、フィルターを利用した畳み込み層作成を理解する
5週目	畳み込み層の出力値を計算		
6週目	プーリング層を計算		
7週目	出力層の出力値を計算	事前学習型授業	今学期学んだことの確認
8週目	畳み込みニューラルネットワークの最適化 定期試験	事前学習型授業	
9週目	テストを実施後、学業目標の達成状況を確認し、フォロー実施	プレゼンテーション 自己事後学修	AI学習に繋がる動画参照
アクティブラーニング(AL)の形態			
形態	説明		
事前学習型授業	教科書/参考書などにより講義部分を事前学習させた上で、授業内でその事前学習に、もとづく演習を行わせる方法		
反転 授業	動画教材により講義部分を授業外に事前学習させた上で、授業内でその事前学習にもとづく演習を行わせる方法		
プレゼンテーション	学生が資料を作成し、他の学生の前で自ら発表を行う方法		
自己事後学修	コースを通して、『デープラーニング G 検定』著者：浅川伸一他 翔泳社を読み、AI検定の知識を学生自らが習得することを強く薦める。		

令和 7 年度シラバス

れいわ 7 年度シラバス				たんとうきょういん 担当教員		じつむけいけん 実務経験	
				ふねい 英世		○	
たいしょうがつか 対 象 学 科	□IG ■AI □GS □BD □GB □IL						
かもくめい 科 目 名	Pythonプログラミング a						
ねんじ 年 次	ねん 1 年	かいこうき 開講期	だい 第 1 期	くぶん 区 分	■必修□選択□必選	じゅぎょうじすう 授 業 時 数	72 じかん 時 間
じゅぎょう 授 業 とうたつもくひょう 到達目標	【最終期授 業の到達目標】 Python言語を使用して、自分が解決したいと 考 える課題を解決することができる。 【当期授 業の到達目標】 プログラムの仕組みを理解できる。数値計算をプログラムで記述することができる。						
じゅぎょうがいよう 授 業 概 要	Pythonをもとに、アルゴリズムとプログラミングを 実 習 にて身につける。						
じゅぎょう 授 業 の うんえいほうほう 運 営 方 法	Pythonのチュートリアル項目を 中 心 に授 業 を進め、必要なプログラムを提示する。 プログラムの説明をしたのち、学生はプログラムを 参 照 しなが ら入 力 する。						
たんとうきょういん 担 当 教 員 からの メッセー ジ	キーボード配置を覚えて、可能な限りブラインドタッチができるようになってほしい。 授 業 中 のサンプルを打ち込むだけでなく、さまざまな問題にチャレンジしてほしい。						
りかいど 理 解 度 てすと かいだい テ ス ト、課 題	まいかいForms 毎 回 Forms による確認テストを実施する。						
ていきしけん 定 期 試 験	【受験資格】出席率70%以上の学生 【試験方法】「筆記試験」または「フォームによる試験」						
せいせきひょうか 成 績 評 価 の ほうほう きじゅん 方 法 ・基 準	ほんこう せいせきひょうかきじゅん もとづき とうたつもくひょうたっせいど つぎ ほうほう ひょうか 本校の成績評価基準に基づき、到達目標達成度を次の方法で評価する。 ・定期試験 50% ・平常点（授 業 態 度 や 演 習 へ の 取 り 組 み）10% ・理解度テスト 40%						
オフィス アワー	ほうかご めー ー ベー す たいめん たいおう ただし じぜん つごう かくにん 放課後、メールベースあるいは対面にて対応。但し、事前に都合を確認のこと。						
きょうざい 教 材	クラスルームに配布するプログラムファイル Pythonドキュメントサイト（https://docs.python.org/ja/3/index.html） 内 のチュートリアル						
さんこうしょ 参 考 書	Pythonに関する書籍（現在多数出版されています。本屋で立ち読みをして自分にあっているな と感じる本を購入して手元に置いておくと安心です。）						

科目名	Pythonプログラミング a	担当教員	富永
授業計画			
回数	内容	ALの形態	授業の狙い
1週目	作業環境の構築・言語の種類 Pythonを使ってみる（変数とデータ型）	事前学習型	Pythonをもとに、アルゴリズムとプログラミングを実習にて身につける。
2週目	コンテナについて データの集まり、リスト、ディクショナリ、タプルとセットを学習する		
3週目	条件分岐について 条件分岐と基本構造、条件式、分岐構造、if文		
4週目	繰り返しについて 繰り返しの基本構造、while文、for文、繰り返しの制御		
5週目	関数について オリジナル関数、引数と戻り値、関数の応用テクニック		
6週目	オブジェクトについて オブジェクトの設計図、オブジェクトの落とし穴		
7週目	総復習（試験対策）		
8週目	定期試験		知識の定着確認
9週目	定期試験の振り返り		
アクティブラーニングの類型 事前学習型授業：教科書／参考書等により講義部分を授業外に事前学習させた上で、授業内でその事前学習にもとづく演習をおこなわせる方法			

令和 7 年度シラバス

れいわ ねんど 令和 7 年度シラバス				たんとうきょういん 担当教員		じつむけいけん 実務経験	
				ふねい えいせ 富永 英世		○	
たいしょうがつか 対 象 学 科	□IG ■AI □GS □BD □GB □IL						
かもくめい 科 目 名	Pythonプログラミング b						
ねん じ 年 次	ねん 1 年	かいこう き 開講期	だい き 第 2 期	くぶん 区 分	ひつしゅう せんたく ひつせん ■必修□選択□必修		じゅぎょう じ すう 授 業 時 数
							72 時間
じゅぎょう 授 業 とうたつむくひょう 到達目標	【最終期授 業の到達目標】 Python言語を使用して、自分が解決したいと 考 える課題を解決することができる。 【当期授 業の到達目標】 Pythonの基本を活用し、エラーや例外を理解できる。 Pythonのライブラリについて理解できる。アプリを開発することができる。						
じゅぎょうがいよう 授 業 概 要	Pythonをもとに、アルゴリズムとプログラミングを実 習 にて身につける。						
じゅぎょう 授 業 の うんえいほうほう 運営方法	Pythonのチュートリアル項目を中心に授 業 を進め、必要なプログラムを提示する。 プログラムの説明をしたのち、学生はプログラムを参照しながら入 力する。						
たんとうきょういん 担 当 教 員 からの メッセージ	キーボード配置を覚えて、可能な限りブラインドタッチができるようになってほしい。 授 業 中 のサンプルを打ち込むだけでなく、さまざまな問題にチャレンジしてほしい。						
り かい ど 理 解 度 て す と か だ い テスト、課題	まいかいForms かくにんて す と じつし 毎回Formsによる確認テストを実施する。						
ていきしけん 定 期 試 験	【受験資格】出席率70%以上の学生 【試験方法】「筆記試験」または「フォームによる試験」						
せいせきひょうか 成 績 評 価 の ほうほう きじゆん 方法・基準	ほんこう せいせきひょうかきじゆん も と づ き とうたつむくひょうたつせいど つぎ ほうほう ひょうか 本校の成績評価基準に基づき、到達目 標 達成度を次の方法で評価する。 ・ 定期試験 50% ・ 平常点（授 業 態度や演 習 への取り組み）10% ・ 理解度テスト 40%						
オフィス アワー	ほうかご め ー ー ベ ー す たいゆん たいおう ただし じぜん つごう かくにん 放課後、メールベースあるいは対面にて対応。但し、事前に都合を確認のこと。						
きょう ざい 教 材	クラスルームに配布するプログラムファイル Pythonドキュメントサイト（https://docs.python.org/ja/3/index.html）内のチュートリアル						
さんこうしょ 参 考 書	Pythonに かん する書籍（現在多数出版されています。ほんや た よ じぶん と 感じる本を購 入 して手元に置いておくと安心です。）						

科目名	Pythonプログラミング b	担当教員	富永
授業計画			
回数	内容	ALの形態	授業の狙い
1週目	モジュールについて 部品を使う、モジュールの利用、パッケージの利用、外部ライブラリの利用	事前学習型	Pythonをもとに、アルゴリズムとプログラミングを実習にて身につける。
2週目	Pythonの応用 ルーチンワークの自動化、データベース操作、ウィンドウズアプリケーション、Webアプリケーションなどの作成		
3週目	エラー解決 エラーの上手な付き合い方、トラブルシューティング、例外処理		
4週目	ゲーム開発してみよう① ゲームの仕様、全体の流れの開発		
5週目	ゲーム開発してみよう② 敵モンスターの実装、味方パーティの実装		
6週目	ゲーム開発してみよう③ バトルの基本的な流れの開発		
7週目	総復習（試験対策）		
8週目	定期試験		知識の定着確認
9週目	定期試験の振り返り		
アクティブラーニングの類型			
事前学習型授業：教科書／参考書等により講義部分を授業外に事前学習させた上で、授業内でその事前学習にもとづく演習をおこなわせる方法			

令和 7 年度シラバス

				担当教員	実務経験
				富永 英世	○
対象学科	■IG □AI ■GS □BD □GB □IL				
科目名	Pythonプログラミング c				
年次	1 年	開講期	第 3 期	区分	必修口選択口必選 授業時数
72 時間					
授業到達目標	【最終期授業の到達目標】 Python言語を使用して、自分が解決したいと考える課題を解決することができる。 Python3エンジニア認定基礎試験レベルの知識を身につける。 【当期授業の到達目標】 Python3エンジニア認定基礎試験合格				
授業概要	学生は、PythonによるGUI環境を構築し、これを用いて、2Dゲームのサンプルを作成する。この授業を通して、図形の描画、図形の移動、描画の切り替え等の基本動作を習得する。				
授業の運営方法	Python言語のプログラミング習熟と並行して、ゲーム題材とした課題プログラミングを作成してゆきます。作成を通してプログラミング技術を習得するとともに、GUIライブラリの活用を学び、GUIによる画面描画、プログラム操作ができるように学んでゆきます。				
担当教員からのメッセージ	GUIを使うプログラミングを使えるようになると、作成できるプログラムの幅が大きく広がります。簡単なゲームを作ってゆきますが、その中に、応用ができる多くのアイデアが含まれているので、後に、自分のアイデアでゲームや応用アプリを実現するときに使えるベース技術が身につきます。				
理解度テスト、課題	毎回Formsによる確認テストを実施する。				
定期試験	【受験資格】出席率70%以上の学生 【試験方法】「筆記試験」または「フォームによる試験」				
成績評価の方法・基準	本校の成績評価基準に基づき、到達目標達成度を次の方法で評価する。 - 定期試験 50% - 平常点（授業態度や演習への取り組み）10% - 理解度テスト 40%				
オフィスアワー	放課後、メールベースあるいは対面にて対応。但し、事前に都合を確認のこと。				
教材	クラスルームに配布するプログラムファイル Pythonドキュメントサイト（https://docs.python.org/ja/3/index.html）内のチュートリアル				
参考書	Pythonに関する書籍（現在多数出版されています。本屋で立ち読みをして自分にあっているなと感じる本を購入して手元に置いておくと安心です。）				

科目名	Pythonプログラミング c	担当教員	富永
授 業 計 画			
回数	内容	ALの形態	授業の狙い
1週目	標準ライブラリ3 (チュートリアル第11章)) 標準ライブラリの使い方を学修する	事前学習型	サンプルプログラムの作成を通じて、ゲーム動作とプログラム手法を学びます。
2週目	仮想環境とパッケージ1 (チュートリアル第12章) 仮想環境の作り方を学修する パッケージの使い方を学修する		
3週目	Python3エンジニア認定基礎試験について (試験概要、内容、合格基準、申し込み方法など)		
4週目	プライムストラテジの第1回Python3基礎模擬試験に取り組む		
5週目	プライムストラテジの第2回Python3基礎模擬試験に取り組む		
6週目	プライムストラテジの第3回Python3基礎模擬試験に取り組む		
7週目	総復習 (試験対策)		
8週目	定期試験		知識の定着確認
9週目	定期試験の振り返り		
アクティブラーニングの類型 事前学習型授業：教科書／参考書等により講義部分を授業外に事前学習させた上で、授業内でその事前学習にもとづく演習をおこなわせる方法			

令和 7 年度シラバス

				担当教員 たんとうきょういん		実務経験 じつむけいけん	
				富永 英世		○	
対 象 学 科 たいしょうがつか	□IG ■AI □GS □BD □GB □IL						
科 目 名 かもくめい	Python実習 (AIプログラミング)						
年 次 ねんじ	1 年 ねん	開講期 かいこうき	第 4 期 だい 4 き	区 分 くぶん	必修 ひつしゅう ■必修□選択□必選	授 業 時 数 じゅぎょうじすう	72 時間 じかん
授 業 とうたつもくひょう 到達目標	【最終期授業の到達目標】 Python言語でAIライブラリを利用したプログラミングができるようになる。 【当期授業の到達目標】 Pythonプログラミングabcの知識を活用し、AIの基本的な手法をプログラミングできるようにする。						
授 業 概 要 じゅぎょうがいよう	AIでよく利用されるライブラリを使用しながら、データ処理や機械学習についてサンプル問題を通じて体験する。						
授 業 の うんえいほうほう 運営方法	サンプルプログラムを書写や、必要となるライブラリの使用法を調査し、機械学習プログラムを完成できるようにする。						
担 当 教 員 からの メッセー ジ	プログラムをストレスなく打ち込めるようにブラインドタッチの練習をしておきましょう。プログラムも練習した分だけ身に付きます。講義時間以外も積極的に取り組みましょう。						
理 解 度 テスト、課題	作成したプログラムの提出 単元ごとのFormsによる確認テストを実施						
定 期 試 験	【受験資格】出席率70%以上の学生 【試験方法】課題の提出						
成 績 評 価 の ほうほう きじゆん 方法・基準	本校の成績評価基準に基づき、到達目標達成度を次の方法で評価する。 ・定期試験 50% ・平常点（授業態度や演習への取り組み）10% ・理解度テスト 40%						
オ フィ ス ア ワー	放課後、メールベースあるいは対面にて対応。但し、事前に都合を確認のこと。						
教 材	なし						
参 考 書							

科目名	Python実習 (AIプログラミング)	担当教員	富永
授業計画			
回数	内容	ALの形態	授業の狙い
1週目	ガイダンス データ分析について ・データ分析の概要 ・データ分析の環境構築	事前学習型	AIでよく利用されるライブラリを使用しながら、データ処理や機械学習についてサンプル問題を通じて体験する。
2週目	基本ライブラリ (NumPy) の概要 ・ NumPy NumPyの概要、NumPy配列の基礎・操作 数学関数		
3週目	基本ライブラリ (Pandas) の概要 ・ Pandas Pandasの概要、データフレームの扱い、データの加工、データの集計		
4週目	データの可視化 ・ Matplotlib 分布、量や比率の比較、量の推移、関係性		
5週目	スクレイピングの仕組み		
6週目	機械学習の仕組み		
7週目	ディープラーニングの仕組み		
8週目	定期試験		知識の定着確認
9週目	定期試験の振り返り		
アクティブラーニングの類型			
事前学習型授業：教科書／参考書等により講義部分を授業外に事前学習させた上で、授業内でその事前学習にもとづく演習をおこなわせる方法			

れいわ ねんど
令和 7 年度シラバス

				たんとうきょういん 担当教員		じつむけいけん 実務経験	
				郭 捷		○	
たいしょうがつか 対象学科	□IG □AI ■GS □GB □IL						
かもくめい 科目名	にほんご 日本語コミュニケーション I a						
ねんじ 年次	1 年	かいこうき 開講期	だい 1 期	くぶん 区分	■必修 □選択 □必選	じゅぎょうじすう 授業時数	36 時間
じゅぎょう 授業 とうたつもくひょう 到達目標	【最終期授業の到達目標】 ・入学時に一定レベル（N3）に達しない学生に対し、日本語能力が高まったと実感が持て、到達感が得られるような学習をしていき、検定試験合格レベルまで引き上げていく。 ・N2合格を早期に目指せる能力に見込みのある学生は、一年次内に検定試験合格を目標とし、副教材等を使用しフォローしていく。 【当期授業の到達目標】 N3の基礎的な語彙・文法が理解でき、検定試験の問題が解けるようになる。						
じゅぎょうがいよう 授業概要	きょうかしよかいせつ もんだいえんしゅう とおし けんていしけん もんだい と ける しどう 教科書解説、問題演習を通し、検定試験の問題を解けるように指導する。						
じゅぎょう 授業の うんえいほうほう 運営方法	① 教科書の課ごとに、PPTや配付資料を参考に発話を重視した授業を行う。 ② 授業内容確認のため問題演習を行う。 ③ Formsを活用した理解度テストを行う。						
たんとうきょういん 担当教員 からの メッセージ	発話を重視した授業展開を考えています。 クラスでの発言や会話する機会を多くし、話すことで日本語力を高めていきましょう。						
りかいど 理解度 テスト、課題	まいしゅう しゅくだい か すしんしゅつたんご かくじゅぎょうないよう はんえい りかいど おこな 毎週、宿題として課す新出単語と各授業内容を反映した理解度テストを行う。						
ていきしけん 定期試験	【受験資格】出席率70%以上の学生 【試験方法】授業内容と理解度テスト内容を範囲とし、応用として初見問題を取り入れる。 試験問題配分：漢字2割、語彙3割、文法3割、読解2割で作成。						
せいせきひょうか 成績評価の ほうほう きじゅん 方法・基準	へいじょうてん 平常点10%、ループリック20%、理解度テスト20%、定期試験50%						
オフィス アワー	ほうかご たいおうかのう 放課後に対応可能。ただし、メールで事前に予約すること。						
きょうざい 教材	「日本語表現学習帳」研究社 「日本語能力試験20日で合格N3文法力アップドリル」国書刊行会 「日本語能力試験20日で合格N3文字・語彙・文法」国書刊行会						
さんこうしょ 参考書	こくさいこうりゅうききん にほんこくさいきょういくしえんきょうかい にほんごのうりよくしけん 国際交流基金・日本国際教育支援協会、日本語能力試験 https://www.jlpt.jp/						

科目名	日本語コミュニケーション I a	担当教員	郭
授 業 計 画			
回数	内容	ALの形態	授業の狙い
1週目	オリエンテーション		
2週目	・漢字練習 ・N3文法力アップドリル 1日目	発話重視の 講義	検定試験を受ける上で、基礎的な日本語能力を身に付ける
3週目	・漢字練習 ・N3文法力アップドリル 2日目	発話重視の 講義	
4週目	・漢字練習 ・N3文法力アップドリル 3日目	発話重視の 講義	
5週目	・漢字練習 ・N3文法力アップドリル 4日目	発話重視の 講義	
6週目	・漢字練習 ・N3文法力アップドリル 5日目	発話重視の 講義	
7週目	総復習・予備日	事前学習型 授業	
8週目	定期試験	定期試験	1学期の授業内容に 関して理解度を測定する
9週目	・試験解説を通して振り返り ・漢字練習 ・N3文法力アップドリル 6日目		
AL形態の内容 事前学習型授業:教科書／参考書等(動画教材は除く)により講義部分を授業外に事前学習させた上で、授業内でその事前学習にもとづく演習を行わせる方法。 ロールプレイ:学生に特定の役割を与えて演技させることを通じ、それぞれの立場の人等の考え方を体験的に学ぶ方法。 その他:その他、アクティブラーニングの要素を含むと考えられる方法。括弧書きで具体的な内容を記載する。 (発話、会話を重視した授業)			

令和 7 年度シラバス

				担当教員		実務経験	
				郭 捷		○	
対象学科	□IG □AI ■GS □GB □IL						
科目名	日本語コミュニケーション I b						
年次	1 年	開講期	第 2 期	区分	■必修 □選択 □必選	授業時数	36 時間
授業到達目標	【最終期授業の到達目標】 ・入学時に一定レベル（N3）に達しない学生に対し、日本語能力が高まったと実感が持て、到達感が得られるような学習をしていき、検定試験合格レベルまで引き上げていく。 ・N2合格を早期に目指せる能力に見込みのある学生は、一年次内に検定試験合格を目標とし、副教材等を使用しフォローしていく。 【当期授業の到達目標】 N3の語彙・文法（可能、条件、理由等）の表現が理解でき、検定試験の問題が解けるようになる。						
授業概要	教科書解説、問題演習を通し、検定試験の問題を解けるように指導する。						
授業の運営方法	① 教科書の課ごとに、PPTや配付資料を参考に発話を重視した授業を行う。 ② 授業内容確認のため問題演習を行う。 ③ Formsを活用した理解度テストを行う。						
担当教員からのメッセージ	発話を重視した授業展開を考えています。 クラスでの発言や会話する機会を多くし、話すことで日本語力を高めていきましょう。						
理解度テスト、課題	毎週、宿題として課す新出単語と各授業内容を反映した理解度テストを行う。						
定期試験	【受験資格】出席率70%以上の学生 【試験方法】授業内容と理解度テスト内容を範囲とし、応用として初見問題を取り入れる。 試験問題配分：漢字2割、語彙3割、文法3割、読解2割で作成。						
成績評価の方法・基準	平常点10%、ループリック20%、理解度テスト20%、定期試験50%						
オフィスアワー	放課後に対応可能。ただし、メールで事前に予約すること。						
教材	「日本語表現学習帳」 研究社 「日本語能力試験20日で合格N3文法力アップドリル」 国書刊行会 「日本語能力試験20日で合格N3文字・語彙・文法」 国書刊行会						
参考書	国際交流基金・日本国際教育支援協会、日本語能力試験 https://www.jlpt.jp/						

科目名	日本語コミュニケーション I b	担当教員	郭
授 業 計 画			
回数	内容	ALの形態	授業の狙い
1週目	・漢字練習 ・N3文法力アップドリル 7日目	発話重視の講義	検定試験を受ける上で、応用的な日本語能力を身に付ける
2週目	・漢字練習 ・N3文法力アップドリル 8日目	発話重視の講義	
3週目	・漢字練習 ・N3文法力アップドリル 9日目	発話重視の講義	
4週目	・漢字練習 ・N3文法力アップドリル 10日目	発話重視の講義	
5週目	・漢字練習 ・N3文法力アップドリル 11日目	発話重視の講義	
6週目	・漢字練習 ・N3文法力アップドリル 12日目	発話重視の講義	
7週目	総復習・予備日	事前学習型授業	
8週目	定期試験	定期試験	2学期の授業内容に関して理解度を測定する
9週目	・試験解説を通して振り返り ・漢字練習 ・N3文法力アップドリル 13日目		
AL形態の内容 事前学習型授業:教科書／参考書等(動画教材は除く)により講義部分を授業外に事前学習させた上で、授業内でその事前学習にもとづく演習を行わせる方法。 ロールプレイ:学生に特定の役割を与えて演技させることを通じ、それぞれの立場の人等の考え方を体験的に学ぶ方法。 その他:その他、アクティブラーニングの要素を含むと考えられる方法。括弧書きで具体的な内容を記載する。(発話、会話を重視した授業)			

令和 7 年度シラバス

				担当教員		実務経験	
				郭 捷		○	
対象学科	□IG □AI ■GS □GB □IL						
科目名	日本語コミュニケーション I c						
年次	1 年	開講期	第 3 期	区分	■必修□選択□必選	授業時数	36 時間
授業到達目標	【最終期授業の到達目標】 ・入学時に一定レベル（N3）に達しない学生に対し、日本語能力が高まったと実感が持て、到達感が得られるような学習をしていき、検定試験合格レベルまで引き上げていく。 ・N2合格を早期に目指せる能力に見込みのある学生は、一年次内に検定試験合格を目標とし、副教材等を使用しフォローしていく。 【当期授業の到達目標】 N3の語彙・文法（接続、勧誘、意思等）の表現が理解でき、検定試験の問題が解けるようになる。						
授業概要	教科書解説、問題演習を通し、検定試験の問題を解けるように指導する。						
授業の運営方法	① 教科書の課ごとに、PPTや配付資料を参考に発話を重視した授業を行う。 ② 授業内容確認のため問題演習を行う。 ③ Formsを活用した理解度テストを行う。						
担当教員からのメッセージ	発話を重視した授業展開を考えています。 クラスでの発言や会話する機会を多くし、話すことで日本語力を高めていきましょう。						
理解度テスト、課題	毎週、宿題として課す新出単語と各授業内容を反映した理解度テストを行う。						
定期試験	【受験資格】出席率70%以上の学生 【試験方法】授業内容と理解度テスト内容を範囲とし、応用として初見問題を取り入れる。 試験問題配分：漢字2割、語彙3割、文法3割、読解2割で作成。						
成績評価の方法・基準	平常点10%、ループリック20%、理解度テスト20%、定期試験50%						
オフィスアワー	放課後に対応可能。ただし、メールで事前に予約すること。						
教材	「日本語表現学習帳」 研究社 「日本語能力試験20日で合格N3文法力アップドリル」 国書刊行会 「日本語能力試験20日で合格N3文字・語彙・文法」 国書刊行会						
参考書	国際交流基金・日本国際教育支援協会、日本語能力試験 https://www.jlpt.jp/						

科目名	日本語コミュニケーション I c	担当教員	郭
授 業 計 画			
回数	内容	ALの形態	授業の狙い
1週目	・漢字練習 ・N3文法力アップドリル 14日目	発話重視の講義	検定試験を受ける上で、応用的な日本語能力を身に付ける
2週目	・漢字練習 ・N3文法力アップドリル 15日目	発話重視の講義	
3週目	・漢字練習 ・N3文法力アップドリル 16日目	発話重視の講義	
4週目	・漢字練習 ・N3文法力アップドリル 17日目	発話重視の講義	
5週目	・漢字練習 ・N3文法力アップドリル 18日目	発話重視の講義	
6週目	・漢字練習 ・N3文法力アップドリル 19日目	発話重視の講義	
7週目	総復習・予備日	事前学習型授業	
8週目	定期試験	定期試験	3学期の授業内容に 関して理解度を測定する
9週目	・試験解説を通して振り返り ・漢字練習 ・N3文法力アップドリル 20日目		
AL形態の内容 事前学習型授業:教科書／参考書等(動画教材は除く)により講義部分を授業外に事前学習させた上で、授業内でその事前学習にもとづく演習を行わせる方法。 ロールプレイ:学生に特定の役割を与えて演技させることを通じ、それぞれの立場の人等の考え方を体験的に学ぶ方法。 その他:その他、アクティブラーニングの要素を含むと考えられる方法。括弧書きで具体的な内容を記載する。 (発話、会話を重視した授業)			

令和 7 年度シラバス

				担当教員 郭 捷		実務経験 ○	
対象学科	□IG □AI ■GS □GB □IL						
科目名	日本語コミュニケーション I d						
年次	1 年	開講期	第 4 期	区分	■必修□選択□必選	授業時数	36 時間
授業到達目標	【最終期授業の到達目標】 ・入学時に一定レベル（N3）に達しない学生に対し、日本語能力が高まったと実感が持て、到達感が得られるような学習をしていき、検定試験合格レベルまで引き上げていく。 ・N2合格を早期に目指せる能力に見込みのある学生は、一年次内に検定試験合格を目標とし、副教材等を使用しフォローしていく。 【当期授業の到達目標】 N3の語彙・文法（断定、意見、仮定等）の表現が理解でき、検定試験の問題が解けるようになる。						
授業概要	教科書解説、問題演習を通し、検定試験の問題を解けるように指導する。						
授業の運営方法	① 教科書の課ごとに、PPTや配付資料を参考に発話を重視した授業を行う。 ② 授業内容確認のため問題演習を行う。 ③ Formsを活用した理解度テストを行う。						
担当教員からのメッセージ	発話を重視した授業展開を考えています。 クラスでの発言や会話する機会を多くし、話すことで日本語力を高めていきましょう。						
理解度テスト	毎週、宿題として課す新出単語と各授業内容を反映した理解度テストを行う。						
定期試験	【受験資格】出席率70%以上の学生 【試験方法】授業内容と理解度テスト内容を範囲とし、応用として初見問題を取り入れる。 試験問題配分：漢字2割、語彙3割、文法3割、読解2割で作成。						
成績評価の方法・基準	平常点10%、ループリック20%、理解度テスト20%、定期試験50%						
オフィスアワー	放課後に対応可能。ただし、メールで事前に予約すること。						
教材	「日本語表現学習帳」研究社 「日本語能力試験20日で合格N3文法力アップドリル」国書刊行会 「日本語能力試験20日で合格N3文字・語彙・文法」国書刊行会						
参考書	国際交流基金・日本国際教育支援協会、日本語能力試験 https://www.jlpt.jp/						

科目名	日本語コミュニケーション I d	担当教員	郭
授業計画			
回数	内容	ALの形態	授業の狙い
1週目	・漢字練習 ・N3文字・語彙・文法 1日目	はつわじゅうし 発話重視の 講義	検定試験を受ける上で、応用的な日本語能力を身に付ける
2週目	・漢字練習 ・N3文字・語彙・文法 2日目	はつわじゅうし 発話重視の 講義	
3週目	・漢字練習 ・N3文字・語彙・文法 3日目	はつわじゅうし 発話重視の 講義	
4週目	・漢字練習 ・N3文字・語彙・文法 4日目	はつわじゅうし 発話重視の 講義	
5週目	・漢字練習 ・N3文字・語彙・文法 5日目	はつわじゅうし 発話重視の 講義	
6週目	・漢字練習 ・N3文字・語彙・文法 6日目	はつわじゅうし 発話重視の 講義	
7週目	総復習・予備日	事前学習型 授業	
8週目	定期試験	定期試験	4学期の授業内容に 関して理解度を測定する
9週目	・試験解説を通して振り返り ・漢字練習 ・N3文字・語彙・文法 7日目		
AL形態の内容 事前学習型授業:教科書／参考書等(動画教材は除く)により講義部分を授業外に事前学習させた上で、授業内でその事前学習にもとづく演習を行わせる方法。 ロールプレイ:学生に特定の役割を与えて演技させることを通じ、それぞれの立場の人等の考え方を体験的に学ぶ方法。 その他:その他、アクティブラーニングの要素を含むと考えられる方法。括弧書きで具体的な内容を記載する。 (発話、会話を重視した授業)			

令和 7 年度シラバス

				担当教員 たんとうきょういん 佐竹 真彰 さたけ まさあき		実務経験 じつむけいけん ○	
たいしょうがつか 対 象 学 科	□IG □AI □GS ■BD □GB □IL						
かもくめい 科 目 名	ビジネスリテラシ						
ねんじ 年 次	1 年	かいこうき 開講期	だい 1 期	くぶん 区 分	ひつしゅう せんたく ひつせん ■必修□選択□必選	じゅぎょう じすう 授 業 時 数	36 時間
じゅぎょう 授 業 とうたつもくひょう 到達目標	【最終期授業の到達目標】 実社会での実践事例を知ること、自分なりの培い方について検討することができる。 【当期授業の到達目標】 現在の自分の力と理想の姿に近づくために必要な力の具体的な獲得方法を身につける。						
じゅぎょうがいよう 授業概要	社会人基礎力として、前に踏み出す力、考え抜く力、チームで働く力を講座や実習にて身につける。						
じゅぎょう 授業の うんえいほうほう 運営方法	教科書を中心に授業を進め、必要な事例を提示し、進行する。 事例の説明をしたのち、学生は教科書を参照しながら反復学習をする。						
たんとうきょういん 担当教員 からの メッセージ	実践的な内容で進めていきます。体系的に理解して欲しい。						
りかいど 理解度 テスト、課題	毎回Formsによる確認テストを実施する。						
ていきしけん 定期試験	【受験資格】 出席率70%以上の学生 【試験方法】 「筆記試験」または「フォームによる試験」						
せいせきひょうか 成績評価の ほうほう 基準 方法・基準	本校の成績評価基準に基づき、到達目標達成度を次の方法で評価する。 - 定期試験 50% - 平常点（授業態度や演習への取り組み）10% - 理解度テスト 40%						
オフィス アワー	放課後、メールベースあるいは対面にて対応。但し、事前に都合を確認のこと。						
きょうざい 教 材	教科書 ビジネスリテラシー【社会人基礎力】 問題 ビジネスリテラシー【社会人基礎力】						
さんこうしょ 参考書	わかる 社会人基礎力 人生100年時代を生き抜く力						

科目名	ビジネスリテラシ	担当教員	佐竹
授業計画			
回数	内容	ALの形態	授業の狙い
1週目	1『社会人基礎力とは』 2『規律性』 社会人のルールや人との約束を守る力	事前学習型 & ロールプレイ & プレゼンテーション	
2週目	3『課題発見力』 現状を分析し目的や課題を明らかにする力 4『情報把握力』 自分と周囲の人々や物事との関係性を理解する力		
3週目	5『計画力』 課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する力 6『ストレスコントロール力』 ストレスの発生源に対応する力		
4週目	7『創造力』 新しい価値を生み出す力 8『発信力』 自分の意見をわかりやすく伝える力		
5週目	9『傾聴力』 相手の意見を丁寧に聴く力 10『実行力』 目標を設定し確実に行動する力		
6週目	11『柔軟性』 意見の違いや立場の違いを理解する力 12『働きかけ力』 他人に働きかけ、巻き込む力		
7週目	総復習（試験対策）		
8週目	定期試験		知識の定着確認
9週目	定期試験の振り返り		
アクティブラーニングの類型 事前学習型授業：教科書／参考書等により講義部分を授業外に事前学習させた上で、授業内でその事前学習にもとづく演習をおこなわせる方法			

令和 7 年度シラバス

				担当教員		実務経験	
				佐竹 真彰		○	
対象学科	□IG □AI □GS ■BD □GB □IL						
科目名	ビジネスデザイン						
年次	1 年	開講期	第 2 期	区分	■必修□選択□必選	授業時数	36 時間
授業到達目標	【最終期授業の到達目標】 ビジネスとDXの歴史と最新トレンドを体系的に学び、本質と今後の向かう方向をデザインしていきたい。 【当期授業の到達目標】 デジタル (DX) ビジネスを理解し、歴史と最新のトレンドを深く理解してもらいたい。 また、これからの時代に創出されるビジネスのデザインができればより望ましい。						
授業概要	DXビジネスとデザインをつないだデザイン思考プロセス、マインドスタンス、観察・分析力・課題解決力、ビジネスデザインプロセスをもとに、講義・実習にて理解し、身につける。						
授業の運営方法	例題、課題を中心に授業を進め、必要な考え方でツール活用しながら、解決策を提示する。問題と解決策を説明をしたのち、学生はプレゼンした資料を参照しながら深層理解と定着授業を進めていく。						
担当教員からのメッセージ	異なる事業（ビジネス）形態を理解し、どのような状態で経済活動が回っているのかの理解を深めてほしい。身の回りの活動が結びついていて、身近に起きていることを俯瞰して見られるビジョンも養ってもらいたい。						
理解度テスト、課題	毎回Formsによる確認テストを実施する。						
定期試験	【受験資格】 出席率70%以上の学生 【試験方法】 「筆記試験」または「フォームによる試験」						
成績評価の方法・基準	本校の成績評価基準に基づき、到達目標達成度を次の方法で評価する。 - 定期試験 50% - 平常点（授業態度や演習への取り組み） 10% - 理解度テスト 40%						
オフィスアワー	放課後、メールベースあるいは対面にて対応。但し、事前に都合を確認のこと。						
教材	01_今すぐ知りたいDXの基礎（日経クロステック）						
参考書	01_今すぐ知りたいDXの基礎（日経クロステック） 02_図解でコレ1枚でわかる最新ITトレンド（技術評論社）						

科目名	ビジネスデザイン	担当教員	佐竹
授業計画			
回数	内容	ALの形態	授業の狙い
1週目	01_「DXとは何か」 デジタルで変革して圧倒的に差をつける	事前学習型 調査学習	
2週目	01_「DXで何が起こっているのか」 GAFAは世界を変えた デジタルに強い商品、サービス		
3週目	01_「DXに欠かせない技術とは何か」 AI・IOT・クラウドが3種の神器		
4週目	01_「DXをどう進めるのか」 専門人材・専門組織、適切な方法		
5週目	01_「いつからDXが始まったのか」 歴史、ブーム		
6週目	01_「DXに重要なのはなにか？」 ミッション、セキュリティ等		
7週目	総復習（試験対策）		
8週目	定期試験		知識の定着確認
9週目	定期試験の振り返り		

れいわ ねんど 令和 7 年度シラバス				たんとうきょういん 担当教員		じつむけいけん 実務経験	
				佐藤 宏紀		○	
たいしょうがつか 対 象 学 科	□IG □AI □GS ■BD □GB □IL						
かもくめい 科目名	コミュニケーション技法 I						
ねん じ 年 次	1 年	かいこう き 開講期	だい 3 き 第 3 期	くぶん 区分	■必修□選択□必選	じゅぎょう じすう 授 業 時 数	36 時間
じゅぎょう 授 業 とうたつもくひょう 到達目標	【最終期授業の到達目標】 たいじん す きる 対人スキル、チームビルディング、人間心理の理解、異文化コミュニケーションの取得 【当期授業の到達目標】 たいじん 対人スキル、チームビルディング、人間心理の理解、異文化コミュニケーションの取得						
じゅぎょうがいよう 授業概要	たいじん す きる 対人スキル、チームビルディング、人間心理の理解、異文化コミュニケーション、 おんれあいん コミュニケーション、メタバースコミュニケーションを理解し、活用するスキル を身につける。						
じゅぎょう 授業の うんえいほうほう 運営方法	コミュニケーションを通じて、具体的に段階的に解説していく。 ものごと えんかつ すす めて しゅだん 物事を円滑に進めていく手段として、例題と問題で考えながら実践していく。						
たんとうきょういん 担当教員 からの メッセージ	システム開発やビジネスシーンにおいて、正確な答えを導き出すために必要な要素を網羅しながらも、それらが重複しないようにする考え方は重要です。 コミュニケーションを活用した問題解決方法を理解して、活用できるようになりましょう。						
り かい ど 理解度 て す と かだい テスト、課題	まいかい Forms 毎回Formsによる確認テストを実施する。						
ていきしけん 定期試験	【受験資格】出席率70%以上の学生 【試験方法】フォームによる試験						
せいせきひょうか 成績評価の ほうほう きじゆん 方法・基準	ほんこう せいせきひょうかきじゆん 本校の成績評価基準に基づき、到達目標達成度を次の方法で評価する。 ・定期試験 50% ・平常点（授業態度や演習への取り組み）10% ・理解度テスト 40%						
オフィス アワー	ほうかいご め ー る ベ ー す 放課後、メールベースあるいは対面にて対応。但し、事前に都合を確認のこと。						
きょう ざい 教 材	クラスルームに配布する電子テキスト						
さんこうしよ 参考書	● 自分を大きく見せる話し方 コミュニケーション技法 編著 株式会社ウイネット プレゼンテーション学研究会 発行 ウイネット ● 豊かな表現力を身につける プレゼンテーション技法 編著株式会社ウイネット プレゼンテーション学研究会 発行 ウイネット ● コミュニケーション検定 初級 公式ガイドブック&問題集						

科目名	コミュニケーション技法 I	担当教員	佐藤
授 業 計 画			
回数	内容	ALの形態	授業の狙い
1週目	自己紹介をしてみよう 第1章 コミュニケーションの基本を知ろう	反転授業 グループワーク	このコミュニケーションの技術を具体的に段階的に解説していく。 例題と問題で考えながら進めていく。
2週目	第2章 きれいな発声・発音を身につけよう	反転授業 ロールプレイ	
3週目	第3章 正しい日本語を身につけよう	反転授業 グループワーク	
4週目	第4章 話すときの心構えを理解しよう	反転授業 グループワーク	
5週目	第5章 効果的な話し方を身につけよう	反転授業 グループワーク	
6週目	第6章 効果的な表現力を身につけよう	反転授業 グループワーク	
7週目	総復習(定期試験対策)	反転授業	
8週目	定期試験		知識の定着確認
9週目	定期試験の振り返り		

目次

■序章 コミュニケーションしてみよう

■第一部/話し上手を目指そう

第1章 コミュニケーションの基本を知ろう

第2章 きれいな発声・発音を身につけよう

第3章 正しい日本語を身につけよう

第4章 話すときの心構えを理解しよう

第5章 効果的な話し方を身につけよう

第6章 効果的な表現力を身につけよう

第一部 総合演習

■第二部/聞き上手を目指そう

第1章 聞くことの重要性

第2章 各種コミュニケーション場面とポイント

目次

第1章 ワークショップで学ぶためのルール

第2章 コミュニケーションの基礎知識

第3章 意見を出すための基礎技術

第4章 プレゼンテーションツールの技術

第5章 ビジネスコミュニケーションの技術

第6章 論理的思考の基礎

令和 7 年度シラバス

				担当教員	実務経験
				佐藤 宏紀	○
対象学科	□IG □AI □GS ■BD □GB □IL				
科目名	デジタルリテラシ				
年次	1 年	開講期	第 1 期	区分	必修口選択口必選 授業時数
					72 時間
授業 到達目標	【最終期授業の到達目標】 パソコン使い方や入力力の基本に関する講義及び、実習を行う。 Officeソフト（Word・Excel・PowerPoint）について講義及び実習を行う。 【当期授業の到達目標】 パソコンの操作、Officeソフト（Word・Excel・PowerPoint）を使いこなせるようになる。				
授業概要	Microsoft365、Teams、Word、Excel、PowerPoint、グループウェアを身につけます。				
授業の 運営方法	各週の授業内容における重要事項・ポイントに焦点を当てた演習中心の授業形式。				
担当教員 からの メッセージ	各週の授業内容における重要事項・ポイントを反復練習し、体感しながら、経験を積んでもらいます。				
理解度 テスト、課題	毎回Formsによる確認テストを実施する。 課題を与え、ファイル作成し、提出してもらいます。				
定期試験	【受験資格】出席率70%以上の学生 【試験方法】フォームによる試験				
成績評価の 方法・基準	本校の成績評価基準に基づき、到達目標達成度を次の方法で評価する。 - 定期試験 50% - 平常点（授業態度や演習への取り組み）10% - 理解度テスト 40%				
オフィス アワー	放課後、メールベースあるいは対面にて対応。但し、事前に都合を確認のこと。				
教材	クラスルームに配布する電子テキスト				
参考書	01_30時間でマスター Word2019 02_30時間でマスター Excel2019 03_30時間でマスター PowerPoint2019 04_MicrosoftTeams使い方マニュアルPC編				

科目名	デジタルリテラシ	担当教員	佐藤
授業計画			
回数	内容	ALの形態	授業の狙い
1週目	Windows11の基礎、Word入門、Wordの基礎、Wordの活用_01 Excelの基礎知識、Excel入門、ワークシートの活用 (1)	事前学習型 授業	ワードの基本事項を身につける Excelの基本事項を身につける PowerPointの基本事項を身につける
2週目	Wordの応用、Wordとインターネット、Wordを用いたDTP_01 ワークシートの活用 (2)、グラフ (1)	事前学習型 授業	
3週目	グラフ (2)、データベース_02 プレゼンテーションとは_03	事前学習型 授業	
4週目	データベース、Excelの応用_02 PowerPointを使ったプレゼンテーション資料の作成_03	事前学習型 授業	
5週目	Excelの応用_02 プレゼンテーションのテクニック_03	事前学習型 授業	
6週目	プレゼンテーションの実施と反省_03 Microsoft Teamsとは、チームの管理、メンバーの管理 (所有者向け)_04	事前学習型 授業	
7週目	総復習(定期試験対策)	事前学習型 授業	
8週目	定期試験		知識の定着確認
9週目	定期試験の振り返り		
アクティブラーニングの類型 ・調査学習…学生が与えられたテーマに対して、授業中や授業外学習において自ら調べ物をさせる方法。			

令和 7 年度シラバス

				担当教員		実務経験	
				影山 正幸		○	
対象学科	□IG □AI □GS ■BD □GB □IL						
科目名	課題解決思考法						
年次	1 年	開講期	第 3・4 期	区分	必修 ■必修□選択□必選	授業時数	72 時間
授業 到達目標	【最終期授業の到達目標】 事例を活用した問題解決方法を実践と理解をする 【当期授業の到達目標】 論理的にフレームを活用した問題解決方法を実践と理解をする						
授業概要	物事を考えるとき、正確な答えを導き出すために必要な要素を網羅しながらも、それらが重複しないようにする考え方を理解し、活用するスキルを身につける。						
授業の 運営方法	フレームを活用し、企業が抱える問題を事例問題として解決していく。 物事を「モレなく、ダブリなく」考えるための手段を例題と問題で考えながら進めていく。						
担当教員 からの メッセージ	システム開発やビジネスシーンにおいて、正確な答えを導き出すために必要な要素を網羅しながらも、それらが重複しないようにする考え方は重要です。 論理的にフレームを活用した問題解決方法を理解して、活用できるようになりましょう。						
理解度 テスト、課題	毎回Formsによる確認テストやケーススタディー問題を実施する。 毎授業問題をプレゼン形式で発表してもらう。						
定期試験	【受験資格】 出席率70%以上の学生 【試験方法】 フォームによる試験						
成績評価の 方法・基準	本校の成績評価基準に基づき、到達目標達成度を次の方法で評価する。 ・定期試験 50% ・平常点（授業態度や演習への取り組み）10% ・理解度テスト 40%						
オフィス アワー	放課後、メールベースあるいは対面にて対応。但し、事前に都合を確認のこと。						
教材	クラスルームに配布する電子テキスト						
参考書	「実況」ロジカルシンキング教室 - グロービスMBA 集中講義他						

科目名	課題解決思考法	担当教員	影山
授業計画			
回数	内容	ALの形態	授業の狙い
1週目	ロジカルシンキングとは MECE（ミーシー）とは PDCAサイクルを使った問題	調査学習 プレゼンテーション	ロジカルシンキングを具体的に段階的に解説していく。 物事を「モレなく、ダブリなく」考えるための手段を例題と問題で考えながら進めていく。
2週目	ECRSとは ECRSを使った問題	調査学習 プレゼンテーション	
3週目	KPTとは KPTを使った問題	調査学習 プレゼンテーション	
4週目	マンダラートとは マトリクス図・表を使った問題	調査学習 プレゼンテーション	
5週目	ベン図とは ベン図を使った問題	調査学習 プレゼンテーション	
6週目	ロジックツリーとは ロジックツリーを使った問題	調査学習 プレゼンテーション	
7週目	総復習（定期試験対策）	調査学習	
8週目	定期試験		知識の定着確認
9週目	定期試験の振り返り		
アクティブラーニングの類型 ・調査学習…学生が与えられたテーマに対して、授業中や授業外学習において自ら調べ物をさせる方法。			

科目名	課題解決思考法	担当教員	佐竹
授業計画			
回数	内容	ALの形態	授業の狙い
10週目	3Cぶんせき 3C分析とは 3Cぶんせき つかった もんだい 3C分析を使った問題	ちょうさがくしゅう 調査学習 プレゼンテーション	ロジカルシンキングを ぐたいてき だんかいてき かいせつ 具体的に段階的に解説し ていく。 ものごと 物事を「モレなく、ダブ リなく」考えるための 手段を例題と問題で考え ながら進めていく。
11週目	4Pぶんせき 4P分析とは 4Pぶんせき つかった もんだい 4P分析を使った問題	ちょうさがくしゅう 調査学習 プレゼンテーション	
12週目	SWOTぶんせき SWOT分析とは SWOTぶんせき つかった もんだい SWOT分析を使った問題	ちょうさがくしゅう 調査学習 プレゼンテーション	
13週目	SMART ほうそく (もくてき たっせい ふれーむ わーく) SMARTの法則【目的達成のフレームワーク】 SMARTほうそく つかった ぶんせき もんだい SMART法則を使った分析の問題	ちょうさがくしゅう 調査学習 プレゼンテーション	
14週目		ちょうさがくしゅう 調査学習 プレゼンテーション	
15週目		ちょうさがくしゅう 調査学習 プレゼンテーション	
16週目	そうふくしゅう ていきしけんたいさく 総復習(定期試験対策)	ちょうさがくしゅう 調査学習	ちしき ていちゃくかくにん 知識の定着確認
17週目	ていきしけん 定期試験		
18週目	ていきしけん ふ かえ 定期試験の振り返り		
アクティブラーニングの類型 ・調査学習…学生が与えられたテーマに対して、授業中や授業外学習において自ら調べ物をさせる方法。 ・プレゼンテーション…学生がパワーポイント等を用いて発表資料を作成し、他の学生の前で自ら発表を行わせる方法。			

令和 7 年度シラバス

				担当教員	実務経験
				佐藤 宏紀	○
対象学科	□IG □AI □GS ■BD □GB □IL				
科目名	ITパスポート試験科目対策Ⅰ				
年次	1 年	開講期	第1期	区分	必修選択必選 ■必修□選択□必選
授業到達目標	【最終期授業の到達目標】 業務やビジネスにITを活かせる人材を創出するために必要な知識、技能、活用能力を身につける。ITパスポート試験の資格を取得し、ITに関する基礎知識を習得する。 【当期授業の到達目標】 ITに関する基礎知識を身につける。ITパスポート試験の過去問題を解くことができる。				
授業概要	企業と法律、経営戦略、システム戦略、開発技術、プロジェクトマネジメント、サービスマネジメントを理解します。				
授業の運営方法	授業では、重要項目の説明とともに、過去問題の解説を実施し、理解度テストなどにより理解を深め、知識の定着をはかりITパスポート試験合格レベルまで引き上げる。				
担当教員からのメッセージ	この科目はITパスポート試験合格のために必須であるだけでなく、社会に出て仕事をする上ですぐに必要となる知識を幅広く学ぶものです。今後学習を進めていく上で、必須の知識となりますので、体系的に理解しましょう。				
理解度テスト、課題	毎回Formsによる確認テストを実施する。				
定期試験	【受験資格】 出席率70%以上の学生 【試験方法】 フォームによる試験				
成績評価の方法・基準	本校の成績評価基準に基づき、到達目標達成度を次の方法で評価する。 - 定期試験 50% - 平常点（授業態度や演習への取り組み） 10% - 理解度テスト 40%				
オフィスアワー	放課後、メールベースあるいは対面にて対応。但し、事前に都合を確認のこと。				
教材	クラスルームに配布する電子テキスト				
参考書	ITパスポート合格教本 技術評論社				

科目名	ITパスポート試験科目対策Ⅰ	担当教員	佐藤
授業計画			
回数	内容	ALの形態	授業の狙い
1週目	企業活動① ・会社のお金にまつわるあれこれ ・会社の組織と責任	事前学習型 授業	ITを使う企業の目的やしくみを知る。
2週目	企業活動② ・新しい必須科目「データサイエンスとAI」 ・社会人ならおさえないルール	事前学習型 授業	
3週目	経営戦略① ・会社の現状を分析しよう ・強みをつくる戦略	事前学習型 授業	会社内外の現状を中心に学習し、ITの力を効率的に活用できる基礎を身につける。
4週目	経営戦略② ・ITで変わっていく世の中 ・企業が業務に使うシステム	事前学習型 授業	
5週目	システム開発① ・システムを作るときの進め方を考える ・プロジェクトマネジメントとは何か？	事前学習型 授業	システム開発の方法論を学び、多くの人が協力してモノを作るときの知識間のつながりや流れを理解する。
6週目	システム開発② ・システムは開発するだけじゃダメ	事前学習型 授業	
7週目	総復習(定期試験対策)	事前学習型 授業	学習してきたことの理解度を確認する。
8週目	定期試験		知識の定着確認
9週目	定期試験の振り返り		

授 業 計 画			
回数	内容	ALの形態	授業の狙い
10週目	ITパスポート試験過去問題演習	事前学習型 授業	過去問題演習を通じて、 試験対策を実施する。
11週目	ITパスポート試験過去問題演習	事前学習型 授業	
12週目	ITパスポート試験過去問題演習	事前学習型 授業	
13週目	ITパスポート試験過去問題演習	事前学習型 授業	
14週目	ITパスポート試験過去問題演習	事前学習型 授業	
15週目	ITパスポート試験過去問題演習	事前学習型 授業	
16週目	総復習(定期試験対策)	事前学習型 授業	
17週目	定期試験		知識の定着確認
18週目	定期試験の振り返り		

令和 7 年度シラバス

				担当教員		実務経験	
				佐藤 宏紀		○	
対象学科	□IG □AI □GS ■BD □GB □IL						
科目名	ITパスポート試験科目対策Ⅱ						
年次	1 年	開講期	第1期	区分	■必修□選択□必選	授業時数	72 時間
授業到達目標	【最終期授業の到達目標】 業務やビジネスにITを活かせる人材を創出するために必要な知識、技能、活用能力を身につける。ITパスポート試験の資格を取得し、ITに関する基礎知識を習得する。 【当期授業の到達目標】 ITに関する基礎知識を身につける。ITパスポート試験の過去問題を解くことができる。						
授業概要	基礎理論、コンピュータシステム、情報デザイン、情報メディア、データベース、ネットワーク、セキュリティを理解します。						
授業の運営方法	授業では、重要項目の説明とともに、過去問題の解説を実施し、理解度テストなどにより理解を深め、知識の定着をはかりITパスポート試験合格レベルまで引き上げる。						
担当教員からのメッセージ	この科目はITパスポート試験合格のために必須であるだけでなく、社会に出て仕事をする上ですぐに必要となる知識を幅広く学ぶものです。今後学習を進めていく上で、必須の知識となりますので、体系的に理解しましょう。						
理解度テスト、課題	まいかいForms 毎回Formsによる確認テストを実施する。						
定期試験	【受験資格】出席率70%以上の学生 【試験方法】フォームによる試験						
成績評価の方法・基準	本校の成績評価基準に基づき、到達目標達成度を次の方法で評価する。 - 定期試験 50% - 平常点（授業態度や演習への取り組み）10% - 理解度テスト 40%						
オフィスアワー	放課後、メールベースあるいは対面にて対応。但し、事前に都合を確認のこと。						
教材	クラスルームに配布する電子テキスト						
参考書	ITパスポート合格教本 技術評論社						

科目名	ITパスポート試験科目対策Ⅱ	担当教員	佐藤
授業計画			
回数	内容	ALの形態	授業の狙い
1週目	コンピュータのしくみ① ・コンピュータにまつわる計算を攻略しよう ・動画も音声も扱えれば、仕事も楽しい？	事前学習型 授業	仕事で使うコンピュータ特有の考え方に馴染む。
2週目	コンピュータのしくみ② ・コンピュータへの指示の出し方を考える ・コンピュータはなにで構成されている？ ・仕事ならではのコンピュータの特徴	事前学習型 授業	
3週目	ネットワークとセキュリティ① ・ネットワークの基本 ・ネットワークを支える下位層 ・身近な上位層とそのほか関連知識	事前学習型 授業	ネットワークとセキュリティに対する知識を獲得する。
4週目	ネットワークとセキュリティ② ・セキュリティの基本 ・具体的なセキュリティ対策（その1） ・具体的なセキュリティ対策（その2） ・暗号化とデジタル化	事前学習型 授業	
5週目	データベースと表計算ソフト① ・データベースはシステムの基本 ・もしものためのバックアップ	事前学習型 授業	データベースや表計算ソフトに対する知識を獲得する。
6週目	データベースと表計算ソフト② ・表計算ソフトでらくらく計算	事前学習型 授業	
7週目	総復習(定期試験対策)	事前学習型 授業	テクノロジー系の知識と理解を確認する。
8週目	定期試験		知識の定着確認
9週目	定期試験の振り返り		

科目名	ITパスポート試験科目対策Ⅱ	担当教員	影山
授業計画			
回数	内容	ALの形態	授業の狙い
10週目	ITパスポート試験過去問題演習	事前学習型 授業	過去問題演習を通じて、試験対策を実施する。
11週目	ITパスポート試験過去問題演習	事前学習型 授業	
12週目	ITパスポート試験過去問題演習	事前学習型 授業	
13週目	ITパスポート試験過去問題演習	事前学習型 授業	
14週目	ITパスポート試験過去問題演習	事前学習型 授業	
15週目	ITパスポート試験過去問題演習	事前学習型 授業	
16週目	総復習(定期試験対策)	事前学習型 授業	知識の定着確認
17週目	定期試験		
18週目	定期試験の振り返り		

令和 7 年度シラバス

				担当教員		実務経験	
				佐藤 宏紀		○	
対象学科	□IG □AI □GS ■BD □GB □IL						
科目名	ビジネス表計算						
年次	1 年	開講期	第 3 期	区分	■必修□選択□必選	授業時数	72 時間
授業到達目標	【最終期授業の到達目標】 Excelを活用し、ビジネスオフィス業務や、分析課題を自分で行える技術を習得し、実践できる。 【当期授業の到達目標】 実践的な課題を出題し、ビジネス形式をイメージしながら進めていきます。						
授業概要	グラフ・図表の見方、Excel/マクロを身につけます。						
授業の運営方法	考えるための手段を例題と問題で考えながら進めていく。						
担当教員からのメッセージ	実践的な課題や背景をイメージし、理解を深めながら、活用できるようになりましょう。						
理解度テスト、課題	毎回Formsによる確認テストを実施する。						
定期試験	【受験資格】 出席率70%以上の学生 【試験方法】 フォームによる試験						
成績評価の方法・基準	本校の成績評価基準に基づき、到達目標達成度を次の方法で評価する。 - 定期試験 50% - 平常点（授業態度や演習への取り組み） 10% - 理解度テスト 40%						
オフィスアワー	放課後、メールベースあるいは対面にて対応。但し、事前に都合を確認のこと。						
教材	クラスルームに配布する電子テキスト						
参考書	01_Excelデータ分析基礎（Excelマスター演習問題集【基礎編】） 02_Excelデータ分析応用等（統計学の基礎から学ぶExcelデータ分析の全知識）						

科目名	ビジネス表計算	担当教員	佐藤
授業計画			
回数	内容	ALの形態	授業の狙い
1週目	データの入力と編集	調査学習 事前学習型 授業	
2週目	表の作成と編集	調査学習 事前学習型 授業	
3週目	数式と関数 Part. 1	調査学習 事前学習型 授業	
4週目	印刷、グラフ	調査学習 事前学習型 授業	
5週目	データベース	調査学習 事前学習型 授業	
6週目	数式と関数 Part. 2、ワークシート連携	調査学習 事前学習型 授業	
7週目	総復習(定期試験対策)	調査学習 事前学習型 授業	
8週目	定期試験		知識の定着確認
9週目	定期試験の振り返り		

科目名	ビジネス 表 計算	担当教員	佐竹
授 業 計 画			
回数	内容	ALの形態	授業の狙い
10週目	データ分析 データ分析の全体像を知ろう(11-40)	調査学習 事前学習型 授業	
11週目	データ傾向 基本統計でデータの傾向をつかもう (41-74)	調査学習 事前学習型 授業	
12週目	データ可視化 実務ですぐ使えるデータ可視化をマスターする (75-120)	調査学習 事前学習型 授業	
13週目	仮説結論 仮説が正しいかどうか仮説検定で結論を出す (121-176)	調査学習 事前学習型 授業	
14週目	データ前処理を理解する (177-204)	調査学習 事前学習型 授業	
15週目	線形回帰モデルを活用して売上アップを図る (205-238)	調査学習 事前学習型 授業	
16週目	総復習(定期試験対策)	調査学習 事前学習型 授業	知識の定着確認
17週目	定期試験		
18週目	定期試験の振り返り		

令和 7 年度シラバス

れいわ ねんど 令和 7 年度シラバス				たんとうきょういん 担当教員		じつむけいけん 実務経験	
				佐藤 宏紀		○	
たいしょうがつか 対 象 学 科	□IG □AI □GS ■BD □GB □IL						
かもくめい 科 目 名	ビジネスプロセスマネジメント概説						
ねん じ 年 次	1 年	かいこう き 開講期	だい 2 き 第 2 期	くぶん 区 分	ひつしゅう せんたく ひつせん ■必修□選択□必選	じゅぎょう じすう 授 業 時 数	72 じかん 72 時間
じゅぎょう 授 業 とうたつもくひょう 到達目標	【最終期授 業の到達目 標】 ビジネスプロセスマネジメントの活用法を理解し、ケーススタディで活用することができる。 【当期授 業の到達目 標】 ビジネスプロセスマネジメントの活用法を理解し、ケーススタディで活用することができる。						
じゅぎょうがいよう 授 業 概 要	ビジネスプロセスマネジメントの基礎を理解します。						
じゅぎょう 授 業 の うんえいほうほう 運 営 方 法	定量分析を主とした課題解決事例を用意し、考えるための手段を例題と問題で考えながら進めていく。						
たんとうきょういん 担 当 教 員 からの メッセー ジ	定量分析とビジネスフレームワークの活用法を理解して、ケーススタディで活用できるようになりましょう。						
りかいど 理 解 度 てすと かだい テ ス ト、課 題	まいかいForms かくにんてすと じつし 毎回Formsによる確認テストを実施する。 PowerPointかだい じつし PowerPoint課題を実施する。（フローチャート作成等）						
ていきしけん 定 期 試 験	【受験資格】出席率70%以上の学生 【試験方法】フォームによる試験						
せいせきひょうか 成 績 評 価 の ほうほう きじゆん 方 法 ・ 基 準	ほんこう せいせきひょうかきじゆん もとづき とうたつもくひょうたつせいど つぎ ほうほう ひょうか 本校の成績評価基準に基づき、到達目標達成度を次の方法で評価する。 ・定期試験 50% ・平常点（授業態度や演習への取り組み）10% ・理解度テスト 40%						
オフィス アワー	ほうかご め ー る ベ ー す 放課後、メールベースあるいは対面にて対応。但し、事前に都合を確認のこと。						
きょう ざい 教 材	クラスルームに配布する電子テキスト						
さんこうしょ 参 考 書	ビジネスフレームワーク図鑑 すぐ使える問題解決・アイデア発想ツール70						

科目名	ビジネスプロセスマネジメント概説	担当教員	佐藤
授 業 計 画			
回数	内容	ALの形態	授業の狙い
1週目	ビジネスプロセスマネジメントとは	事前学習型 授業 調査学習	ビジネスプロセスマネジメントを理解し、ビジネスプロセスモデリングで活用することで実践する力を身につける。
2週目	ビジネスプロセスマネジメント 既存の業務プロセス（業務の抽出、分析、フロー作成） 具体的方法の把握と実践（ケーススタディー）	事前学習型 授業 調査学習 グループワーク	
3週目	ビジネスプロセスマネジメント あるべき業務プロセス（R：調査、A：対策・改善、P：計画、D：実行、C：測定・評価） 具体的方法の把握と実践（ケーススタディー）	事前学習型 授業 調査学習 グループワーク	
4週目	課題事例①②「複数あるフレームから選択活用し、実施」 （課題抽出、可視化、定量分析、方向性、判断等）	事前学習型 授業 調査学習 グループワーク	
5週目	課題事例③④「複数あるフレームから選択活用し、実施」 （課題抽出、可視化、定量分析、方向性、判断等）	事前学習型 授業 調査学習 グループワーク	
6週目	課題事例⑤⑥「複数あるフレームから選択活用し、実施」 （課題抽出、可視化、定量分析、方向性、判断等）	事前学習型 授業 調査学習 グループワーク	
7週目	総復習（定期試験対策）	事前学習型 授業 調査学習	
8週目	定期試験		知識の定着確認
9週目	定期試験の振り返り		
アクティブラーニングの類型 ・事前学習型授業…教科書／参考書等（動画教材は除く）により講義部分を授業外に事前学習させた上で、授業内でその事前学習にもとづく演習を行わせる方法。 ・調査学習…学生が与えられたテーマに対して、授業中や授業外学習において自ら調べ物をさせる方法。 ・グループワーク…学生を少人数のグループに分け、与えられた課題に協同で取り組ませる方法。 2人組によるペアワークも含む。			

令和 7 年度シラバス

				担当教員 たんとくきょういん	実務経験 じつむけいけん
				佐藤 宏紀	○
対象学科 たいしょうがつか	□IG □AI □GS ■BD □GB □IL				
科目名 かものめい	ビジネスプロセスモデリング概説 がいせつ				
年次 ねんじ	1 年 ねん	開講期 かいこうき	第 3 期 だい 3 き	区分 くぶん	必修選択必修 ひつしゅうせんたくひつせん ■必修□選択□必修
					授業時数 じゅぎょうじすう
					144 時間 じかん
授業 とうたつもくひょう 到達目標	【最終期授業の到達目標】 ケーススタディによりビジネスプロセスモデリングを実践できるようになる。 【当期授業の到達目標】 ビジネスプロセスモデリングの基本を理解し目標設定や計画立案ができるようになる。				
授業概要 じゅぎょうがいよう	ビジネスプロセスモデリングを課題と実践を通しての基礎を理解します。				
授業の 運営方法 うんえいほうほう	考えるための手段を例題と問題で考えながら進めていく。				
担当教員 からの メッセージ たんとくきょういん	ビジネスプロセスモデリングの基本を理解して、ケーススタディで活用できるようになります。				
理解度 テスト、課題 りかいど	毎回Formsによる確認テストを実施する。 PowerPoint課題を実施する。（フローチャート作成等）				
定期試験 ていきしけん	【受験資格】出席率70%以上の学生 【試験方法】フォームや記述作成課題による試験				
成績評価の 方法・基準 せいせきひょうか	本校の成績評価基準に基づき、到達目標達成度を次の方法で評価する。 - 定期試験 50% - 平常点（授業態度や演習への取り組み）10% - 理解度テスト 40%				
オフィス アワー おふいす	放課後、メールベースあるいは対面にて対応。但し、事前に都合を確認のこと。				
教材 きょうざい	クラスルームに配布する電子テキスト				
参考書 さんこうしょ	プロジェクトマネジメント実践講座				

科目名	ビジネスプロセスモデリング概説	担当教員	佐藤
授業計画			
回数	内容	ALの形態	授業の狙い
1週目	問題解決能力を身につけよう①	事前学習型 授業 調査学習	
2週目	問題解決能力を身につけよう②	事前学習型 授業 調査学習 グループワーク	
3週目	問題の原因を見極め、打ち手を考える①	事前学習型 授業 調査学習 グループワーク	
4週目	問題の原因を見極め、打ち手を考える②	事前学習型 授業 調査学習 グループワーク	
5週目	目標を設定し、達成する方法を決める①	事前学習型 授業 調査学習 グループワーク	
6週目	目標を設定し、達成する方法を決める②	事前学習型 授業 調査学習 グループワーク	
7週目	総復習(定期試験対策)	事前学習型 授業 調査学習	
8週目	定期試験		知識の定着確認
9週目	定期試験の振り返り		
アクティブラーニングの類型 - 事前学習型授業…教科書／参考書等（動画教材は除く）により講義部分を授業外に事前学習させた上で、授業内でその事前学習にもとづく演習を行わせる方法。 - 調査学習…学生が与えられたテーマに対して、授業中や授業外学習において自ら調べ物をさせる方法。 - グループワーク…学生を少人数のグループに分け、与えられた課題に協同で取り組ませる方法。 2人組によるペアワークも含む。			

科目名	ビジネスプロセスモデリング概説	担当教員	影山
授業計画			
回数	内容	ALの形態	授業の狙い
10週目	まず、根拠から考える	事前学習型 授業 調査学習	
11週目	何が起きているか正しく認識する	事前学習型 授業 調査学習 グループワーク	
12週目	『数字』に仕事をさせる	事前学習型 授業 調査学習 グループワーク	
13週目	上手く『伝え』、上手く『聞く』	事前学習型 授業 調査学習 グループワーク	
14週目	コンピュータを味方にする	事前学習型 授業 調査学習 グループワーク	
15週目	わかりやすく伝える	事前学習型 授業 調査学習 グループワーク	
16週目	総復習(定期試験対策)	事前学習型 授業 調査学習	知識の定着確認
17週目	定期試験		
18週目	定期試験の振り返り		
アクティブラーニングの類型			
・事前学習型授業…教科書／参考書等（動画教材は除く）により講義部分を授業外に事前学習させた上で、授業内でその事前学習にもとづく演習を行わせる方法。			
・調査学習…学生が与えられたテーマに対して、授業中や授業外学習において自ら調べ物をさせる方法。			
・グループワーク…学生を少人数のグループに分け、与えられた課題に協同で取り組ませる方法。			
2人組によるペアワークも含む。			

令和 7 年度シラバス

				担当教員 佐藤 宏紀		実務経験 ○	
たいしょうがつか 対象学科	IG AI GS BD GB IL						
かもくめい 科目名	ノーコード開発						
ねんじ 年次	1 年	かいこうき 開講期	だい 4 き 第 4 期	くぶん 区分	ひつしゅう せんたく ひつせん ■必修□選択□必選	じゅぎょう じすう 授業時数	36 じかん 36 時間
じゅぎょう 授業 とうたつもくひょう 到達目標	さいしゅうきじゅぎょう とうたつもくひょう 【最終期授業の到達目標】 Kintoneを使用し、アプリ開発を行える状態 とうきじゅぎょう とうたつもくひょう 【当期授業の到達目標】 Kintoneを使用し、アプリ開発を行える状態						
じゅぎょうがいよう 授業概要	ノーコードによる課題解決アプリ制作を体験します。						
じゅぎょう 授業の うんえいほうほう 運営方法	かんが 考えるための手段を例題と問題で考えながら進めていく。						
たんとうきょういん 担当教員 からの メッセージ	りかい を理解して、活用できるようになりましょう。						
りかいど 理解度 てすと かい テスト、課題	まいかい Forms 毎回Formsによる確認テストを実施する。 みほん Kintone 見本をもとにKintoneを使用し、アプリの開発が出来るかテストを実施する。						
ていきしけん 定期試験	じゅけんしかく しゅつせきりつ いじょう がくせい 【受験資格】出席率70%以上の学生 しけんほうほう しけん 【試験方法】フォームによる試験						
せいせきひょうか 成績評価の ほうほう きじゅん 方法・基準	ほんこう せいせきひょうかきじゅん もとづき とうたつもくひょうたつせいど つぎ ほうほう ひょうか 本校の成績評価基準に基づき、到達目標達成度を次の方法で評価する。 ていきしけん 50% ・定期試験 50% へいじょうてん じゅぎょうたいど えんしゅう とりくみ 10% ・平常点（授業態度や演習への取り組み）10% りかいどてすと 40% ・理解度テスト 40%						
オフィス アワー	ほうかご めーるべーす たいめん たいおう ただし じぜん つごう かくにん 放課後、メールベースあるいは対面にて対応。但し、事前に都合を確認のこと。						
きょうざい 教材	はいふ でんし クラスルームに配布する電子テキスト						
さんこうしょ 参考書	01_kintone (キントーン) kintone認定 アソシエイト 試験対策テキスト 第3版 02_Googleサイト 03_ECcube 04_Canva 05_フォトピー等						

	※ ^{じょうき} 上記すべては、アプリ。		
科目名	ノーコード開発	担当教員	佐藤
授業計画			
回数	内容	ALの形態	授業の狙い
1週目	kintoneでのアプリの作成(2-14) レコードの操作 (15-22)	調査学習	
2週目	コメントや履歴の利用 (23-27) 一覧の作成と設定 (28-37)	調査学習	
3週目	グラフの作成と設定 (38-51) レコード内容の書き直しと読み込み (52-60) 練習問題 第1章	調査学習	
4週目	フォーム (69-72) フィールドの種類 (73-95)	調査学習	
5週目	テーブル (96-100) 自動計算 (101-110)	調査学習	
6週目	ルックアップ (111-116) 関連レコード一覧 (117-121) フィールドに関する制限 (122) 練習問題 第2章	調査学習	
7週目	総復習(定期試験対策)	調査学習	
8週目	定期試験		知識の定着確認
9週目	定期試験の振り返り		
アクティブラーニングの類型 ・調査学習…学生が与えられたテーマに対して、授業中や授業外学習において自ら調べ物をさせる方法。			

令和 7 年度シラバス

				担当教員		実務経験	
				佐藤 宏紀		○	
対象学科	□IG □AI □GS ■BD □GB □IL						
科目名	検定試験対策						
年次	1 年	開講期	第 3 期	区分	必修 □必修■選択□必選	授業時数	36 時間
授業到達目標	【最終期授業の到達目標】 【当期授業の到達目標】						
授業概要	検定試験過去問題演習、対策模試を行います。						
授業の運営方法	考えるための手段を例題と問題で考えながら進めていく。 過去の問題を項目別及び、検定試験形式にて反復学習していきます。						
担当教員からのメッセージ	問題の本質と検定の傾向を理解して、検定試験にて知識を活用できるようになりましょう。 合格目指して進んでいきましょう。						
理解度テスト、課題	毎回Formsによる確認テストを実施する。						
定期試験	【受験資格】出席率70%以上の学生 【試験方法】フォームによる試験						
成績評価の方法・基準	本校の成績評価基準に基づき、到達目標達成度を次の方法で評価する。 - 定期試験 50% - 平常点（授業態度や演習への取り組み）10% - 理解度テスト 40%						
オフィスアワー	放課後、メールベースあるいは対面にて対応。但し、事前に都合を確認のこと。						
教材	クラスルームに配布する電子テキスト						
参考書	令和5年【上半期】ITパスポート パーフェクトラニング過去問題 技術評論社						

科目名	検定試験対策	担当教員	佐藤
授業計画			
回数	内容	ALの形態	授業の狙い
1週目	ITパスポート総合問題 理解度総合問題_1	事前学習型 授業 調査学習	
2週目	ITパスポート総合問題 理解度総合問題_2	事前学習型 授業 調査学習	
3週目	ITパスポート総合問題 理解度総合問題_3	事前学習型 授業 調査学習	
4週目	ITパスポート総合問題 理解度総合問題_4	事前学習型 授業 調査学習	
5週目	ITパスポート総合問題 理解度総合問題_5	事前学習型 授業 調査学習	
6週目	ITパスポート総合問題 理解度総合問題_6	事前学習型 授業 調査学習	
7週目	総復習(定期試験対策)	事前学習型 授業 調査学習	
8週目	定期試験		知識の定着確認
9週目	定期試験の振り返り		

科目名	検定試験対策	担当教員	佐竹
授業計画			
回数	内容	ALの形態	授業の狙い
10週目	ITパスポート総合問題 理解度総合問題_7	事前学習型 授業 調査学習	
11週目	ITパスポート総合問題 理解度総合問題_8	事前学習型 授業 調査学習	
12週目	ITパスポート総合問題 理解度総合問題_9	事前学習型 授業 調査学習	
13週目	ITパスポート総合問題 理解度総合問題_10	事前学習型 授業 調査学習	
14週目	ITパスポート総合問題 理解度総合問題_11	事前学習型 授業 調査学習	
15週目	ITパスポート総合問題 理解度総合問題_12	事前学習型 授業 調査学習	
16週目	総復習(定期試験対策)	事前学習型 授業 調査学習	
17週目	定期試験		知識の定着確認
18週目	定期試験の振り返り		

令和 7 年度シラバス

				担当教員		実務経験	
				佐竹 真彰		○	
対象学科	□IG □AI □GS ■BD □GB □IL						
科目名	基礎ゼミ（週1）						
年次	1 年	開講期	第 1 期	区分	■必修□選択□必選	授業時数	36 時間
授業到達目標	【最終期授業の到達目標】 ホームルーム 【当期授業の到達目標】 ホームルーム						
授業概要	ホームルーム						
授業の運営方法	考えるための手段を例題と問題で考えながら進めていく。						
担当教員からのメッセージ	理解して、活用できるようになりましょう。						
理解度テスト、課題	毎回Formsによる確認テストを実施する。						
定期試験	【受験資格】出席率70%以上の学生 【試験方法】フォームによる試験						
成績評価の方法・基準	本校の成績評価基準に基づき、到達目標達成度を次の方法で評価する。 - 定期試験 50% - 平常点（授業態度や演習への取り組み）10% - 理解度テスト 40%						
オフィスアワー	放課後、メールベースあるいは対面にて対応。但し、事前に都合を確認のこと。						
教材	クラスルームに配布する電子テキスト						
参考書							

科目名	基礎ゼミa	担当教員	佐竹
授業計画			
回数	内容	ALの形態	授業の狙い
1週目	学生生活について	事前学習型 授業 調査学習	
2週目	個人面談と学習方法について	事前学習型 授業 調査学習	
3週目	ホームルーム グループディスカッション、連絡事項	事前学習型 授業 調査学習	
4週目	ホームルーム グループディスカッション、連絡事項	事前学習型 授業 調査学習	
5週目	ホームルーム グループディスカッション、連絡事項	事前学習型 授業 調査学習	
6週目	ホームルーム グループディスカッション、連絡事項	事前学習型 授業 調査学習	
7週目	総復習(定期試験対策)	事前学習型 授業 調査学習	
8週目	定期試験		知識の定着確認
9週目	定期試験の振り返り		

科目名	基礎ゼミb	担当教員	佐竹
授業計画			
回数	内容	ALの形態	授業の狙い
10週目	休みの過ごし方、注意点 ホームルーム グループディスカッション、連絡事項	事前学習型 授業 調査学習	
11週目	ホームルーム グループディスカッション、連絡事項	事前学習型 授業 調査学習	
12週目	ホームルーム グループディスカッション、連絡事項	事前学習型 授業 調査学習	
13週目	ホームルーム グループディスカッション、連絡事項	事前学習型 授業 調査学習	
14週目	ホームルーム グループディスカッション、連絡事項	事前学習型 授業 調査学習	
15週目	ホームルーム グループディスカッション、連絡事項	事前学習型 授業 調査学習	
16週目	総復習(定期試験対策)	事前学習型 授業 調査学習	
17週目	定期試験		知識の定着確認
18週目	定期試験の振り返り		

科目名	基礎ゼミc	担当教員	佐竹
授業計画			
回数	内容	ALの形態	授業の狙い
19週目	休みの過ごし方、注意点 ホームルーム グループディスカッション、連絡事項	事前学習型 授業 調査学習	
20週目	ホームルーム グループディスカッション、連絡事項	事前学習型 授業 調査学習	
21週目	ホームルーム グループディスカッション、連絡事項	事前学習型 授業 調査学習	
22週目	ホームルーム グループディスカッション、連絡事項	事前学習型 授業 調査学習	
23週目	ホームルーム グループディスカッション、連絡事項	事前学習型 授業 調査学習	
24週目	ホームルーム グループディスカッション、連絡事項	事前学習型 授業 調査学習	
25週目	総復習(定期試験対策)	事前学習型 授業 調査学習	
26週目	定期試験		知識の定着確認
27週目	定期試験の振り返り		

科目名	基礎ゼミd	担当教員	佐竹
授業計画			
回数	内容	ALの形態	授業の狙い
28週目	休みの過ごし方、注意点 ホームルーム グループディスカッション、連絡事項	事前学習型 授業 調査学習	
29週目	ホームルーム グループディスカッション、連絡事項	事前学習型 授業 調査学習	
30週目	ホームルーム グループディスカッション、連絡事項	事前学習型 授業 調査学習	
31週目	ホームルーム グループディスカッション、連絡事項	事前学習型 授業 調査学習	
32週目	ホームルーム グループディスカッション、連絡事項	事前学習型 授業 調査学習	
33週目	ホームルーム グループディスカッション、連絡事項	事前学習型 授業 調査学習	
34週目	総復習(定期試験対策)	事前学習型 授業 調査学習	
35週目	定期試験		知識の定着確認
36週目	定期試験の振り返り		